

学术交流レポート

—2018—

桐蔭横浜大学

学 長 挨 拶



桐蔭横浜大学
学長 佐藤 宣 践

言うまでもなく大学の社会に対する大きな責務は、教育と研究ということになります。教育と研究を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性、そして主体性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となつて、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献ができるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学への期待に応え、大学の存在感を一段と大きいものとするに連なるでしょう。

「学術交流レポート2018」は、単年間の専任教員による教育活動と学術研究をまとめたものです。本学は、法学、医用工学、スポーツ健康政策学の3学部体制となり、また、3つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されております。こうした進展のなかで、高等教育機関の総合的体制が整備されつつあると自負しております。そこから生まれるところの教育活動学術研究の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、学の内外にわたり幅広い知的交流の機会が増大し、そのプロセスの中で、教育と研究の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

学術交流レポート2018 目次

■ 学長挨拶	・ ・ ・ ・ ・	1	
■ 建学の精神	・ ・ ・ ・ ・	3	
■ 大学組織図	・ ・ ・ ・ ・	4	
■ 法学部			
法律学科	・ ・ ・ ・ ・	5	～ 40
■ 医用工学部			
生命医工学科	・ ・ ・ ・ ・	41	～ 68
臨床工学科	・ ・ ・ ・ ・	69	～ 109
■ スポーツ健康政策学部			
スポーツ教育学科	・ ・ ・ ・ ・	110	～ 134
スポーツテクノロジー学科	・ ・ ・ ・ ・	135	～ 153
スポーツ健康政策学科	・ ・ ・ ・ ・	154	～ 173
■ 法学研究科	・ ・ ・ ・ ・	174	～ 179
■ 工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	・ ・ ・ ・ ・	180	～ 186
■ スポーツ科学研究科	・ ・ ・ ・ ・	187	～ 197
■ 法務研究科 法務専攻	・ ・ ・ ・ ・	198	～ 209
■ 先端医用工学センター	・ ・ ・ ・ ・	210	～ 210
■ 公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	・ ・ ・ ・ ・	211	～ 220

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

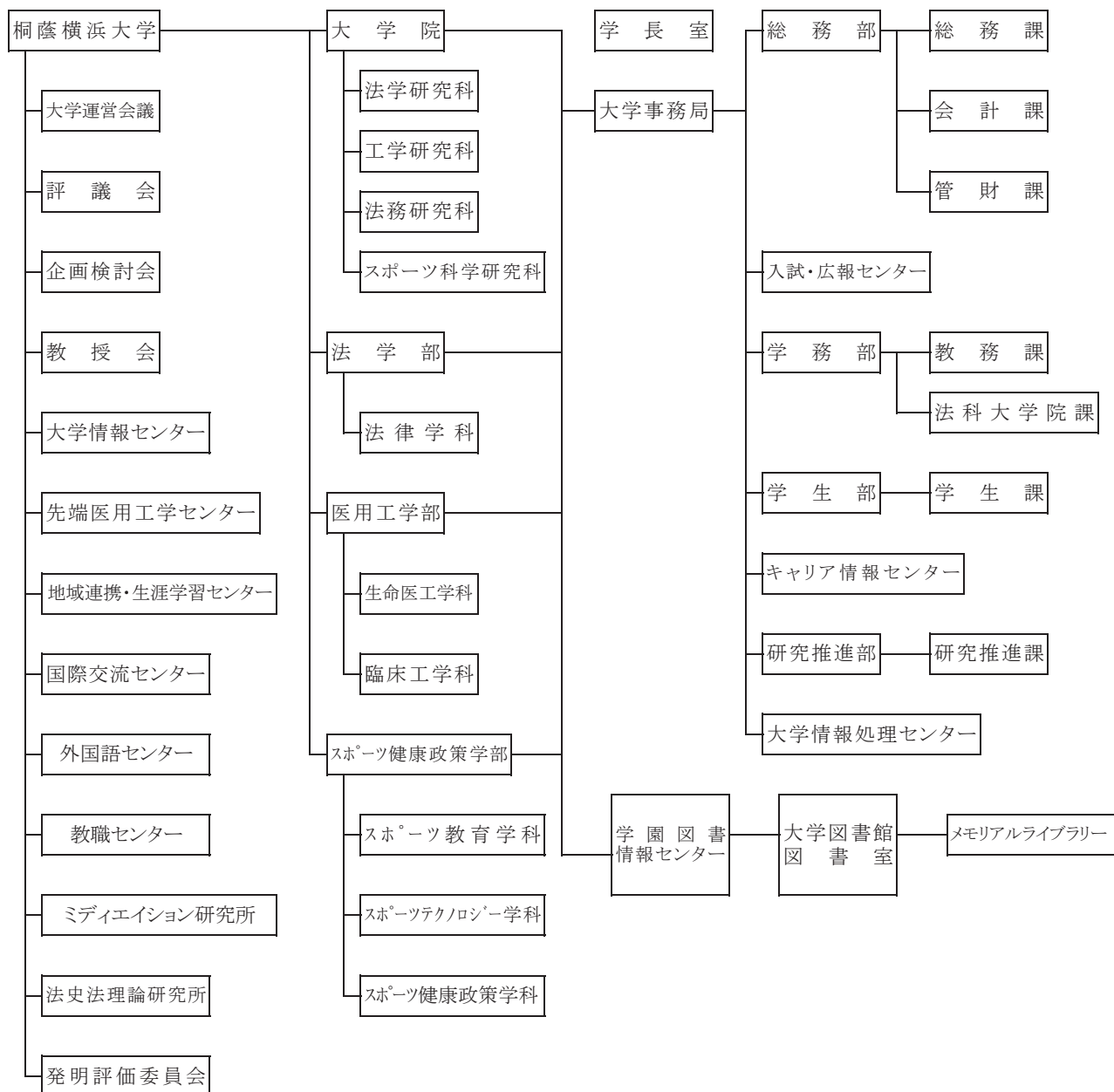
学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

自然を愛し、平和を愛する国際人たれ。

大学組織 2018.4.1現在



法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

麻妻和人 (あさづま かずひと) 教授



出生年 : 1969(昭和44)年
在籍 : 2005(平成17)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
学位 : 法学修士
学位論文 : 捜査の規律に関する一考察 -盗聴-
専門分野 : 刑事訴訟法
前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略

刑事裁判の諸制度について、アメリカ合衆国の例を参考にしながら検討を行った。憲法の求める裁判の公正さについての検討。比較法研究所米国刑事法研究会への参加および報告(Weaver v Massachusetts, 582 U. S. ___ (2017).)。刑法学会大会参加。

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(研究報告)Weaver v Massachusetts, 582 U. S. ___ (2017).	2018年12月22日	米国刑事法研究会(中央大学市ヶ谷キャンパス)	

阿部 憲二 (あべ けんじ) 教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2002(平成14)年9月～
 最終学歴：サンフランシスコ大学教育学部博士課程
 国際化に伴う社会教育学科修了
 学位：教育学博士(Ed.D.)
 学位論文：Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野：国際社会病理
 前職：北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
 学内役職等：国際交流委員(2012～)
 留学：アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
 サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、博士:2000.1
 ～2001.12)
 資格：中学1級・高校2級教員免許、英検1級
 上級心理カウンセラー、サイコパス診断資格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
刑務所面接員東京管区長表彰	2018年		
(その他特記事項)			
ラジオ日経「大人のラジオ」社会と犯罪コーナー担当(2012年9月～現在)			

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者及び満期出所者オリエンテーション担当講師 受刑者心理カウンセリング
全国篤志面接員連盟理事	2015年4月～現在	

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年：1958(昭和33)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
 学位：法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
 学位論文：勸告的意見の機能について
 専門分野：国際法
 前職：日本学術振興会特別研究員
 学内役職等：法学部学部長(2016～)
 留学資格：New York University, School of Law
 非常勤講師：中央大学法学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2) 法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。 ・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実には生じうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

江口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2007(平成19)年4月～
最終学歴：神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：企業の社会的責任について—フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史的変遷を通じて
専門分野：商法、金融商品取引法
前職：平成国際大学法学部助教授
学内役職等：法科大学院 教務委員長
留学：ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)
資格：
非常勤講師：平成国際大学大学院法学研究科
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、日本経済法学会

笠原 毅彦 (かさはら たけひこ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位：法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文：法判断権の所在
 専門分野：民事法、法情報学
 前職：常磐大学短期大学部講師
 学内役職等：
 留学：ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)
 資格：
 非常勤講師：国士舘大学大学院総合知的財産法学科, 早稲田大学法学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間, 学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開, 教材として呈示しながら講義を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材ダウンロードサイト。
https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2004年4月～現在	講義資料ダウンロードサイト

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>前期は、2017年に引き続き、内閣官房日本経済再生本部「裁判手続等のIT化研究会」のお手伝いを継続した。成果は、2018年6月15日裁判手続等のIT化の推進(未来投資戦略2018)の形でまとめ公表。 (https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/saiban/index.html)</p> <p>後期は、依頼を受け、ドイツ連邦共和国ヴュルツブルク大学で教鞭をとり、日本法、IT法(含電子商取引法)の三コマを担当した。週6時間(実質4時間半)の講義で、当初の依頼と異なり、留学生を対象に含めたため、ドイツ語ではなく英語で実施することになり、その準備にほとんどの時間を費やすことになった。1月末帰国。</p> <p>講義終了後の短い期間ではあったが、ヴュルツブルク地方裁判所からバンベルク控訴裁判所に移ったMüller-Mück裁判官、ザールラント大学法情報学研究所所長Borges教授と旧交を温め、前者とは裁判所IT化の現状、後者とは法情報学、特に通信の秘密に関して意見交換をした。また、新たにヴュルツブルク大学のHigendorf教授の知己を得て、同教授の求めに応じ、3月14, 15日の国際学会「デジタル化、AIと法(International Conference: Digitisation, AI and the Law)」で、電子記録債権法に関して報告した。</p> <p>帰国後、内閣官房日本経済再生本部「裁判手続等のIT化検討会」の、第9回おそらく最終検討会に出席。引き続き、この問題に関して研究と情報発信を続けている。4月、日本司法書士連合会の研修会にて、講演をした。同会機関誌「市民と法」119号に、論文化して掲載。</p> <p>その他、2017年のサマーセミナー講演「Liability of Internet Provider - Metamorphosis of the Internet and Providers」他、3本の論文が公刊された。</p>					
(学術論文)					
「民事裁判のICT化」に向けた実証研究の概説	共著	2018年5月	同志社法学	川嶋四郎同志社大学教授, 上田竹志九州大学法学研究院教授	138-334頁

サイバーコート実現に向けた技術検討 — Neural Networkを用いた伏字位置予測 —	共著	2018年6月	桐蔭論叢38号	伊藤篤宇都宮大学大学院工学研究科教授, 桐生雄也宇都宮大学大学院工学研究科情報システム科学専攻, 金澤政和宇都宮大学大学院工学研究科情報システム科学専攻	7-15頁
Liability of Internet Provider – Metamorphosis of the Internet and Providers	単著	2019年3月	Institut für Rechtinformatik, Uni. des Saarlandes		
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
サイバーキャンパス・サイバーコート		2018年6月	桐蔭法学会(桐蔭横浜大学)		
Electronically Recorded Monetary Claims		2019年3月	International Conference: Digitisation, AI and the Law (Uni. Würzburg)		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
裁判手続のIT化の現在と将来		2018年5月	日本弁護士会業務改革委員会研修会	東京第一弁護士会	
(海外出張)					
用件		出張期間	出張先		
Uni. Würzburg 講義担当(IT法, 電子商取引法, 日本法)		2018年9月10日～2019年1月26日	ヴェルツブルク大学(ドイツ連邦共和国)		
International Conference: Digitisation, AI and the Law (Uni. Würzburg) 学会発表		2019年3月10日～26日	ヴェルツブルク大学(ドイツ連邦共和国)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年 9月～現在	手続法研究所(慶應大学)理事
1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員 2016年よりアドバイザー
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員
2006年 9月～現在	Japrico Club(キャンパスツール普及促進組織)運営委員
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー
2013年11月～現在	人工知能学会法情報学国際ワークショッププログラム委員
2014年2月～現在	国立情報学研究所共同研究員

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 教授



出 生 年 : 1973(昭和48)年
 在 籍 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単
 位取得退学
 学 位 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : フランス労働法上の非典型協定
 専 門 分 野 : 労働法
 前 職 : 東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師
 学 内 役 職 等 : キャリア情報センター長(2014～)
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
『社会保障法第5版』(有斐閣、2016)、レジュメ(社会保障法)	2009年～	
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、2011)、レジュメ(労働法)	2011年～	
『アクチュアル労働法』(法律文化社、2014)、レジュメ(労働法)	2014年～	

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
働き方改革推進法にかかわる法改正の動向を研究し、市民向けセミナーにおける発信を行った。			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「中期労働講座 一賃金、労働時間Ⅰ,Ⅱ」	2018年9月27日、 10月4日	神奈川県かながわ労働セン ター県央支所/厚木市	アミューあつぎ
「働き方改革」の実現に向けて-長時間労働削減に向けた枠組等、「同一-同一労働同一賃金の規制の現状等」	2018年10月4日、 11月6日	神奈川県かながわ労働セン ター湘南支所/小田原市/小 田原箱根商工会議所	小田原合同庁舎
「雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保」	2019年3月6日	神奈川県かながわ労働セン ター湘南支所/秦野市	かなテクカレッジ西部校
○その他			
(その他特記事項)			
「東京都『どうなる?こんなトラブル!』平成30年度版監修」(2018年10月31日)			

III 学会等および社会における主な活動

日本労働法学会、日独労働法協会

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程満期退学
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：副学長(2016～)
 留学：パリ第2大学博士課程
 資格：
 非常勤講師：一橋大学法科大学院・早稲田大学法学部
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本学術会議特任連携会員		大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学教育の参照基準造り

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
科研費による、訴訟利用者の調査を続行した。社会問題にも絡む犯罪、殺人事件、ストーカー、暴力団からの離脱問題、アダルトビデオ業界の自主規制などについて多様なメディアにて報告。また、例年に引き続き、人事院の国家Ⅰ種採用者初任者研修、矯正局の職員研修などの研修講師を務めている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「ストーキングの現状と対策」『社会学からみた病理』	共著	2019年3月20日	成文堂	守山正編	265～273頁
(学術論文)					
「逃走者が多いほど、治安が悪い？世界の刑事政策「驚きの常識」」	単著	2018年5月10日	『現代ビジネス』講談社	-	https://gendai.ismedia.jp/articles/-/55587
疑わしきは被告人の有利に 最高裁は再審無罪を——袴田巖さんの再審を取り消した東京高裁 何十年もたってからの新証拠はほぼ不可能	単著	2018年7月11日	WEBRONZA	-	https://webronza.asahi.com/national/articles/201807020004.html
報道など二つの点で特異だった オウム7人死刑執行——現代社会に生まれる宗教に対応しかねている司法	単著	2018年7月13日	WEBRONZA	-	https://webronza.asahi.com/national/articles/201807120008.html

「書評『比較犯罪学研究序説』朴元奎著」	単著	2018年10月	『犯罪社会学研究』日本犯罪社会学会編	-	156～159頁
ゴーン氏の行為は犯罪的、検察は正義感を重視か「多くの社員を切り捨てた社長が年収何十億円」は許されるか 自白偏重のフランス司法	単著	2018年12月12日	『論座』	-	https://webronza.asahi.com/national/articles/2018111600001.html
ゴーン被告の長期勾留と世界のスタンダード 逮捕から3カ月、日本は取り調べが厳しいが身柄拘束者数は少ない	単著	2019年2月19日	『論座』	-	https://webronza.asahi.com/national/articles/2019021500003.html
「書評 郭薇著『法・情報・公共空間』」	単著	2019年3月8日	『法社会学第85号 市民社会と法社会学』日本法社会学会編	-	248～252頁

○講演会・研修会・セミナー講師

題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「犯罪・治安対策」	2018年5月7日・11日	人事院公務員研修所平成30年度 初任行政研修Aコース 政策課題研究:基調講演・全体討議(犯罪・治安対策)	人事院公務員研修所
「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」	2018年12月5日	矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第50回	矯正研修所
「マイノリティー・変わり者と犯罪」	2019年3月4日	刑事政策意見交換会	法曹会館 「富士の間」

○その他

(補助金・助成金等)

事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2016年4月～2021年3月	基盤研究S「超高齢社会における紛争経験と司法政策」 研究分担者

(雑誌・新聞記事等掲載)

記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(67)スパイによる本当の諜報活動と日本社会による”包摂的”防諜効果」	2018年4月18日	『サイゾー』2018年5月号 120～121頁
「法社会学者に聞く、TOKIO山口達也の”犯罪分析”」	2018年5月7日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/54525
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(68)公文書改ざんにおける”罪状”と法務省が抱えた”積年の恨み”」	2018年5月18日	『サイゾー』2018年6月号 104～105頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(69)広島脱走潜伏事件に見る”解放刑務所”の奇跡的大成功」	2018年6月18日	『サイゾー』2018年7月号 104～105頁
「「兇相だけの責任に帰していいのか?」“目黒虐待死事件”専門委報告を河合幹雄・桐蔭横浜大学教授に聞く」	2018年10月19日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/54842

「オウム死刑囚“大量執行”が意味するものと被害者遺族の高齢化」	2018年11月8日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/60409
「「地下鉄サリン事件」へと、オウム真理教を変質させた“何か”の存在」	2018年11月14日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/60854
「大阪・富田林署“逃走事件”容疑者の「能力の高さ」の秘密」	2018年11月19日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/61083
「“逃走犯”を生んだ大阪・富田林署、1989年建造の老朽化とお粗末なルール運用」	2018年11月23日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/61246
「戦前はナチス政権にも協力!? “国策企業”ルノーの歴史から見るカルロス・ゴーン逮捕」	2018年12月14日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/61938
「カルロス・ゴーン容疑者を勾留する「東京拘留所」は本当に“地獄”か? 日仏刑事司法の比較から考える日本“人質司法”の問題点」	2018年12月21日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/62146
「ホリエモン事件と同じ構造!? カルロス・ゴーン事件に見る、独裁者を“利用”し、そしてほうむり去る我がニッポンの“伝統”」	2019年1月5日	『Wezzy』 https://wezz-y.com/archives/62672
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」竹下通り暴走は稚拙な“テロもどき” 欧米式テロ対策導入議論の無意味さ」	2019年2月7日	『Business Journal』 https://biz-journal.jp/2019/02/post_26572.html
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」強姦冤罪事件を生み出した“プロ失格”の検察と裁判所が“14歳の少女”のウソを見抜けず」	2019年2月15日	『Business Journal』 https://biz-journal.jp/2019/02/post_26675.html
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」“強姦冤罪事件”国家賠償請求を棄却、なぜ「公務員のミス」は許されてしまうのか?」	2019年2月27日	『Business Journal』 https://biz-journal.jp/2019/02/post_26832.html
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」野田市小4虐待死、教育委員会のあり得ない大失態…悪質クレームには躊躇なく弁護士を」	2019年3月7日	『Business Journal』 https://biz-journal.jp/2019/03/post_26963.html
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」野田市小4虐待死、「母もDV被害者ゆえに逮捕は不要」は誤り…法で裁かれるべき」	2019年3月19日	『Business Journal』 https://biz-journal.jp/2019/03/post_27065.html
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」ピエール瀧“コカイン逮捕”ネタ元は外国情報か…その裏に“韓国ルート”の存在も」	2019年3月28日	『Business Journal』 https://biz-journal.jp/2019/03/post_27235.html
(その他特記事項)		
「NHKクローズアップ現代+」ゲスト出演 「“貧困暴力団”が新たな脅威に」 2018年5月28日		
「テレビ朝日日曜スクープ」ゲスト出演 「日本に司法取引はなじむのか?」 2018年7月1日		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年5月1日～現在に至る	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員

2012年5月1日～現在に至る	日本法社会学会理事	
2012年5月1日～現在に至る	全国篤志面接委員連盟評議員	
2012年5月1日～現在に至る	日本学術振興会 博士課程教育リーディングプログラム委員会専門委員	
2013年4月9日～現在に至る	公益財団法人矯正協会業務執行役員候補者審議委員会委員	
2013年6月～現在に至る	日本被害者学会理事	
2017年10月21日～現在に至る	日本犯罪社会学会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

韓 寧 (かん ねい) 教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学博士
 学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討一日・米法との比較の視点から
 専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
 前職：北京法務局
 学内役職等：
 留学：群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程
 資格：中国弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
2018年度において、司法アクセス、民事訴訟におけるIT化、日中両国における陪審制度、及びオーストラリアの調停制度等の課題について、取り組んでいました。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
日本比較研究所研究叢書『司法アクセスの普遍化の動向』	共著	2018年11月	中央大学出版部	大村雅彦編	329-361頁
(学術論文)					
「中国の人民陪審員制度に関する一考察」	単著	2018年9月	桐蔭法学25巻1号	桐蔭横浜大学	47-74頁
○その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
Bond Universityとの共同研究	2018年8月31日～2018年9月18日	Bond University(オーストラリア)			
世界訴訟法学会大会参加	2018年10月15日～2018年10月22日	Salamanca University(スペイン)			
第9回東北アジア民事訴訟法国際シンポジウム	2018年12月7日～2018年12月10日	広州大学(中国)			
(その他特記事項)					
＜翻訳＞林偉明「民国初期の商法本土化への商事裁判の影響とその示唆」、単訳、2018年8月28日、『東アジアの法改正とその影響—民法、競争法を中心として—』国際シンポジウム論文集(桐蔭横浜大学)、93-103頁					
＜翻訳＞秋田知子「日本の権利保護保険」、単訳、2018年8月28日、『東アジアの法改正とその影響—民法、競争法を中心として—』国際シンポジウム論文集(桐蔭横浜大学)、215-227頁					
＜翻訳＞許少波「民事訴訟における慣習の適用—「民法総則」第10条の解釈」、単訳、2018年8月28日、『東アジアの法改正とその影響—民法、競争法を中心として—』国際シンポジウム論文集(桐蔭横浜大学)、241-252頁					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、中国民事訴訟法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員
2018年6月～現在	中国民事訴訟法学会理事

竹内明世（たけうち あきよ）教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：1998(平成10)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
専門分野：商法、銀行取引法、民法
前職：
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：明治学院大学法科大学院(2006年4月～9月)、横浜国立大学経済学部(2013年10月～2014年3月)、横浜国立大学経営学部(2014年4月～現在)
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コブテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマソッドを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2)授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	1993年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所、美祢社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、愛光女子学園、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる(博物館網走監獄、月形樺戸博物館、旧釧路集治監)。
(3)ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
<p>2018年度は、「気候変動・地球温暖化対策から生じる逆説的危害に関する調査研究」を行った。気候変動と地球温暖化は人類に対して多数かつ重要な問題を提示している。水や食料のような環境資源をめぐる紛争、気候変動に起因する移住に関する紛争、資源利用をめぐる紛争、国境を超える汚染の移動をめぐる紛争など。各国政府や地域社会が気候変動に対する解決策を捜し求め、地球温暖化の効果を減じ、それに順応するための方策を採用しているが、これらがネガティブなフィードバック・ループを生み出し、さらなる環境の悪化と基本的人権に対する付加的な脅威をもたらしている。気候変動・地球温暖化対策から生じる逆説的危害について調査分析した。具体的には、アフリカ東部、キリマンジャロ山周辺の現地調査を行った。気候変動は人的・物的資源に影響を及ぼす環境破壊を導き、とりわけ天然資源をめぐる競争的な生活システムは社会的な緊張と暴力を導く激しい闘争に至る。第一に、どのように気候変動が人間活動と関係する生態系の通常機能を阻害しているか、第二に、どのように気候変動対策の有害性が暴力の引き金となる可能性のある社会生態系の不均衡をもたらしたのか、について調査研究した。早魃と洪水は極端な気候変動の現象であり、人々の生活、農業生産および関連する食糧の安全への重大な影響を及ぼしている。キリマンジャロ山周辺では、近年、地球温暖化の影響により、早魃と洪水の発生頻度が高まり、間隔が短期化しており、周辺地域住民の生活環境を壊滅的状況に追い込んでいる。きわめて不安定で平均以下の降雨は、広範な食糧危機、栄養不足、悪環境下の家畜飼育、国内・国境を超える大量の人口移動を生み出している。また、発展的应用として、近年における科学技術の著しい進歩に基づく宇宙開発に関して、宇宙採掘に起因して発生するであろう宇宙環境汚染・破壊に関する調査研究を行った。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Lithium Extraction at the Salar de Uyuni in Bolivia: 'Dirty business for clean energy' emancipates Bolivia from 'curse'?		2018年	Toin University of Yokohama Research Bulletin, No.38	Noriyoshi Takemura	pp.31-38
'Multiple Battlefields' of Lithium Extraction-Production at and around the Salar de Uyuni: Economy vs environment/ecology, colonization vs decolonization, and global North vs global South		2018年	Toin University of Yokohama Research Bulletin, No.39	Noriyoshi Takemura	pp.73-84
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Conflict Nexus in East Africa: Climate Change induced Environmental Degradation, Food Insecurity, Migration and Violence around Mt. Kilimanjaro	2018	18th Annual Conference of European Society of Criminology			
Outer Space Mining: A New Frontier for Universal Green Criminology, Interconnect between human existence and space-/astro-environment	2018	74th Annual Meeting of American Society of Criminology			
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学技術の発達と社会の発展による環境・エコ犯罪に関する調査研究	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
東アフリカにおける気候変動・社会生態システムの不安定化・紛争に関する現地調査	2018年8月	ナイロビ・マサイマラ・アンボセリ(ケニア)			
第18回ヨーロッパ犯罪学会年次会議での発表	2018年9月	サラエボ大学(ボスニア・ヘルツェゴヴィナ)			
第74回アメリカ犯罪学会年次大会での発表	2018年11月	アトランタ(アメリカ合衆国)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：修士(法学)
 学位論文：抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
 専門分野：刑法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等：
 留資格：
 非常勤講師：神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
刑法Ⅰ・Ⅱ	2007年～現在	講義用レジュメの作成および授業での活用 双方向授業の実践 スマート・キャンパスの活用
社会科学特別講義Ⅲ	2015年～現在	テーマについて学生の理解を促進させるためのパワーポイントや映像教材の活用 スマート・キャンパスの活用

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
1.先に桐蔭法学研究会において報告した「強制わいせつ罪の成立に性的意図は必要か—平成29年11月29日最高裁大法廷判決を契機として—」を加筆修正し、桐蔭法学(第25巻1号75～109頁)に発表した。 2.「強制性交等罪についての若干の考察」を桐蔭法学(第25巻2号103～125頁)に発表した。 3.引き続き、性犯罪のほか、故意と錯誤およびこれに関連する問題点についても研究し、さらに発展させていきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「強制わいせつ罪の成立に性的意図は必要か—平成29年11月29日最高裁大法廷判決を契機として—」	単著	2018年10月	桐蔭法学第25巻1号		75～109頁
「強制性交等罪についての若干の考察」	単著	2019年2月	桐蔭法学第25巻2号		103～125頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：博士(法学)(慶應義塾大学)
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オペラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 学内役職等：法学研究科専攻長(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

(学術論文)				
憲法秩序の変動と解釈の担い手——浦和事件と「憲法争議」	単著	2018年10月1日	『法律時報』90巻11号	95-100頁
法の社会史的考察と「戦後法学」——1960年代の基礎法学方法論をめぐる覚書	単著	2019年3月25日	『桐蔭法学』25巻2号	41-67頁
○その他				
(補助金・助成金等)				
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等		
科学研究費補助金基盤研究(C)：「戦後体制」の形成過程に関する近現代法史の観点からの実証的再検討	2017年4月～2020年3月	日本学術振興会		
研究助成金：戦前期の司法部の人的構成と山岡萬之助	2018年4月～2021年3月	一般財団法人山岡記念文化財団		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、日本法社会学会、日本法哲学学会、同時代史学会、占領・戦後史研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年12月～現在	占領・戦後史研究会事務局
2013年4月～現在	法文化学会理事
2014年4月～2018年11月	法文化学会事務局
2018年6月～現在	法制史学会事務局

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：
 専門分野：政治思想史
 前職：長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等：法律学科学科長(2016～)
 留資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
再生産における女性主体の経験の言語化の歴史について研究を行った。成果は2019年以降に発表の予定。
○その他
(その他特記事項)
法学研究科修士論文審査

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本政治学会、政治思想学会、日仏女性研究学会

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：1997(平成9)年4月～
最終学歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
学位：法学博士
学位論文：J. S. ミルの自由主義思想
専門分野：欧州政治思想史
前職：立教大学文学部非常勤講師
学内役職等：法学研究科長、学務部部長（2016～）
留学：ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
超越的な事象と社会的な事象との関係性をどのように定めるかは、19世紀欧米の重要な思想課題であった。そして欧米思想の受容を軸に思想的展開がなされた明治期思想についても、同様のことがいえる。このことについて、福沢諭吉と清沢満之をとりあげ、検討した。成果については、桐蔭法学第25巻2号に掲載した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
空無限への眼差し：福沢諭吉と清沢満之	単著	2019年3月	桐蔭法学 25(2)	-	127-162頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本政治学会

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出 生 年 : 1961(昭和36)年
在 籍 : 2003(平成15)年4月～
最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
専 門 分 野 : 憲法
前 職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
学 内 役 職 等 :
留 学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)
資 格 :
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～	ドイツ憲法判例研究会運営委員

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科
 コース修了
 学位：教育学修士(筑波大学)
 学位論文：
 専門分野：教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前職：国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部
 総括研究官
 学内役職等
 留資格：中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級
 普通免許状(社会)
 非常勤講師：東京学芸大学、東洋英和女学院大学
 受賞・表彰：日本教育研究連合会表彰(2010年12月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
「小学社会」(日本文教出版)	2015年4月より供給中	
「中学社会」(日本文教出版)	2016年4月より供給中	
「高等学校 現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給中	執筆者代表
「高等学校 新現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給中	執筆者代表
「高等学校 政治・経済」(第一学習社)	2013年4月より供給中	
「高等学校 新政治・経済」(第一学習社)	2014年4月より供給中	

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
新科目「公共」を核とした公民教育を小中高 等学校で効果的に推進するための調査研究	2017年3月～2020年3月	科学研究費補助金 基盤研究(B)
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
毎年数回主に調査のために外国出張		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1998年4月～現在	日本社会科教育学会常任委員
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員

2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事	
2014年4月～現在	中等社会科教育学会理事	
2018年4月～現在	日本公民教育学会事務局	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
教科書研究センター調査研究企画委員会委員	2014年4月～現在	公益財団法人教科書研究センター
学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者(高等学校公民[政治・経済])	2016年11月～2018年3月	文部科学省
品川区立学校校区教育協働委員会委員長	2011年4月～現在	品川区教育委員会

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
 学位：博士(法学)
 学位論文：芸術と法—英米法を中心とする学際的研究—
 専門分野：英米法、民法
 前職：女子美術大学芸術学部助教授
 学内役職等：
 留学：ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員(アメリカ合衆国)
 資格：
 非常勤講師：女子美術大学芸術学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目における受講生の理解を深め、知識を定着させるための授業の実践		講義科目の授業において、双方向型の授業を展開させ、受講生の理解度を深めるため、毎時間ごとに授業内容を確認する小テストを実施し、次の授業時に解説をすることで知識を定着させるとともに、授業内容に連続性を持たせる工夫を行った。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>2018年度の研究活動の一つは、イギリス契約法に関する研究として、契約解釈の手法において著しく厳格な文理解釈の伝統を誇り、大陸法と一線を画していたイギリス契約法は、近時、特にヨーロッパ法を中心とした取引法を統一する流れが顕在化するなかで、一人孤高の姿勢を崩さざるを得なくなり、大幅に柔軟な契約解釈の手法を採用するに至ったとされ、そうした新基軸を提示する主導的役割を果たした Hofmann 卿のテーゼの現状について検討した。イギリス最高裁はむしろこうした流れに逆行する動きを示すに至っており、その経緯についての検討から、歴史的には、二極を行き来するイギリス法の特徴を示すものであることを明らかにしている。</p> <p>2018年度の研究活動の二つ目は、美術品鑑定人の法的責任の解明を試みるもので、美術品鑑定は主として美術品取引の前提として行われるが、美術展等におけるキュレーターの作品解説も作品の価値形成に大きな影響を与えることもあり、美術品取引の高額化を前に、美術専門家の法的責任が問題となっている状況を検討し、日本法の現状との比較を行った。</p> <p>2018年度の研究活動の三つ目として、これまでの自己の研究活動に一区切りし、次なる方向性を切り開くために、研究書の刊行を目指して論文整理を行った。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
著作権の所有権的構成再考	単著	2018年6月	桐蔭論叢第38号		17-29頁
イギリス契約法における契約解釈の現状—Hoffmann 卿テーゼの帰趨—	単著	2019年3月25日	桐蔭法学第25巻2号		69 - 101頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2016年11月～現在	一般社団法人平井澄子記念音楽振興会専務理事

秋田知子（あきた ともこ）准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
 専門分野：民事法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等：
 非常勤講師：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法 I	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(4)民事訴訟法	2014年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(5)民事執行保全法	2015年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
権利保護保険が発売された当時の状況から現在の状況までをシンポジウムで報告をした。今後は権利保護保険を巡って、依頼者と受任弁護士間や協定保険会社と受任弁護士間で紛争が生じた場合にどのように処理していくのか、2018年1月に開始した弁護士保険ADRを含めて、検討していきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「日本の権利保護保険」	共著	2018年8月20日	東アジア法律文化研究センター(第4回国際シンポジウム論文集—東アジアの法改正とその影響—民法、競争法を中心として)	編者:東アジア法律文化研究センター 共著者:河合幹雄、林秀弥、陳乾勇、中道徹、林偉明、加藤雅信、李飛、金祥洙、秋田知子、許少波 訳:韓寧、陳乾勇、王冷然	201頁-214頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「日本の権利保護保険」(第4回国際シンポジウム—東アジアの法改正とその影響—民法、競争法を中心として)	2018年8月28日	東アジア法律文化研究センター主催	秋田知子(報告者)		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

高瀬 武志(たかせ たけし) 准教授



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2014年(平成26)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了
 学位：体育学修士
 学位論文：武士道思想における死生観に関する研究
 専門分野：武道学・日本思想史・死生学・剣道
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助手
 学内役職等：大学剣道部監督・高校男子剣道部コーチ・法学部体育科主任・学務部委員・スポーツ施設委員・学生部委員・地域連携生涯学習センター委員・おもしろ理科実験教室委員・ミディエイション交渉研究所委員・桐蔭学園もえぎの寮管理人
 留資格：学：
 格：剣道錬士六段・中学校・高等学校教諭1種免許(保健体育)
 非常勤講師：東京都市大学・文教大学
 受賞・表彰：神奈川県スポーツ優秀選手表彰・神奈川文化賞スポーツ賞・筑波大学体育専門学群長賞・桐蔭横浜大学法学部エクセレントティーチャー賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
体育実技科目におけるアクティブ・ラーニングの導入と三者共学システムの構築	2017年～	体育実技(剣道)におけるアクティブ・ラーニング型授業を行い、経験者、未経験者、教員の三者共学システムの構築
剣道形の授業におけるAL型授業	2018年～	剣道形の授業におけるAL型授業として、タブレット端末を使用して、授業を実践、創作課題を通して、魅力ある授業作りを学生と模索している。
視聴覚教材を活用した授業実践	2018年～	日本人の生活や思想を形成する事柄についての視聴覚教材を活用し、学生の興味関心を保持しつつ、知識の獲得とレポート作成を通じて思考のまとめと文章化する訓練を通じて、インプット、アウトプット、自分の生活、将来へのトランジションを考察する。
剣道の授業におけるICT教育の展開	2018年～	ビデオカメラ等のICT機器を活用して、授業内で撮影し視聴することによって、グループワークの活性化と議論の深化をはかっている。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
綾瀬市中体連剣道講習会 講師	2016年～	綾瀬市中体連主催の剣道講習会に講師として参加し中学生に剣道の基礎的技術や伝統を指導している。
体育実技に関する教育実践について全国大学体育連合の機関紙『大学体育』において実践報告を続けている	2016年～	全国大学体育連合の機関紙『大学体育』において年に2回、体育実技に関する教育実践を実践報告として発表している。

4.その他教育活動上特記すべき事項		
福島県相馬市への被災地支援 剣道講習会	2014年～	福島県立相馬高校において被災地支援の一環として講習会を開催し、地元の子供たちとの触れ合いを大切にしている。
地域貢献活動として、NPO法人わくわく教室と提携して、わくわく剣道教室を開催	2016年～	NPO法人わくわく教室と提携して、わくわく剣道教室を毎週1回の頻度で開催し、学生指導員も配属し、地域貢献と学生の深い学びを得られるように指導している。
地域貢献活動として、近隣小学校においてボランティア剣道教室を開催	2016年～	鴨志田第一小学校において、ボランティア剣道教室を毎月1回の頻度で学生と共に開催、指導している。
海外の大学剣道部や剣道クラブと連携し、ボランティアによる剣道指導交流会を開催。(2019年度より授業化)	2017年～	2017年にはベトナム、2018年にはシンガポールへ訪問し剣道指導ならびに交流会を開催している。

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
春季神奈川県学生剣道選手権大会	2018年5月	神奈川県	男子団体戦:準優勝 女子団体戦:第三位
秋季神奈川県学生剣道選手権大会	2018年9月	神奈川県	男子団体戦:第三位 女子団体戦:第三位
東都学生剣道優勝大会	2018年9月	埼玉県	女子団体戦:準優勝 男子個人戦:優勝(長谷川)

中野 邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法
 前職：
 学内役職等：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスマソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
・非営利団体制についての研究 本年度は、非営利団体の今後のあり方につき、裁判例から非営利団体制が変容してきていることを確認したうえで、法制度や法解釈においてもそれを反映させたかたちで議論が展開されていることを指摘し、今後の目指すべき方向とあり方につき検討を行った。 ・以上の他に、私法体系の再編に向けた基礎的研究を継続するほか、担保法改正をめぐる抵当権の効力と物上代位をめぐる改正提案に関する原稿草案を昨年度までの科研の代表研究者とともにとりまとめたほか、新たな法学教育に向けた基礎的考察等を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『民事判例17 2018年前期』	共著	2018年10月	日本評論社	現代民事判例研究会編	「ゴルフ会員権の実質的価値につき共通の動機錯誤があった場合の重過失ある売主からの錯誤無効の主張の可否」90-93頁
(総説・論説)					
「ポスト村上法学」	単著	2019年3月	桐蔭法学25巻2号	桐蔭法学会編	173-176頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名	
「取引 評釈」	2018年7月28日	現代民事判例研究会			
(その他特記事項)					
東アジア法律文化研究センター主催 第4回国際シンポジウム「東アジアの法改正とその影響——民法、競争法を中心として」2018年8月28日(於桐蔭横浜大学)民事法セッション司会・予稿集編集					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本法哲学会

長濱 博文(ながはま ひろふみ) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2017(平成29)年4月～
 最終学歴：九州大学大学院人間環境学府発達社会システム専攻博士
 後期課程修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：「フィリピンの統合科目における価値教育に関する研究」(博士論文)
 専門分野：比較国際教育学、教職論、ユネスコ価値教育
 前職：目白大学人間学部子ども学科准教授
 学内役職等：教職センター委員、教職課程委員、桐蔭論叢編集委員、桐蔭学園英語村副村長、入試広報委員
 留学：サンディエゴ州立大学大学院(米国)(2009年12月～2010年12月)
 資格：(剣道 三段)
 (書道 四段)
 非常勤講師：創価大学教育学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「グローバル教育への提言～グローバルネスの多様な視点・多様な現実から～」視点2)アセアネスの視点からくフィリピンの子どもたち>(シンポジウム)	2018年8月25日	第26回日本グローバル教育学会全国研究大会(於:京都教育大学)	他3名
日本とフィリピンにおけるレジリエンスを高める価値教育の在り方—ナラティブ・アプローチの観点からの比較考察—	2018年11月18日	九州教育学会第70回大会(於:南九州大学)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本比較教育学会、日本国際理解教育学会、日本道徳教育学会、日本グローバル教育学会、ホリスティック教育協会、日本カリキュラム学会、日本道徳教育方法学会、大学教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015年4月～	日本グローバル教育学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
釜石市諸学校における「いのちの教育」の授業実践の参与観察	2018年3月～	釜石市教育委員会

茂木 洋平 (もぎ ようへい) 准教授



出生年：1981年10月
 在籍：2012年4月～
 最終学歴：東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：Affirmative Actionの正当化法理 ～アメリカの判例と学説を中心に～
 専門分野：憲法、行政法
 前職：熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科助教
 学内役職等：
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：横浜市立大学(2013年4月～2018年3月)
 関東学院大学法科大学院(2016年4月～2019年3月)
 受賞・表彰：東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
法学部ベストティチャー	2018年4月	

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
専門分野は憲法だが、2018年度は、それにとどまらず行政法学の領域についても研究した。辺野古新基地移設問題に関わる行政法上の問題点、行政上の義務の司法的執行に係わる問題点、行政主体間の争訟の「法律上の争訟」該当性の問題について検討し、成果を公表した。 また、AAを策定する機関に対する裁判所による敬讓と司法審査の問題点につき検討し、成果を公表した。さらに、アファーマティブアクションが憲法上如何に評価されるのかについて研究を進めており、その成果をまとめて次年度以降に単著を公刊する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
辺野古訴訟最高裁判決をめぐる法的問題	単著	2018年9月	桐蔭法学25巻1号		111-139
アメリカ合衆国裁判所における厳格審査と敬讓(2・完)－高等教育機関による人種区分と司法審査基準	単著	2018年9月	桐蔭法学25巻1号		1-46

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、憲法理論研究会、全国憲法研究会、日米法学会、東北大学公法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2016年5月～2018年5月	憲法理論研究会会計監査
2016年10月～2018年10月	憲法理論研究会 叢書編集委員

箭野 章五郎(やの しょうごろう) 専任講師



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2015年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：「刑事責任能力の研究」
 専門分野：刑事法
 前職：獨協大学法科大学院特任助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：明治学院大学法学部、中央大学法学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
刑事責任能力についての研究を継続して行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
妄想性障害に罹患していた被告人についての責任能力の具体的判断(判批)	単著	2018年6月26日	法学新報125巻1・2号		185-202頁
翻訳 ヴェルター・グロップ『刑法総論』(第4版、2015年)(10)	翻訳	2019年3月	『龍谷法学』第51巻第4号		3005-3084頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
研究報告「刑事責任能力について—その意義と判断」	2019年3月9日	法と精神医療学会第34回大会(北海道大学)			
○その他					
(その他特記事項)					
2018年度【第2回】総合起案演習 刑事系 I (刑法)問題作成と解説 中央大学エクステンションセンター法職事務室発行					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日本犯罪社会学会、法と精神医療学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2017年4月～現在	日本医科大学多摩永山病院倫理委員会 倫理委員

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2001(平成13)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位：法学修士
学位論文：若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的前提
専門分野：ヨーロッパ近代法史
前職：
学内役職等：
留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2004年7月～2005年3月)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略

ドイツ・プロイセンの法典であるプロイセン一般ラント法(1794)の成立に至るまでと成立後(19世紀末に一般法として姿を消す前のポリツァイ法の時代まで)を分けた上で、ポリツァイ法と各州の事情(ポリツァイ法の施行と実際の貧民層への影響)を調べ、その影響を一般ラント法も受けているのではないかと考え研究を進めてきた。今後も引き続き研究していきたい。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日独法学会
青森法学会

大辻 康太 (おおつじ こうた) 助教(2019年度 新任教員)



出生年：1990(平成2年)8月4日
在籍：2019年4月～
最終学歴：横浜国立大学教育学研究科博士前期課程修了
学位：教育学修士
学位論文：柔道指導者講習会の受講が安全管理に与える影響
-脳震盪に着目して-
専門分野：スポーツマネジメント
前職：日本エースサポート株式会社
学内役職等：
留学：
資格：講道館柔道4段
非常勤講師：電気通信大学
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

日本武道学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 特任教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について—chemical mediatorを中心として—(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手, 国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員, 国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 体育実技(担当種目:バドミントン) 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2) 健康の科学 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。

2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1)健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。
(2)健康科学(改訂版) 道和書院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
(3)生理学 化学同人(共著)	2016年4月～	「生理学とは何か」について、健康スポーツ関係を初めて学ぶ人のための教科書である。主な項目は、細胞、神経系、筋、骨格、心臓、血管系、呼吸器系、腎臓、消化と吸収、自律神経系、脳、内分泌系、代謝生理、血液及び生体防御、性・生殖で生理学についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (4)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的実践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。
(5)その他、作成した教材は多数		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)内部疾患と処方(免疫を中心として)	2005年4月～(毎年1回)	国立身体障害者リハビリテーションセンター

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
The Effects of Short Breathing Method on the Physical and the Mental Conditions	2018年8月8日	The 22th EASESS Annual Congress、(Kyushu Sangyo University, Japan)	村上秀明、石濱慎司、田中幸夫
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「内部疾患の運動処方(アレルギーを中心に)」	2019年2月13日	国立障害者リハビリテーションセンター学院研修会	国立障害者リハビリテーションセンター

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本発育発達学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本疲労学会、日本ウェルネス学会

青木 仁美 (あおき ひとみ) 特任専任講師(2019年度 新任教員)



出生年：1980年(昭和55年)
 在籍：2019(令和元年)～
 最終学歴：早稲田大学大学院法学研究科博士課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：「オーストリアにおける成年後見法制の研究 ―日本およびドイツの法制度との比較のもとで―」(博士論文)
 専門分野：民法
 前職：日本学術振興会特別研究員(RPD)
 学内役職等：
 留学：インスブルック大学(オーストリア)(2007年10月～2009年6月、オーストリア政府給費留学生)
 資格：Österreichisches Sprachdiplom(オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験)C1
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第17回尾中郁夫・家族法新人奨励賞(2016年5月)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略		
2018年度は、日本学術振興会特別研究員(RPD)として、研究課題「新しい成年者保護法制の提言」の研究を遂行した。研究目的は、行為能力を自動的に制限せず、本人の自己決定を尊重する成年者保護法制への移行を提言することである。研究手段として比較法を用い、オーストリア法およびブリティッシュ・コロンビア法(カナダ、以下、BC法とする)の代行決定制度、支援付き意思決定制度の制度内容および運用状況を研究対象とした。オーストリアに関しては成年者保護法(2018年施行)を中心に扱い、研究結果は「桐蔭法学研究会」で発表し、2019年度中に「桐蔭法学」に論文として公表予定である。BC法に関しては、2019年2月にバンクーバーに1か月滞在し、主としてブリティッシュ・コロンビア大学およびカナダ高齢者法センターにて研究活動を行った。今後は、BC法の研究成果を公表する。		
○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「成年者の法的保護の多様化に関する研究」 研究代表者	2015年4月～2020年3月	科学研究費(若手研究(B))
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
「特別研究員奨励費」および「科学研究費(若手研究(B))」に基づく研究活動	2019年2月1日～2月28日	ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、比較法学会、日本成年後見法学会

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

小寺 洋 (こでら よう) 教授



出生年 : 1962(昭和37)年
在籍 : 1988(昭和63)年4月～
最終学歴 : 東京工業大学理学部
学位 : 理学博士
学位論文 : Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
専門分野 : 生物化学、タンパク質工学
前職 :
学内役職等 : 研究推進部部長(2014～2018)
研究推進部副部長(～2011)
工学研究科医用工学専攻長(2019)
留資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「Epistatic interaction between fcr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced tolerance」	2018年12月20日	The 47th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology	Hiroyuki Nishimura, Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji, Yo Kodera , Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, J.Sjef Verbeek, Sachiko Hirose

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1990(平成2)年3月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程
 学位：理学博士、学術修士(環境)
 学位論文：Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野：有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職：通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 学内役職等：学生部長(2010～2013)
 留学：
 資格：(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 非常勤講師：
 受賞・表彰：松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)、(公益社団法人)日本化学会 化学教育賞(2015)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返し学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,II,において、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレインストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかだいについての小論文をまとめるための演習としてブレインストーミングを実施した。地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に「授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁子どもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
(8)公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012年～現在	(7)の活動を継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくろう」などの資料を作成し、配布した。
生命医工学科用の有機化学基礎、有機化学I, II, 高分子化学(生体高分子)	2010年～現在	臨床検査技師を目指す学生や生命科学志向の学生向けの内容に全面改定した教科書を作成して配布している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018	本学の学生を出前実験教室のTAとしての活動に参加させて、その活動に対する日本化学会会長からの感謝状の授与が継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
研究室に所属する臨床検査技師を目指す学生、院生、および国家資格取得後進学した院生に対する研究テーマとして、生理活性物質や活性酸素についての従来のテーマに加えて、黄色ブドウ球菌に対する光発育抑制効果についての化学的アプローチによる機構解明に関する研究を行い、BME、日本化学会などの学会で発表した。また、臨床検査技師を目指す学科学士の為の有機、高分子系の基礎教育の内容についても研究的に取り組んでいる。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(国際学会発表)			
Study on photoinactivation of <i>Staphylococcus aureus</i>	2018年10月27日	Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2018, Toin University of Yokohama	Mana OSHIRO, Kiyoshi SAITO
Research on correlation between the carotenoid pigments produced by <i>Staphylococcus aureus</i> and the bacterial photoinactivation phenomenon	2018年10月27日	Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2018, Toin University of Yokohama	Tomoya NISHIMURA and Kiyoshi SAITO
(国内学会発表)			
<i>Staphylococcus aureus</i> が産生するカロテノイド色素と光発育抑制現象との関係 II	2018年10月23日	日本化学会第8回 CSJ 化学フェスタ、東京	西村知泰・加藤雅士・齋藤 潔・蓮沼裕也。
<i>Staphylococcus aureus</i> の光発育抑制現象に関する研究	2018年10月23日	日本化学会第8回 CSJ 化学フェスタ、東京	大城真奈・小宮加奈子・齋藤 潔・蓮沼裕也。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、子ども環境学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～現在	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～現在	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2011年4月～現在	公益社団法人日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
はまぎん 子ども宇宙科学館 「水性サインペンのヒミツ？」(遊びも含むクロマトグラフィーの実験)	2018年4月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
科学技術館 わくわく実験教室！UV？ってなんだ？ 光らせたりかためたり ふしぎな実験をやってみよう！	2018年8月4日、5日	平成30年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
南相馬市立中央図書館 わくわく実験教室！ やってみよう不思議な化学実験PART II！ デンプンのりで手品!?(ヨウ素デンプン反応、時計反応)	2018年8月7日、8日	平成30年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
はまぎん子ども宇宙科学館 低学年教室 実施テーマ:夏休み特別化学マジック！-紙オムツのひみつ?! 高学年教室 実施テーマ:夏休みは化学マジックに挑戦！-紙オムツでエネルギー?! (キャパシタの説明を含む)	2018年8月10日、11日	平成30年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
東日暮里ふれあい館、西日暮里ふれあい館 わくわく実験教室！ UV？ってなんだ？ 光らせたりかためたり ふしぎな実験をやってみよう！	2018年8月20日	平成30年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
小松川小学校 わくわく実験教室！ UV？ってなんだ？ 光らせたりかためたり ふしぎな実験をやってみよう！	2018年8月27日	平成30年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
はまぎん子ども宇宙科学館 化学の日関連企画 わくわく実験教室！ UV？ってなんだ？ 光らせたりかためたり ふしぎな実験をやってみよう！	2018年11月11日	平成30年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
道灌山幼稚園 「水性サインペンのヒミツ？」(遊びも含むクロマトグラフィーの実験)	2019年1月19日	平成30年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位：博士(工学)
 学位論文：界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野：コロイド・界面化学、生体材料工学、光治療工学、薬物送達学
 前職：エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 学内役職等：医用工学部 生命医工学科 学科長
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」

2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」

第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」

2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」

SPACC-17 Poster Award, "Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells"

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Presents Poster Session Award, "Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells"

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明にりようする。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
生命医工学セミナーⅡ(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2013年～	高校での化学の復習と書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師役出版)を教科書として使用	2013年～	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「Whole Genome Sequencing Analysis of CTX-M-55 Producing Escherichia coli Isolates from Clinical Patients in Japan」	共著	2018年12月12日	Int J Clin & Med Microbol	Yuya Hasunuma, Moe Yokemura, Nozomi Hiyoshi, Takashi Ishimatsu, Takuya Tsunoda, Satoshi Kugawa, Yoshikazu Tokuoka	2018,3; 136
「神奈川県内中小規模医療施設から分離されたCTX-M型β-lactamase産生Escherichia coliの疫学調査」	共著	2019年1月4日	臨床微生物学雑誌	除村萌, 蓮沼裕也, 石松尚, 角田拓也, 徳岡由一	2019(1)
Effect of Ethanol on Iontophoretic Transdermal Delivery of 5-Aminolevulinic Acid through Yucatan Micropig Full-thickness Skin	共著	2019年	Indian Journal of Pharmaceutical Sciences, 81(1)	Kazusa Asai, A. Ochiai, N. Kawashima and Y. Tokuoka	177-181
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
5-アミノレブリン酸によるプロトポルフィリンIXの生成に対する没食子酸エピガロカテキンの添加効果	2018/4	第8回ポルフィリン-ALA学会年会(東京農業大学世田谷キャンパス)	石井佳澄, 渡部信也, 落合晃, 蓮沼裕也, 山口智子, 徳岡由一		
W/Oマイクロエマルジョンを用いた5-アミノレブリン酸の経皮吸収促進	2018/4	第8回ポルフィリン-ALA学会年会(東京農業大学世田谷キャンパス)	比佐将大, 村山恵, 安井真央, 徳岡由一		
神奈川県内の臨床分離ESBL産生Escherichia coliにおけるPMQR遺伝子の保有状況	2018年6月1日	第66回日本化学療法学会総会 岡山コンベンションセンター	蓮沼裕也, 日吉望美, 除村萌, 徳岡由一		
プラスミド性AmpCおよびPlasmid inc type Kを検出した批判鶏肉由来CTX耐性Escherichia coliの全ゲノム解析	2018年6月1日	第66回日本化学療法学会総会 岡山コンベンションセンター	日吉望美, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
国産・外国産市販鶏肉由来 広域セファロスポリン系薬耐性大腸菌 保有プラスミドの比較	2018年5月12日	第67回 日本医学検査学会 アクトシティ浜松	日吉望美, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
5-アミノレブリン酸によるプロトポルフィリンIXの生成に対するカテキン類の添加効果	2018/7	第40回日本光医学・光生物学会(東北大学片平さくらホール)	石井佳澄, 渡部信也, 落合晃, 蓮沼裕也, 山口智子, 徳岡由一		
院内感染原因金に対する酸化チタン光触媒反応を用いたPETフィルム抗菌効果の検討	2018年8月18日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 北海道大学 学術交流会館	細井優輝, 池上和志, 徳岡由一 , 蓮沼裕也		
培地の違いによるStaphylococcus aureusのカロテノイド系化合物抽出色素の比較	2018年8月18日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 北海道大学 学術交流会館	佐藤麻美, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
W/Oマイクロエマルジョンを用いた5-アミノレブリン酸の経皮吸収促進	2018/9	日本油化学会第57回年会(神戸学院大学有瀬キャンパス)	比佐将大, 村山恵, 安井真央, 徳岡由一		
音響キャビテーションによるヒドロキシルラジカルの生成に及ぼす界面活性剤の添加効果	2018/9	日本油化学会第57回年会(神戸学院大学有瀬キャンパス)	松本大志, 徳岡由一		
「市販食肉由来広域セファロスポリン耐性腸内細菌科細菌の薬剤耐性伝達能」	2018年9月15日	第2回 日本ワンヘルスサイエンス学会年次学術集会	中村匡秀, 日吉望美, 田中雅也, 東希実, 徳岡由一 , 蓮沼裕也		

「健常人における 広域セファロスポリン耐性腸内細菌科の 保菌率と分子疫学的特徴」	2018年9月15日	第2回 日本ワンヘルスサイエンス学会年次学術集会	東希実, 蓮沼裕也, 日吉望美, 中村匡秀, 徳岡由一
「Epidemiological characterization of CTX resistant Escherichia coli isolates from retail chicken meats in Japan」	2018年9月23日	The 33rd World Congress of Biomedical Laboratory Science	Nozomi HIYOSHI, Yuya HASUNUMA, Masaya TANAKA, Yoshikazu TOKUOKA
「Epidemiological Study Model of The Antimicrobial Resistance for One Prefecture in Japan; Extended-Spectrum b-Lactamase Producing Escherichia coli Isolated from Less Than 300 Bed Medical Facilities」	2018年9月23日	The 33rd World Congress of Biomedical Laboratory Science	Yuya HASUNUMA, Moe YOKEMURA, Takashi ISHIMATSU, Nozomi HIYOSHI, Takuya TSUNODA, Satoshi KUGAWA, Yoshikazu TOKUOKA
Staphylococcus aureusの細胞構造に及ぼす白色LED光照射の影響	2018/11	第28回日本光線力学学会学術講演会(京王プラザホテル)	高橋篤史, 蓮沼裕也, 金沢浩平, 池上和志, 山口智子, 徳岡由一
5-アミノレブリン酸によるプロトプルフィン IX の産生に及ぼすカテキン類の影響	2018/11	第28回日本光線力学学会学術講演会(京王プラザホテル)	石井佳澄, 渡部信也, 落合晃, 蓮沼裕也, 山口智子, 徳岡由一
音響キャビテーションによるヒドロキシラジカルの生成に及ぼす界面活性剤の添加効果Ⅱ	2018/11	2018 年材料技術研究協会討論会(日本大学理工学部駿河台キャンパス)	松本大志, 徳岡由一
マイクロ波プラズマを用いた紫外線-オゾン発生装置による殺菌効果の評価	2018/11	2018 年材料技術研究協会討論会(日本大学理工学部駿河台キャンパス)	渡部篤也, 楠元直樹, 平岡茂美, 川島徳道, 徳岡由一
「市販鶏肉由来セフトキシム耐性 Escherichia coli の分子疫学的解析」	2019年2月1日	第30回 日本臨床微生物学会 総会・学術集会 グランドニッコー東京	日吉望美, 蓮沼裕也, 中村匡秀, 徳岡由一
「プラスミド性キノロン耐性タンパクqnrS保有 ESBL産生Escherichia coli の分子生物学的特徴」	2019年2月1日	第30回 日本臨床微生物学会 総会・学術集会 グランドニッコー東京	蓮沼裕也, 日吉望美, 天野紗季, 新国駿, B.エンフジン, 久川聡, 徳岡由一
チロシナーゼ阻害活性に及ぼすコーヒー中のクロロゲン酸誘導体の影響	2019/3	日本化学会第99春季年会(2019)(甲南大学 岡本キャンパス)	松村有里子, 山口智子, 岩田理, 徳岡由一
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
昭和薬科大学 特別講義「光でがんを治すー光線力学的診断・治療ー」	2018年10月	昭和薬科大学	昭和薬科大学
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2016年4月1日～2019年3月31日(3年間)	「LED白色光を用いた新規殺菌法の開発」(研究代表)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会、日本臨床微生物学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員(現在に至る)
2008年4月～現在に至る	色材協会関東支部審議委員(現在に至る)

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年 : 1955(昭和30)年
 籍 : 1994(平成6)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.

専門分野 : 分子生物学、免疫工学
 前職 : 順天堂大学医学部助教授
 学内役職等 : 工学研究科長(2014～)
 留学 : Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員

資格 :
 非常勤講師 : 順天堂大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2)演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「Fc γ RIIb on B cells and 1 myeloid cells modulates B cell activation and autoantibody」	共著	2018年9月26日	The Journal of Immunology 2018 Dec 1.	Qingshun Lin, Mareki Ohtsuji, Hirofumi Amano, Hiromichi Tsurui, Norihiro Tada, Ryota Sato, Hidehiro Fukuyama, Hiroyuki Nishimura , J. Sjeff Verbeek, Sachiko Hirose	201(11):3199-3210.
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced tolerance」	2018年12月20日	The 47th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology	Hiroyuki Nishimura , Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji, Yo Kodera, Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, J.Sjeff Verbeek, Sachiko Hirose		
「Treatment with anti-CD11b antibody ameliorates arthritis in novel arthritis-prone mouse model」	2018年12月10～12日	The 47th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Fukuoka, Japan	Mareki Ohtsuji, Qingshun Lin, Hirofumi Amano, Hideo Yagita, Kazuko Takahashi, Hideki Okazaki, Hiroyuki Nishimura , Hirose Sachiko		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野：生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職：東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等：工学研究科長、先端医用工学センター長(2018～)
 医用工学部長、工学研究科長、医用工学部生命・環境システム工学科長、医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長(～2017)
 留学：米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格：高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 非常勤講師：筑波大学
 受賞・表彰：手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高血圧研究会奨励賞(1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方向的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。 毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
[4-Hydroxyderricin inhibits osteoclast formation and osteoblast differentiation]	共著	2019年2月1日	Cytotechnology 71, DOI 10.1007/s10616-018-0236-2	Hiromi HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Hitoshi MIYAZAKI, Sanae Maehashi, Yuki Komiyama, Rieko AIDA, Shigeki YOSHIDA, Daichi KOKUBU, Keitaro HAGIWARA, Kaoru YOSHIDA	15-22

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「アピゲニンによるmiRNA34a-5pの発現増加はアピゲニンの抗ガン効果の一因となる可能性がある」	2018年5月25日	第18回日本抗加齢医学会総会	相田 利恵子, 山下 高玄, 萩原 啓太郎, 小畑 勇歩, 中田 享子, 鈴木 博明, 吉田 薫, 萩原 啓実
Effects of Genistein and Daizein in Isoflavones on Proliferation and Viability of Human Lung Cancer Cell A549	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering, Yokohama	Hiroaki SUZUKI, Kyoko NAKATA, Yuhō OBATA, Rieko AIDA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
「アピゲニンはmiR-34a-5pの発現を増加し、抗ガン作用を発揮する可能性がある」	2018年11月28日	第41回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	相田 利恵子, 山下 高玄, 中田 享子, 萩原 啓太郎, 吉田 薫, 岡野 和宣, 萩原 啓実
「Structure Relationship among Polyphenol on Differentiation of Osteoclasts and Osteoblasts」	2018年11月29～ 12月1日	7th Asia-Pacific Osteoporosis Conference Sydney Australia	Hiromi HAGIWARA , Kyoko NAKATA, Keitaro HAGIWARA, Tadashi GOTO, Kaoru YOSHIDA, Nobuaki SHIRAI, Hiroki TOMISAWA
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
細胞増殖の最適環境に関する研究	2018年4月～2019年3月	清水建設株式会社	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
7th Asia-Pacific Osteoporosis Conference で発表	2018年11月27～12月2日	Sydney, Australia	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会, 日本分子生物学会, 日本骨代謝学会, 米国骨代謝学会, 日本心血管内分泌代謝学会, 日本血管生物医学会, 日本動物細胞工学会, 日本抗加齢医学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事, 評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森 永 茂 生 (もりなが しげお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院博士課程
 学位：理学博士
 学位論文：A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen)
 in Recent Sediments by Chemical Degradation-Gas
 Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野：環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等：学務部副部長(2014～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト(前期)	2010年～2019年	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト(後期)	2010年～2019年	生命医工学科および臨床工学科の工学ワークショップ II 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 I (前期)	2010年～2019年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 III (前期)	2010年～2019年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 III 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
<p>トランス脂肪酸の過剰摂取が、心臓疾患に繋がることから、世界的にも懸念されている中、どのようにしてそれらを分離するか等の検討がなされている。包接化合物の一つである、シクロデキストリン(CD)は、α-CD、β-CDおよびγ-CDが知られており、それらによる飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸およびトランス脂肪酸の包接化合物は、白色沈殿を生じることで、その組合せや濃度などの条件の違いにより、分離することが可能であるかどうかの検討をしている。さらに、日本人の脂肪酸摂取量が、食の欧米化により、やや多くなっていることがわかっているが、シクロデキストリンによる脂肪酸の摂取制御を目的に、人工腸液をもとに脂肪酸等の摂取制御を検討している。また、近年、医療現場において、本来身体が持つべき免疫機能がは発揮できない易感染宿主が増え、通常病原性を示さない弱毒菌でも感染症を患うケースが増えている。よって、MRSAやVRE感染症を未然に防ぐための院内感染対策が各医療機関で義務づけられている。そのような中、酸化チタン光触媒を用いた、滅菌や殺菌に関する試みがされている。そこで、池上准教授のご協力のもと、池上研究室独自で作製されている酸化チタン薄膜を利用させていただくことになり、薄膜上での脂肪酸を中心とした有機物の光触媒反応の基礎研究を行っている。</p>

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2009(平成21)年1月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 医用工学専攻
学位：博士(工学)
学位論文：フィセチンの脂質代謝と糖代謝に及ぼす効果に関する研究
専門分野：臨床検査学、病院経営特論
前職：済生会横浜市東部病院
学内役職等：医用工学部学部長(2018～)
留学：
資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰、日韓交流功

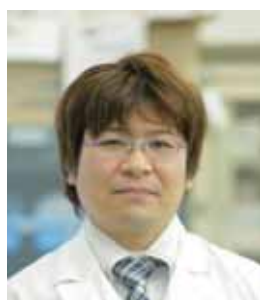
II 研究活動

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
日韓交流功労賞	2018年 6月	大韓臨床病理士協会	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会・分子生物学会・日本医療機器学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2016年4月～現在	日本ワンヘルスサイエンス学会理事

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 准教授



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部
 学 位 : 博士(医学)
 学 位 論 文 : IL-6 signal blockade ameliorates the enhanced osteoclastogenesis and the associated joint destruction in a novel FcγRIIB-deficient rheumatoid arthritis mouse model.
 専 門 分 野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : 熊本大学 医学部 免疫学講座(国内) 2003.4月-2004.3
 資 格 : 臨床検査技師
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
臨床医学、病理学、免疫学の知識をもとに、病態の発症機序を教授する	2010年より現在	内因、外因、環境要因が炎症(免疫)を惹起したときに、細胞内でおこる変化を病理学の観点から教授し、その結果として病態の進行過程を理解させる。(年次ごとに改定)
病理学、免疫学の知識をもとに、病態の発症機序を教授する	2010年より現在	内因、外因、環境要因が炎症(免疫)を惹起したときに、細胞内でおこる変化を病理学の観点から教授し、その結果として病態の進行過程を理解させる。年次ごとに改定
2.作成した教科書、教材、参考書		
病理学、臨床病理学、医学総論	2010年より現在	正常と異常の状態を、ミクロ的マクロ的に対比させた。内容に解剖学を含んでいることから、身体の中で起こる事象についても理解することができるように工夫した。年次ごとに改定
生命医工学セミナーⅣ(病理学実習)	2011年より現在	組織学、細胞学、病理技術学について、教科書に載っていない内容も加味した。
国試でかかれるシリーズ(解剖学、病理学、免疫学)	2012年より現在	臨床検査技師国家試験対策用資料集 国家試験の頻出範囲に的を絞った参考書。年次ごとに改定。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
RAモデルに対するサイトカイン抑制による治療実験 破骨細胞は末梢の単球に由来する細胞で、その活性化は関節リウマチの発症に関与している。加齢に伴いRAに近似した高度な関節炎を発症するB6.Slam ¹²⁹ マウスの背景を持つFcγRIIB発現欠損マウスに対してマウス抗CD11b抗体を投与し、末梢単球の血管外への遊走を抑制することで、関節炎の発症を抑制できるか否かを解析した。その結果、抗体非投与コントロールKO1マウスと比較して、5C6投与KO1マウスでは、関節炎の程度は高度に抑制された。また、血中自己抗体価も有意に抑制され、脾臓では、CD69 + およびPNA + 活性化B細胞や形質細胞の比率が対照群に比較して抑制されていた。このことから、マウス抗CD11b抗体投与により関節炎の抑制のみでなく、B細胞の活性化も抑制されたOhtsuji M.et al., <i>Arthritis Res Ther.</i> Feb 8;20(1):25, 2018。現在、これらの機序を解析中である。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「FcγRIIb on B cells and 1 myeloid cells modulates B cell activation and autoantibody」	共著	2018年9月26日	The Journal of Immunology 2018 Dec 1.	Qingshun Lin, Mareki Ohtsuji , Hirofumi Amano, Hiromichi Tsurui, Norihiro Tada, Ryota Sato, Hidehiro Fukuyama, Hiroyuki Nishimura, J. Sjef Verbeek, Sachiko Hirose	201(11):3199-3210.
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「Anti-cd11b antibody treatment prevents rheumatoid arthritis (RA) like disease in a novel RA-prone FcgRIIB-deficient mouse model.」	2018/4/26 ~28	第62回 日本リウマチ学会総会・学術集会	OHTSUJI Mareki , LIN Qingshun, AMANO Hirofumi, OKAZAKI Hieki, NISHIMURA Hiroyuki, HIROSE Sachiko		
「抗CD11b抗体投与によるFcγRIIB欠損マウスに自然発症する関節炎の抑制効果」	2018年5月12 ~13日	第67回 日本医学検査学会	齊藤 明日香, 平石 胡桃, 遠藤 百恵, 久保田 千晴, 菱沼 春華, 渡辺 祥子, 大辻 希樹		
「G-CSF遺伝子多型が好中球機能に及ぼす影響」	2018年8月17~20日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 札幌	遠藤 百恵, 岩田 智久, 加藤 紗希, 門倉 香織, 田中 萌, 杉崎 由季, 杉山 真由佳, 大辻 希樹		
「関節リウマチに対する新規抗体治療法の検討」	2018年8月17~20日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 札幌	久保田 千晴, 平石 胡桃, 齊藤 明日香, 菱沼 春華, 遠藤 百恵, 石井 大和, 櫻井 百花, 山田 理雄, 大辻 希樹		
「抗CD11b抗体投与によるKO1マウスに自然発症する関節炎の抑制効果」	2018年8月17~20日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 札幌	菱沼 春華, 平石 胡桃, 遠藤 百恵, 久保田 千晴, 齊藤 明日香, 石井 大和, 櫻井 百花, 山田 理雄, 大辻 希樹		
「Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced tolerance」	2018年12月20日	The 47th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology	Hiroyuki Nishimura, Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji , Yo Kodera, Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, J.Sjef Verbeek, Sachiko Hirose		
「Treatment with anti-CD11b antibody ameliorates arthritis in novel arthritis-prone mouse model」	2018年12月10~12日	The 47th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Fukuoka, Japan	Mareki Ohtsuji , Qingshun Lin, Hirofumi Amano, Hideo Yagita, Kazuko Takahashi, Hideki Okazaki, Hiroyuki Nishimura, Hirose Sachiko		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「まだ解明されていない自己免疫疾患の謎に取り組む」	2018年4月1日	スタディサプリ進路			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本免疫学会、アメリカ免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、東京都臨床検査技師会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
2019 FLL Japan Open, team sparrows, Adviser of Medicine	2018年8月~2019年3月	NPO法人 青少年科学技術振興会. FIRST Japan

吉田 薫 (よしだ かおる) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員
 学内役職等：研究推進部部长
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、カタユウレイボヤ精子誘引物質の受容体候補の機能解析を行い、受容体として機能する証拠を幾つか得た。これらについて、論文を投稿し、受理された。男性不妊症の基礎研究に関しては引き続き臨床検体の免疫染色による検査症例について、予後調査を行い、検査結果との関連性について解析を行った。また、学外との共同研究については、精子運動への水素の影響に関して、論文執筆を継続した。また、新たに極少数の精子を凍結保存する容器の開発に協力することになり、マウスを用いた安全性試験を行った結果について、論文を投稿し、受理された。更に、Mam1d1遺伝子機能解析についての共同研究においても、マウス精巣での機能とヒト分娩に関連する機能の両面で解析が進み、マウス精巣での機能に関する論文を作成投稿し、受理された。学内では、萩原教授とのポリフェノール類の骨形成への影響、トリクロロエチレン代謝物の生体への影響等の共同研究を行い、データ解析および追加実験中である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
Modulation of sperm motility and function prior to fertilization in “Reproductive and Developmental Strategies: the Continuity of Life” (Ed. by K. Kobayashi, T. Kitano, Y. Iwao, & M. Kondo)	共著	2018年6月11日	Springer, Tokyo Japan	Yoshida, M. and Yoshida, K.	pp437-462
(学術論文)					
「Ca ²⁺ efflux via plasma membrane Ca ²⁺ -ATPase mediates chemotaxis in ascidian sperm」	共著	2018年11月9日	Scientific Reports volume 8 (2018)	Kaoru Yoshida, Kogiku Shiba, Kazuo Inaba, Manabu Yoshida	Article number: 16622
「4-Hydroxyderricin inhibits osteoclast formation and osteoblast differentiation」	共著	2018年12月3日	Cytotechnology DOI 10.1007/s10616-018-0236-2	Hiromi HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Hitoshi MIYAZAKI, Sanae Maehashi, Yuki Komiyama, Rieko AIDA, Shigeki YOSHIDA, Daichi KOKUBU, Keitaro HAGIWARA, Kaoru YOSHIDA	on line

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「PMCA and NCKX are expressed, but not involved in activation of sturgeons sperm motility」	2018年5月9-13日	18th International Symposium on Spermatology, Skogshem & Wijk Meetings, Stockholm, Sweden	Bondarenko, O., Yoshida, M., Yoshida, K. , Ono, C., Dzyuba, B. and Cosson, J.
「アピゲニンによるmiRNA34a-5pの発現増加はアピゲニンの抗ガン効果の一因となる可能性がある」	2018年5月25日	第18回日本抗加齢医学会総会	相田 利恵子, 山下 高玄, 萩原 啓太郎, 小畑 勇歩, 中田 享子, 鈴木 博明, 吉田 薫 , 萩原 啓実
「男性不妊外来検体におけるDEFB126遺伝子多型の頻度について」	2018年6月15-16日	日本アンドロロジー学会第37回学術大会 ラ・スイート神戸オーシャンズガーデン(兵庫県神戸市)	吉田 薫 , 吉池 美紀, 吉田 学, 岩本 晃明
「水素分子処置によるヒト精子の運動性改善方法」	2018年6月15-16日	日本アンドロロジー学会第37回学術大会 ラ・スイート神戸オーシャンズガーデン(兵庫県神戸市)	中田久美子, 吉田薫 , 河野博臣, 吉田学, 山下直樹
「極少数精子凍結保存用デバイス“MAYU”を用いたマウス精巣組織内精子凍結と受精および胚発生について」	2018年7月26日	第36回日本受精着床学会総会・学術講演会 幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)	中田久美子, 吉田薫 , 山下直樹
「極少数精子凍結保存用デバイス“MAYU”により凍結融解を行ったマウス精巣組織評価と胚発生について」	2018年9月6日	第63回日本生殖医学会学術講演会・総会 旭川市民文化会館(北海道旭川市)	中田久美子, 吉田薫 , 山下直樹
「カタユウレイボヤにおける精子特異的Ca ²⁺ チャンネルCatSperの役割」	2018年9月	日本動物学会第89回大会 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	木島 大雅, 黒川 大輔, 中山 理, 小笠原 道生, 吉田 薫 , 吉田 学
「カタユウレイボヤにおける生殖細胞特異的エンハンサーの探索」	2018年9月	日本動物学会第89回大会 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	池永 潤平, 黒川 大輔, 木島 大雅, 吉田 薫 , 吉田 学
「CRISPR/Cas9による遺伝子ノックダウン法を用いた精子特異的Ca ²⁺ チャンネルCatSperの機能解析」	2018年10月4-5日	第4回ホヤ研究会 東北大学青葉山キャンパス青葉サイエンスホール(宮城県仙台市)	吉田 学, 木島 大雅, 黒川 大輔, 吉田 薫 , 笹倉靖徳
「精子膜上に残存する精嚢分泌タンパク質 Semenogelinを指標とした新しい精液検査法の開発」	2018年11月28日	第41回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	佐藤 里佳, 猪鼻 達仁, 山崎 一恭, 岩本 晃明, 吉田 薫
「アピゲニンはmiR-34a-5pの発現を増加し、抗ガン作用を発揮する可能性がある」	2018年11月28日	第41回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	相田 利恵子, 山下 高玄, 中田 享子, 萩原 啓太郎, 吉田 薫 , 岡野 和宣, 萩原 啓実
「カタユウレイボヤ始原生殖細胞特異的なエンハンサーの探索」	2018年11月28日	第41回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	池永 潤平, 黒川 大輔, 木島 大雅, 吉田 薫 , 吉田 学
「細胞膜型Ca ²⁺ /ATPaseの一次構造からみた精子走化性の種特異性の分子基盤」	2018年11月29日	第41回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	西万里子, 池永潤平, 吉田薫 , 吉田学
「Structure Relationship among Polyphenol on Differentiation of Osteoclasts and Osteoblasts」	2018年11月30日	7th Asia-Pacific Osteoporosis Conference Sydney Australia	Hiromi HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Keitaro HAGIWARA, Tadashi GOTO, Kaoru YOSHIDA , Nobuaki SHIRAI, Hiroki TOMISAWA

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
AMED成育疾患克服等総合研究事業	2017年度～2019年度	最適なART選択に寄与する精子の質検査法確立と、精子の質を保全する技術の開発に関する研究 JP17gk0110027、研究分担者

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年10月～現在	日本動物学会男女共同参画委員
2016年10月～2018年9月	日本動物学会関東支部委員

大 沼 健 太 郎(おおぬま けんたろう) 専任講師



出 生 年 : 1974(昭和49)年
 在 籍 : 2016(平成28)年2月～
 最 終 学 歴 : 東京電機大学大学院先端科学技術研究科先端技術創
 生専攻
 学 位 : 博士(工学)
 学 位 論 文 : Extended-Timed-Automata外科手術モデルの構築と
 Scrub Nurse Robot用リアルタイム視覚認識システムの開
 発に関する研究
 専 門 分 野 : 医用電子工学、医用システム、人工臓器
 前 職 : 国立循環器病研究センター研究所人工臓器部 特任研
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 東京電機大学ME会奨励賞(2016年3月)
 第36回人工心臓と補助循環懇話会 若手賞(2008年3
 月)
 丹羽保次郎賞(2008年3月)
 SICE SI2005ベストセッション賞(連名)(2005年12月)
 バリアフリーシステム開発財団奨励賞(2003年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
物理系科目の演示	2016年4月～	以前より行われてきた演示実験を引き継いで実施、ほかに身の回りの物品等による簡易な演示で随時視覚的に板書を補足
パワーポイント、動画の併用	2017年4月～	一部の講義において、おもに視覚的理解を補足するためPCプレゼンテーションにおいて動画、アニメーションを活用
2.作成した教科書、教材、参考書		
プリントの作成	2016年4月～	演習、小テスト、補足資料等のプリントを適宜作成、配布
パワーポイント資料の作成	2017年4月～	講義内容の理解を助けるため、アニメーションや動画を用いたスライドを作成

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
<ul style="list-style-type: none"> ・自律的人工心臓制御に関する研究 科研費の助成を受け、生物の適応性・恒常性を表す数理モデルを応用した血液ポンプ流量制御を応用した準心拍動起動アルゴリズムを構築した。これまでに構築した脱血時の吸い付きを自己調節的に解除する制御法を検証するため模擬循環装置構成の吸い付き機構を構築した。 <ul style="list-style-type: none"> ・循環器系シミュレータの開発 人工心臓制御への応用をめざした電気等価回路による血行動態のPCシミュレータを構築した。現在まで簡易なモデルながら、動物実験における補助人工心臓制御の報告と類似した血行動態の変化を再現可能であった。また、シミュレータのマルチプラットフォーム化にむけて基本循環部分をWebアプリケーションとして実装した。 <ul style="list-style-type: none"> ・その他 模擬循環装置に関する研究開発において人工弁形状に関する検討をおこない、圧力波形との関係性を評価した。また、心拍の引き込み減少に関する新規解析手法の検討を開始した。

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
補助人工心臓評価用模擬循環装置のための人工弁に関する実験的検討	2018年6月	日本生体医工学学会大会(57), (札幌市)	大沼健太郎、住倉博仁、築谷朋典、巽英介、片野一夫、小嶋孝一、向林宏、本間章彦
腎灌流用カテーテル式血液ポンプにおけるポンプ形状の最適化に関する基礎的検討	2018年6月	日本生体医工学学会大会(57), (札幌市)	住倉博仁, 川越佑智, 大沼健太郎, 花田繁, 築谷朋典, 水野敏秀, 本間章彦, 武輪能明, 巽英介
周期性音刺激に対する自己心拍引き込み現象に関する基礎的検討	2018年9月	LIFE2018(ライフサポート学会大会(34)), (東京都)	大沼 健太郎、住倉 博仁、本間 章彦
A study on optimal pump design of a catheter-based intravascular rotary blood pump for assisting selective renal blood circulation	2018年11月	26th ISMCS2018, Tokyo, Japan	Sumikura H, Aoyagi K, Ohnuma K, Hanada S, Tsukiya T, Mizuno T, Homma A, Takewa Y, Tatsumi E.
空気圧駆動型補助人工心臓用ポータブル駆動装置の性能に与える回路内空気量の影響	2018年11月	日本人工臓器学会大会(56), (東京都)	築谷朋典、住倉博仁、大沼健太郎、本間章彦、小嶋孝一、巽英介
計算機による循環系シミュレーションの補助循環装置制御法開発への応用に関する検討	2018年11月	日本人工臓器学会大会(56), (東京都)	萩野渚海, 大沼健太郎, 住倉博仁, 本間章彦, 築谷朋典, 巽英介, 加藤綾子
腎灌流用カテーテル式血液ポンプにおけるポンプ形状の多目的最適化に関する検討	2018年11月	日本人工臓器学会大会(56), (東京都)	青柳慶, 住倉博仁, 大沼健太郎, 花田繁, 築谷朋典, 水野敏秀, 武輪能明, 巽英介, 本間章彦
補助人工心臓評価用模擬循環装置における人工弁形状と圧力波形の関係に関する検討	2018年11月	日本人工臓器学会大会(56), (東京都)	高塚一哉, 大沼健太郎, 住倉博仁, 築谷朋典, 巽英介, 片野一夫, 小嶋孝一, 向林宏, 本間章彦
失われた身体機能を人工物で置換する治療の未来	2019年2月	日本医工学治療学会学術大会(35), 市民公開講座・医工学治療の未来アイデア, (東京都)	志茂 太亮、石神 えみこ、萩 若萌、大沼 健太郎
生物学的な特性や機能性の解明と工学技術への応用がもたらす治療システム	2019年2月	日本医工学治療学会学術大会(35), 市民公開講座・医工学治療の未来アイデア, (東京都)	萩 若萌、石神 えみこ、志茂 太亮、大沼 健太郎
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
補助人工心臓用耐久試験装置の開発	2010年4月～現在	株式会社イワキ	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
生物学的適応アルゴリズムによる自律的人工心臓制御の開発と臨床的課題への応用	2017年4月～2020年3月(予定)	科学研究費補助金・基盤研究(C), (代表)	
急性心腎症候群の早期腎不全治療を目的としたカテーテル式補助循環装置の実用化研究	2016年4月～2020年3月(予定)	科学研究費補助金・基盤研究(B), (分担)	

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
補助人工心臓の安全性を向上 循環器病研究センターなど	2012年2月1日～現在	日経新聞Web刊, URL: http://www.nikkei.com/article/DGXNASGG0600S_Z10C12A2TJM000/?at=ALL
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(前編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_1
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(後編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_2
リレー随筆・初心に立ち返る	2018年12月10日	日本生体医工学会誌、生体医工学, 56(6), p. 272

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本人工臓器学会、ライフサポート学会、IEEE (EMBS)、日本生体医工学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2017年5月～現在	ライフサポート学会評議員
2017年12月～2018年3月	ライフサポート学会 第27回フロンティア講演会プログラム委員
2018年12月～2019年3月	ライフサポート学会 第28回フロンティア講演会プログラム委員
2019年5月～現在	日本人工臓器学会評議員

澤 口 能 一 (さわぐち よしかず) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2018(平成30)年4月～
 最終学歴：帝京大学大学院 薬学研究科 博士課程修了

学位：博士(薬学)
 学位論文：新生血管を標的とした免疫療法の開発
 ～抗関節リウマチおよび抗肥満効果～

専門分野：薬剤学、免疫学、医用工学
 前職：日本薬科大学 臨床薬剤学分野 助教
 学内役職等：講師
 留学：
 資格：薬剤師
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第49回日本薬学会関東支部会 優秀研究発表賞(2005年)

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター)DEVELOPMENT OF SECONDARY PREVENTION OF REOCCCLUSION BY ULTRASOUND	2018年4月13-16日	23rd Meeting of The European Society of Neurosonology and Cerebral Hemodynamics (チェコ・プラハ)	Yoshikazu Sawaguchi, Zuojun Wang, Hiroyuki Yamamoto, Ken Tachibana, Takanori Nakajima, Norio Nakata
(口頭)血栓成長モデルの開発・メカニズム解析と抗凝固薬の評価系への応用の可能性	2018年10月5-6日	第21回栓子検出と治療学会(サンルートプラザ東京/千葉県浦安市)	伊藤創馬、山本博之、澤口能一
(口頭)Development of a method to prevent recurrence of cerebral infarction with noninvasive ultrasound	2018年10月27日	桐蔭国際シンポジウム2018(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	Yoshikazu Sawaguchi, Souma Itou
(口頭)非侵襲的超音波による脳梗塞の再閉塞予防法開発	2019年2月22日	超音波研究会(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	澤口能一、伊藤創馬、山本博之

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本薬学会、日本脳神経超音波学会、日本栓子検出と治療学会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、基礎生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 学内役職等：講師
 留学：
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
毎年医療現場の状況を踏まえ、講義資料を作成している。前週の小試験を行い、重要な部分を復習・解説する。回収チェック後フィードバックを行う。		
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ実習教材	2010年～	
臨床生理学Ⅱ 教材		

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
ヒトを対象とした自律神経活動の変動、酸化ストレス・抗酸化力について、適正飲酒啓発を目的としてアルコール体質検査の実施、中高年マラソンランナーの生体応答(ボランティア含む)、体位変換による呼吸機能値の変化、大学生の精神的疲労度について、嗅覚や味覚等生理学に関する実験の基礎固めを行っている。スポーツ貧血に関するデータを検討し、外部へ今後発信する。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター)大学女子スポーツ選手における血中酸化・抗酸化状態とその測定意義	2018年9月8日	第73回日本体力医学会大会	蓮沼裕也、今西昭雄、鈴木政登、小山桂史、木村和宏、徳岡由一、太田 眞
(ポスター)大学女子バスケットボール選手における血中酸化・抗酸化状態とその測定意義	2018年11月2日	第29回日本臨床スポーツ医学会学術集会	太田 眞
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
第29回日本体力医学会スポーツ医学研修会	2018年8月3-4日	日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会	日本体育大学東京世田谷キャンパス、各教室および中央測定室など
○その他			
(その他特記事項)			
臨床検査技師国家試験問題注解 2019年版(金原出版) 2018年5月31日			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本看護科学会、日本栄養・食糧学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2014年9月～	日本体力医学会評議員	
2015年12月～	NPO法人ふるさと日本元氣塾 副理事長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
スポーツ大会、連行体操教室などの企画運営、スポーツに関する医学的な調査研究、地域間交流、青少年健全育成、健康長寿に寄与する。	2016年5月～	NPO法人 ふるさと日本元氣塾 副理事
日本体力医学会健康科学アドバイザー 実技講師	2018～	

濤川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2011(平成23)年4月～
最終学歴：獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
学位：
学位論文：
専門分野：生理学、臨床生理学、
前職：恩賜財団済生会横浜市東部病院
学内役職等：
留学：米国(4年)
資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略

2018年5月第68回日本医学検査学会において若手技師フォーラムを行った。副委員長としてフォーラムの立ち上げから人選、演題タイトルの選考、取り纏めを行った。AI and telemedicineの分野で、この成功を記録として残すため、神奈川県臨床検査技師会発行の機関誌への投稿を行い、医学検査への投稿は準備中である。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、超音波検査学会

任期、活動期間等

2018年度～2019年度

学会等における役職等

日本臨床衛生検査技師会若手技師国際化対応力向上WG委員

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助教



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：神奈川県近隣で分離される広域セファロスポリン耐性腸内細菌科の分子疫学解析
 専門分野：臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前職：東海大学医学部付属病院 院内感染対策室 技術員
 学内役職等：
 留学：
 資格：臨床検査技師、認定臨床微生物検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析科学認定士(初級)
 非常勤講師：茅ヶ崎看護専門学校 非常勤講師(微生物学)
 葵会柏看護専門学校 非常勤講師(微生物学)
 千葉科学大学危機感理学部 非常勤講師(微生物・医動物学実習)
 受賞・表彰：一般社団法人 色材協会 2014 JSCM Most Accessed

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
臨床検査技師国家試験のための補講	2012年9月～2019年2月	臨床検査技師国家資格取得のため、週5～6コマの補講を実施した。内容は各科目ごとの体系的な解説から、横断的な内容まで及んだ。補講内では、効率的かつ印象に残るよう、独自の表やイメージ像を図示するよう努めた。
臨床検査技師国家試験のための学内試験および問題演習にて○×問題の取り入れ	2012年9月～2019年2月	臨床検査技師国家資格取得のための学内試験には、本番での形式である5択以外に、○×問題を取り入れた。5択の場合、正解にたどり着いた時点で正答となるが、1文ずつ詳細な内容を理解しないままのケースがある。○×問題はその問題点を解決するのに有益であった。また受験直前の冬休み課題として、○×問題演習を行ったことで、記憶漏れや記憶ミスを抽出できた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命医工学実験Ⅱ 臨床微生物学実習 実習の手引き&レポート	2018年4月	
生命医工学セミナーⅠ 輸血・移植学実習 実習書	2018年6月	
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
医用工学部 FDセミナー 生命医工学科臨床検査技師国家試験の現状	2018年6月	過去6年間の臨床検査技師国家試験受験までの本学科の取り組みについてFDセミナーにて報告した。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
<p>家畜から分離される抗菌薬耐性菌研究の一環として、健常人および食用肉からの耐性菌分離を行った。また臨床検査センターの協力を得て、神奈川県や東京都の病院から分離される耐性菌ESBLの疫学調査を実施した。本研究は基礎研究と臨床現場をつなぐ橋渡的研究として、今後神奈川県近郊の耐性菌制御の一助となると確信している。これらの成果については論文執筆、投稿した。また耐性菌制御のため、抗菌薬を用いない感染症治療法として光線力学的療法PDTおよびPTによる抗菌活性について、標準菌株及び臨床菌株を用いて細菌学的立場から検討した。これらの成果の一部は学会発表、または論文執筆による報告を行った。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「Whole Genome Sequencing Analysis of CTX-M-55 Producing Escherichia coli Isolates from Clinical Patients in Japan」	共著	2018年12月12日	Int J Clin & Med Microbol	Yuya Hasunuma, Moe Yokemura, Nozomi Hiyoshi, Takashi Ishimatsu, Takuya Tsunoda, Satoshi Kugawa, Yoshikazu Tokuoka	2018,3; 136
「神奈川県内中小規模医療施設から分離されたCTX-M型β-lactamase産生Escherichia coliの疫学調査」	共著	2019年1月4日	臨床微生物学雑誌	除村萌, 蓮沼裕也, 石松尚, 角田拓也, 徳岡由一	2019(1)
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
国産・外国産市販鶏肉由来 広域セファロsporin系薬剤耐性大腸菌 保有プラスミドの比較	2018年5月12日	第67回 日本医学検査学会 アクトシティ浜松	日吉望美, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
神奈川県内の臨床分離ESBL産生 Escherichia coli におけるPMQR遺伝子の保有状況	2018年6月1日	第66回日本化学療法学会総会 岡山コンベンションセンター	蓮沼裕也, 日吉望美, 除村萌, 徳岡由一		
プラスミド性AmpCおよびPlasmid inc type Kを検出した批判鶏肉由来CTX耐性Escherichia coliの全ゲノム解析	2018年6月1日	第66回日本化学療法学会総会 岡山コンベンションセンター	日吉望美, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
院内感染原因菌に対する酸化チタン光触媒反応を用いたPETフィルム抗菌効果の検討	2018年8月18日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 北海道大学 学術交流会館	細井優輝, 池上和志, 徳岡由一, 蓮沼裕也		
培地の違いによるStaphylococcus aureusのカロテノイド系化合物抽出色素の比較	2018年8月18日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 北海道大学 学術交流会館	佐藤麻美, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
健常人における 広域セファロsporin耐性腸内細菌科の 保菌率と分子疫学的特徴	2018年9月15日	第2回 日本ワンヘルスサイエンス学会年次学術集会	東希実, 蓮沼裕也, 日吉望美, 中村匡秀, 徳岡由一		
市販食肉由来広域セファロsporin耐性 腸内細菌科細菌の薬剤耐性伝達能	2018年9月15日	第2回 日本ワンヘルスサイエンス学会年次学術集会	中村匡秀, 日吉望美, 田中雅也, 東希実, 徳岡由一, 蓮沼裕也		
Epidemiological characterization of CTX resistant Escherichia coli isolates from retail chicken meats in Japan	2018年9月23日	The 33rd World Congress of Biomedical Laboratory Science	Nozomi HIYOSHI, Yuya HASUNUMA, Masaya TANAKA, Yoshikazu TOKUOKA		
Epidemiological Study Model of The Antimicrobial Resistance for One Prefecture in Japan; Extended-Spectrum b-Lactamase Producing Escherichia coli Isolated from Less Than 300 Bed Medical Facilities	2018年9月23日	The 33rd World Congress of Biomedical Laboratory Science	Yuya HASUNUMA, Moe YOKEMURA, Takashi ISHIMATSU, Nozomi HIYOSHI, Takuya TSUNODA, Satoshi KUGAWA, Yoshikazu TOKUOKA		
市販鶏肉由来セフトキサシム耐性Escherichia coliの分子疫学的解析	2019年2月1日	第30回 日本臨床微生物学会 総会・学術集会 グランドニッコー東京	日吉望美, 蓮沼裕也, 中村匡秀, 徳岡由一		
プラスミド性キノロン耐性タンパクqnrS保有 ESBL産生Escherichia coliの分子生物学的特徴	2019年2月1日	第30回 日本臨床微生物学会 総会・学術集会 グランドニッコー東京	蓮沼裕也, 日吉望美, 天野紗季, 新国駿, B.エンフジン, 久川聡, 徳岡由一		

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
Young Scientist Award (KAMT賞)	2018年9月26日	International Federation of Biomedical Laboratory Science	Yuya Hasunuma
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
白色LEDを用いた <i>Staphylococcus aureus</i> の新規殺菌法の検討	2016年4月～2019年3月	文部科学省科研費 基盤C 分担	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
IFBLS 2018での発表	2018/9/22-27	フィレンツェ・イタリア	
(その他特記事項)			
株式会社 保健科学研究所と共同で、神奈川近郊の病院から検出される耐性菌の疫学調査を実施(2014年12月～現在)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本化学療法学会、日本ワンヘルスサイエンス学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

佐藤 敏夫 (さとう としお) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 1997(平成9)年12月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位 : 博士(医学)、博士(工学)
 学位論文 : Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs(医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究(工学博士論文)
 専門分野 : 生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職 : (株)東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等 : キャリア情報センター副センター長(2013～)
 医用工学部臨床工学科学科長(2018～)
 留資格 : 第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師 : 千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科
 受賞・表彰 : 科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞(1992)
 2002年度材料技術研究協会討論会 技術賞
 2003年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2008年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞(腎臓)
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2017年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年(2017年度3年次学生)のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
2018年度は、これまで基礎研究を積み重ねてきた血液透析患者のシャント音の変化からバスキュラーアクセス機能を評価する新しい方法に関する研究において透析施設と共同研究を開始し、基礎研究で得られた技術や経験に基づく臨床実験を行うことができた。学内での実験的な基礎研究や理論検討を充実することで、臨床実験にスムーズに移行することが可能となり、2019年度からはその経過や成果を外部に発信できるものと考えている。それと同時に血液浄化療法に関連する医療材料の最適化やモニタリング方法の提案も行っており、メーカーや医療現場が必要とするニーズに応える研究活動を継続していきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討	共著	2018年	医工学治療Vol.30 No.1	島崎直也、中根紀章、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.41-52
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討—第2報:側孔の数と配置が脱水特性に及ぼす影響	共著	2018年	医工学治療Vol.30 No.3	島崎直也、中根紀章、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.170-181
Swallowing Sound Analysis System for Quantitative Evaluation of Dysphagia Rehabilitation	共著	2018年	桐蔭論叢第38号	Masaya Kani, Rika Furutaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi	pp.89-96
Vascular access function assessment by combination of normalized cross-correlation coefficient and duration time	共著	2018年	桐蔭論叢第38号	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	pp.97-104
(総説・論説)					
高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み	共著	2018年6月15日	人工臓器 47巻 1号 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	島崎直也、中根紀章、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	40頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
嚥下音測定に基づく嚥下補助飲食品の飲み込み評価システムの提案	2018年6月19～21日	第57回日本生体医工学会大会、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	可児雅弥、古滝莉加、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三、高橋常男		
正規化相互相関係数と基準化持続時間の同時モニタリングによるバスキュラーアクセス機能診断方法	2018年6月19～21日	第57回日本生体医工学会大会、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	佐々木一真、井上周杜、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
側副血行路を有するバスキュラーアクセスに対するシャント音分析による機能評価法の実験的検証	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐々木一真、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
粒子画像流速測定法を用いたVA狭窄直後の流れの可視化とシャント音の関連	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐々木一真、中島大輝、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		

透析患者の誤嚥性肺炎予防を目的とした嚥下音分析による嚥下機能評価と嚥下関連筋との関係	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	可児雅弥、山内 忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三、高橋常男
PIVを用いた17G血液透析用留置針内部の流れの可視化による側孔の影響についての検証	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	山内 忍、梶谷智博、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三
血液粘性を考慮した17G血液透析用留置針の最適形状に関する数値流体力学(CFD)解析	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	山内 忍、宮田茉莉奈、島崎直也、奥知子、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三
3Dプリンターを用いた血液凝固を抑制できる静脈側エアトラップチャンバの最適形状に関する検討	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐藤敏夫 、中山大樹、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三
血液凝固に伴う吸光モニタリングによる回路内凝固検出の試み	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐藤敏夫 、古川春花、坂元英雄、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三
ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象に関する定量的評価システムの検討	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	鈴木博子、山内 忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三
嚥下困難者用食事の各種物性値が嚥下音に及ぼす影響に関する時間-周波数解析	2018年9月12日～14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会、大分大学(大分県大分市)	可児雅弥、嶋崎 舞、 佐藤敏夫 、奥知子、山内 忍、本橋由香、高橋常男、阿岸鉄三
血液透析患者のバスキュラーアクセスの狭窄に伴うシャント音と血管抵抗指数の経時変化と血管内血液流れとの関連	2018年9月12日～14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会、大分大学(大分県大分市)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、 佐藤敏夫 、奥知子、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三、中根紀章
Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Examination of a method for detecting blood coagulation by monitoring the absorbance of blood in the circuit as blood coagulation progresses	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Haruka Furukawa, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
High-precision visualization of flow velocity distribution in indwelling needles for hemodialysis using particle image velocimetry	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomohiro Masaya, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi

Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Analysis with a fluid with the same viscosity as blood—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Marina Miyata, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Associations between visualizations of flow in artificial angiostenosis models with particle image velocimetry and the acoustic properties of shunt murmurs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakajima, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Usability of numerical computation about mechanism of generating shunt murmur	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Experimental investigation of the optimal shape of venous air trap chambers to prevent blood coagulation	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakayama, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Basic study on assessment of vascular assess function with shunt murmur analysis measured with an electronic stethoscope in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment of the swallowing reflex-inducing effects of different carbonation concentrations of carbonated water	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Mai Shimazaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Investigation of the optimal shape of coaxial double-lumen catheters to reduce phenomenon of sticking to blood vessel wall	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kiyono Sugano, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment system of phenomenon of sticking to blood vessel wall of double lumen catheters using the inferior vena cave of pigs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Comparison of a shunt murmur analysis method and the ultrasonic pulse Doppler method using an artificial angiostenosis model	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
高齢者に対するオーダーメイドの食事介助を目的とした非侵襲かつ定量的な新しい嚥下機能評価法の提案	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	可児雅弥、嶋崎 舞、本橋由香、山内 忍、奥 知子、 佐藤敏夫 、高橋常男、阿岸鉄三
超音波による血管抵抗指数とシャント音の時間-周波数解析によるバスキュラーアクセス機能評価法との関連	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、本橋由香、山内忍、奥 知子、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三

未来に託す夢の医療技術	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来アイデア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソランティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	斎藤直、小杉兼太、山内忍、奥知子、本橋由香、 佐藤敏夫
コンタクトレンズと医用画像装置のFuture Generation	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来アイデア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソランティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	曾我部勇希、小塚マーガレット、長澤 朔、八巻千晶、橋本和樹、本橋由香、山内忍、奥知子、 佐藤敏夫
嚥下音分析による非侵襲嚥下機能評価法を用いた嚥下調整食の最適物性の検討	2019年2月23日	第11回ヘルシエイジング学会学術集会、持田製薬ルークホール(東京都新宿区)	可児雅弥、嶋崎 舞、 佐藤敏夫 、奥知子、山内忍、本橋由香、阿岸鉄三

○その他

(表彰・受賞)

賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE :Oral Session Award」 Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD～Poster Session Award」 Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD～Poster Session Award」 Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会、日本生体医工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員
2017年5月～現在	日本医工学治療学会 特別理事

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年 : 1959(昭和34)年
 在籍 : 1999(平成11)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : 光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野 : 信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職 : 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 学内役職等 : 教務委員(工学系学部)(2003～2012)
 規程検討委員会委員(2008～2015)
 おもしろ理科教室実行委員会委員(2009～)委員長(2011
 入試・広報センター(2013～2015)、
 アドミッション委員(2012～2015)
 大学入試センター試験 試験場本部 統括責任(2012～
 図書館運営委員(2013～2015)
 ハラスメント対策委員(2013)
 情報処理教育委員(2013～)
 インディカフェ(2013～2015)
 (社)私立大学情報教育協会(2013～)窓口
 (電算事故調査委員会委員(2015))
 学生部長(2016)、学生委員会(委員長)(2016～)
 文化教育推進本部(2016～)

留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 電気学会論文発表賞(1992)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月 2015年4月 2016年4月 2017年4月 2018年4月	毎年新入生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理Ⅰ 物理Ⅱ	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月 2014年4月および9月 2015年4月および9月 2016年4月および9月 2017年4月および9月 2018年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理Ⅰ」、「物理Ⅱ」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理Ⅰは静力学、物理Ⅱは電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。

システム工学	2017年4月 2018年4月	生命医工学科および臨床工学科の2年次科目「システム工学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。
医用工学総論Ⅰ、Ⅱサブテキスト	2017年4月および9月 2018年4月および9月	医用工学総論Ⅰサブテキストは、第2種ME試験対策として作成した。また、医用工学総論Ⅱサブテキストは、臨床工学技士国家試験対策として作成した。
力学	2017年4月 2018年4月	臨床工学科2年次科目「力学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。
電磁気学	2017年9月 2018年9月	臨床工学科2年次科目「電磁気学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>科研費の研究の3年目(最終年度)として、昨年に引き続き、通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動解析により、植物の水ストレスを推定するための研究を行った。2017年度は、葉の固有振動数を求める際に用いている相関追尾法の代わりとして、画像の特定矩形領域の明るさの揺らぎを測定することにより葉の振動を捉える新しい方法を考案したので、今年度は、その方法を用いて、葉の固有振動数が測れるかの検証実験を行った。その結果、まだ、どの波形を選択するかで、人間の判断は必要なものの、従来の相関追尾法による結果と同様の結果を得ることができた。</p> <p>科研費のこのテーマは今年度で終了であり、採用していた研究員も退職するので、この研究の継続は難しいが、来年度は、脈波解析による血管年齢推定や、脈拍数・呼吸数の遠隔計測等、植物以外のテーマについて進める予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「空中超音波の音響放射圧 ―気体分子運動論的アプローチ―」	単著	2018年6月15日	桐蔭論叢 第38号	佐野元昭	131-136 頁
「CCDカメラを用いた葉の固有振動数解析による植物の水ストレス解析2」	共著	2018年8月23日	電子情報通信学会技術研究報告 Vol.118, No. 199 (US2018-44)	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美	19-24 頁
「縦挿し型送受信機を用いた土壌中の伝搬速度計測(3)」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	白川貴志, 内川千春, 大平武征, 中川裕, 佐野元昭, 杉本恒美	127-130頁
「植物の葉の固有振動数の日周変動を用いた灌水制御についての検討」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	内川千春, 杉本恒美, 佐野元昭, 大平武征, 中川裕, 白川貴志	121-126頁
「小松菜を定植した培養土中の音波伝搬速度と体積含水率の検討(Ⅱ)」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	大平武征, 杉本恒美, 佐野元昭, 白川貴志, 中川裕, 内川千春	117-120頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
CCDカメラを用いた葉の固有振動解析による植物の水ストレス状態の推定2	2018年8月30日	超音波研究会 東京工業大学田町キャンパス	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美		
CCDカメラを用いた葉の固有振動計測による植物の水分ストレスの検出2	2018年9月19-21日	日本生物環境工学会2018東京大会 東京農工大学府中キャンパス	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美		

「音波振動を用いた植物の育成状態評価に関する検討」	2018年9月20日	日本生物環境工学回2018年 東京大会 東京農工大・府中キャンパス	杉本恒美, 佐野元昭 , 内川千春, 大平武征, 中川裕, 白川貴志
「Propagation velocity in soil using Handheld Sound Source and Sensors(IV)」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F, Toin University of Yokohama	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Chiharu Uchikawa, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto
「Natural frequency measurement of plant leaf using image analysis」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F, Toin University of Yokohama	Chiharu Uchikawa, Motoaki Sano , Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto
「CCDカメラ画像のゆらぎによる葉の固有振動数解析と植物の水ストレス推定」 An analysis of natural frequency of leaf by the fluctuation of CCD camera image and the estimation of water stress of plant	2018年10月29-31日	超音波シンポジウム (USE2018) 同志社大学今出川校地、室 町キャンパス寒梅館 The 39th Symposium on UltraSonic Electronics (USE 2018) Kambaikan, Doshisha University	佐野元昭 , 内川千春, 中川裕, 大 平武征, 白川貴志, 杉本恒美 Motoaki Sano, Chiharu Uchikawa, Yutaka Nakagawa, Takeyuki Ohdaira, Takashi Shirakawa, and Tsuneyoshi Sugimoto
「CCDカメラ画像の矩形領域化による葉の固有振動数解析と植物の水ストレス推定」	2019年3月5日	音響春季研究発表会2019年 春季講演発表会 電気通信大学	佐野元昭 , 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 中川裕, 杉本恒美
Webカメラ映像の矩形領域分割による葉の固有振動数解析と植物の水ストレス推定	2019年3月20日	2019年電子通信情報学会総 合大会 早稲田大学西早稲 田キャンパス	佐野元昭 , 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 中川裕, 杉本恒美
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費助成事業	2016年4月～2019年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会、日本生物環境工学会

竹内 真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年 : 1956(昭和31)年
 在籍 : 1994(平成6)年4月～
 最終学歴 : 武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専
 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する
 Study on applicability of microbubbles in harmonic
 imaging and development of ultrasound transducer for
 harmonic imaging(博士)
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職 : (株)トキメック研究開発センター計測電子システム部副主
 学内役職等 : 医用工学部臨床工学科長(2012～2017)
 学務部副部長(2010・2011)
 留学 :
 資格 : 第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝
 送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師 : 日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大
 学・医療保健学部・理学療法士学科、看護学科、作業療
 法士学科
 受賞・表彰 : 第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびそ
 の装置)、日本超音波医学会・超音波工学フェロー、電子
 情報通信学会・シニア会員、2000年度材料技術研究協
 会討論会ポスター賞受賞、2002年度材料技術研究協会
 技術賞、2002年度材料技術研究協会討論会ポスター
 賞、2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励
 賞、Japanese Journal of Applied Physics : “Spotlight
 Paper”, 2015年11月6日、第36回超音波エレクトロニクス
 の基礎と応用に関するシンポジウムにおいて超音波シン
 ポジウム論文賞を受賞(2015年11月6日)

I 研究活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
医用超音波工学のテキスト		特に、本年度はテキストと問題集を一冊の冊子にまとめることができた。
システム安全工学のテキスト		
生体計測装置学のテキスト		
生体物性工学のテキスト		

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>当研究室は主に、超音波の医療応用を目的とした研究を実施している。特に、本年も、超音波照射による脳腫瘍の治療を目的としたがん細胞のアポトーシス誘導の研究、心臓および血管内の治療診断を目的としたIVUS (Intra Vascular Ultrasound Imaging System) に使用する超小型超音波モーターの開発、IVUS 用超音波プローブの研究、低強度パルス超音波を利用した骨折治癒促進システムに応用する簡易形超音波骨折部位検出装置の研究、音響キャビテーションの発生を伴う高強度の超音波音場でも壊れることなく音圧や音響強度の空間分布を計測可能な堅牢方ハイドロホンの研究と実用化のための共同研究を行っている。さらに高強度の超音波音場計測技術の研究を行っている。本年度は、特に本年度は、堅牢方ハイドロホンの研究と実用化と、高強度の超音波音場計測技術の研究に力を入れてきた。実用化に向かっての具体的なアプローチを行っているところである。また、超音波モータに関しては、博士課程の社会人大学院生(つくば国際大学)大関誠也氏とともに、有限要素法を用いた理論検討に取り組み、コイル状ステータ超音波モータの動作メカニズムをある程度の範囲で明らかにすることができた。この成果をまとめることにより、博士課程の社会人大学院生(つくば国際大学)大関誠也氏は、本学大学院工学研究科から博士(工学)の学位を授与された。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Fundamental study on analysis of wave propagation on acoustic waveguide for coiled stator	共著	2018年7月	Japanese Journal of Applied Physics 57	Seiya Ozeki, Keisuke Kurita, Choyu Uehara, Noriaki Nakane, Toshio Sato, and Shinichi Takeuchi	
Analysis of coiled stator ultrasound motor: Fundamental study on analysis of wave propagation on acoustic waveguide for coiled stator	共著	2018年7月	Japanese Journal of Applied Physics 57	Seiya Ozeki, Keisuke Kurita, Choyu Uehara, Noriaki Nakane, Toshio Sato, and Shinichi Takeuchi	07KE16 -1 ~5頁
Relationship between acoustic cavitation bubble behavior and output signal from tough hydrophone using high-speed camera in high-frequency and low-frequency acoustic fields	共著	2018年7月	Japanese Journal of Applied Physics 57	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, and Shinichi Takeuchi	07KE16 -1 ~5頁
Experimental Evaluation of High Intensity Ultrasound Source System using Acoustic Waveguide and Concave Transducer with 100 mm Diameter for Calibration of Hydrophone	共著	2018年10月	Proceedings of IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2018),	Shigeru Igarashi, Takeshi Morishita, Shinichi Takeuchi	P2-C6-5
Development of anti-cavitation hydrophone -Study on the novel hydrophone with new cap structure titanium front plate -	共著	2018年10月	Proceedings of IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2018),	Michihisa Shiiba, Mayu Yahagi, Takeshi Morishita, Nagaya Okada, Minoru Kurosawa, Shinichi Takeuchi	P1-C14-1
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
キャップ型堅牢ハイドロホンの構造の再検討	2018年 5月	電子情報通信学会技術報告 vol. 118, no. 101, US2018-14, pp. 17-22, 2018年 5月. (機械振興会館、東京) 2018. 5.	椎葉倫久、矢作麻結、森下武志、岡田長也、黒澤実、 竹内真一		

細胞培養容器が超音波の音場に及ぼす影響の数値シミュレーション	2018年6月	日本超音波医学会第91回学術集会プログラム・抄録集(超音波医学の知と技を究める)、2018年6月、p. S594 (神戸ポートピアホテル、神戸)	浅岡直樹, 五十嵐茂, 竹内真一
マウスMC3T3-E1 前骨芽細胞様細胞に対する低出力パルス超音波の効果	2018年6月	日本超音波医学会第91回学術集会プログラム・抄録集(超音波医学の知と技を究める)、p. S574 (神戸ポートピアホテル、神戸)	田淵圭章, 轟 勇人, 鈴木信雄, 平野哲史, 竹内真一, 椎葉倫久, 近藤 隆, 長谷川英之
医療応用を目的としたコイル状ステータ超音波モータの音響導波路上における振動伝搬の解析	2018年 6月	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会、電子情報通信学会技術報告 vol. 118, no. 102, US2018-27.(神奈川大学横浜キャンパス、横浜)2018. 6.	大関誠也、中根紀彰、佐藤敏夫、竹内真一
細胞培養容器が音場に及ぼす影響～細胞培養容器に吸音材を用いた場合の数値シミュレーション～	2018年 7月	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会、電子情報通信学会技術報告 vol. 118, no. 167, US2018-39, 2018年 7月.(京都工芸繊維大学、京都)	浅岡直樹・竹内真一
堅牢型ハイドロホンの前面板の構造と特性の関係	2018年9月14日	日本音響学会2018年秋季研究発表会講演論文集、3-P-17 (大分大学且野原キャンパス、大分)	椎葉 倫久, 上原 長佑, 森下武志, 岡田 長也, 黒澤 実, 竹内 真一
神経膠芽腫細胞のための超音波照射用音響窓付き着細胞培養フラスコの開発と評価	2018年10月20日	第 39 回 超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム2018 (USE2018)、1P5-18、同志社大学・今出川校地 室町キャンパス(京都)	岩城 咲乃, 浅岡 直樹, 小野塚 善文, 薬袋正恒, 西村 裕之, 竹内 真一
堅牢型ハイドロホンの前面板構造が特性に与える影響 -3種類の前面板構造の検討-	2018年10月21日	第 39 回 超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム2018 (USE2018)、2P4-6、同志社大学・今出川校地 室町キャンパス(京都)	椎葉倫久、上原長佑、貝瀬不二丸、森下武志、岡田長也、黒澤 実、竹内 真一
Experimental Evaluation of High Intensity Ultrasound Source System using Acoustic Waveguide and Concave Transducer with 100 mm Diameter for Calibration of Hydrophone	October 23rd 2018	IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2018), P2-C6-5,Kobe,Japan	Shigeru Igarashi, Takeshi Morishita, Shinichi Takeuchi
Development of anti-cavitation hydrophone -Study on the novel hydrophone with new cap structure titanium front plate -	October 22th 2018	IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2018), P1-C14-1, ,Kobe,Japan	Michihisa Shiiba, Mayu Yahagi, Takeshi Morishita, Nagaya Okada, Minoru Kurosawa, Shinichi Takeuchi
Study on Analysis of the dispersion characteristic on Acoustic Waveguide for Coiled Stator Ultrasound Motor	Oct. 27, 2018	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2018,Yokohama,Japan	Seiya OZEKI, Keisuke Kurita, Noriaki NAKANE, Toshio SATO, and Shinichi TAKEUCHI

Influence of cell culture vessel on acoustic field ~ FEM simulation for control of acoustic intensity at bottom of culture vessel ~	Oct. 27, 2018	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2018, Yokohama, Japan	Naoki Asaoka, Shinichi Takeuchi
Proposal of structure of adhesiveless hydrophone	Oct. 27, 2018	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2018, Yokohama, Japan	Fujimaru KAISE, Yuma OOYA, Takeshi MORISHITA, Shinichi TAKEUCHI
Measurement of Linearity for Applied Voltage versus Acoustic Pressure on High Intensity Ultrasound Source using Acoustic Waveguide	Oct. 27, 2018	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2018, Yokohama, Japan	Shigeru IGARASHI, Takeshi MORISHITA and Shinichi TAKEUCHI
神経膠芽腫細胞のための超音波照射実験用音響窓付き付着細胞培養プラスチックの作製と評価に関する検討”	2018年11月	第17回日本超音波治療研究会 (17th JSTU)と日本超音波医学会・第2回超音波分子診断治療研究会の共催 (東京・霞ヶ関)	岩城咲乃, 浅岡直樹, 小野塚善文, 西村裕之, 竹内真一
細胞培養容器が超音波の音場に及ぼす影響の数値シミュレーション -吸音材が超音波の音場に及ぼす影響	2018年11月	第17回日本超音波治療研究会 (17th JSTU)と日本超音波医学会・第2回超音波分子診断治療研究会の共催 (東京・霞ヶ関)	浅岡直樹, 竹内真一
超音波治療装置の音場測定を目的とした円柱型前面板付き堅牢型ハイドロホンの開発とその評価	2018年11月	第17回日本超音波治療研究会 (17th JSTU)と日本超音波医学会・第2回超音波分子診断治療研究会の共催 (東京・霞ヶ関)	貝瀬不二丸, 椎葉倫久, 上原長佑, 森下武志, 岡田長也, 黒澤実, 竹内真一
高強度超音波音場計測用堅牢ハイドロホンの受波感度校正を目的とした音響導波路を用いた高強度超音波音源システム	2018年11月	第17回日本超音波治療研究会 (17th JSTU)と日本超音波医学会・第2回超音波分子診断治療研究会の共催 (東京・霞ヶ関)	竹内真一 , 森下武志, 五十嵐茂
堅牢ハイドロホンの前面板形状が耐久性と受波感度へ及ぼす影響	2019年1月	電子情報通信学会・日本音響学会共催 超音波研究会、US2018-106。(同志社大学、京都)	貝瀬不二丸, 椎葉倫久, 森下武志, 岡田長也, 黒澤実, 竹内真一
強力超音波音場に挿入した堅牢ハイドロホン近傍に生じた音響キャビテーションバブルの観察	2019年2月	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会、日本超音波医学会超音波分子診断治療研究会共催、日本非破壊検査協会・超音波分科会共催、US2018-113。(桐蔭横浜大学、神奈川)	岡田長也, 椎葉倫久, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一
細胞培養容器が音場に及ぼす影響 ~ 容器寸法が音場に及ぼす影響 ~	2019年2月	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会、日本超音波医学会超音波分子診断治療研究会共催、日本非破壊検査協会・超音波分科会共催、US2018-113。(桐蔭横浜大学、神奈川)	浅岡直樹・岩城咲乃・ 竹内真一
堅牢ハイドロホンの構造の再検討及び耐久性評価	2019年3月	日本音響学会2019年春季研究発表会、1-Q-32 (電気通信大学、東京・調布)	貝瀬不二丸, 椎葉倫久, 森下武志, 岡田長也, 黒澤実, 竹内真一

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
医療応用を目的とした超小型コイル状ステータ超音波モータ(CS_USM)に関する研究	2018年10月12日(金)	精密工学会 次世代センサ・アクチュエータ専門委員会 第15回定期講習会	東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子株式会社	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子・奨学寄附金	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年5月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2008年5月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員
2011年5月～現在	超音波シンポジウム論文委員会委員
2009年4月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2009年5月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー
2015年8月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2010年4月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2011年4月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員(再任)
2017年4月～2019年3月	日本超音波医学会・超音波分子診断治療研究会・代表
2017年5月～2018年5月	電子情報通信学会・超音波研究専門委員会・副委員長
2017年5月～2018年5月	日本音響学会・超音波研究委員会・副委員長
2018年5月～2019年5月	電子情報通信学会・超音波研究専門委員会・委員長
2018年5月～2019年5月	日本音響学会・超音波研究委員会・委員長



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野：計算科学の最適化アルゴリズム、ヒューリスティック・アルゴリズム、機械学習に興味を持つ
 前職：株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等：発明評価委員会委員長、学生委員会委員、ハラスメント相(前年度学内役職等)：図書館運営委員会委員、英語村実行委員会の委員
 留学：
 資格：アマチュア無線技士(電話級)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の一部の担当科目用のホームページを作成し、授業の講義内容等を公開している	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://www.ajape.org/
(2)本学園の高校の「(理科)課題研究」の指導教員	2012年～2018年	桐蔭学園高等学校の理科課題研究

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
機械学習の分野の分類方法であるk-近傍法で予測を行うときにヒューリスティックスアルゴリズムの検討を行った。臨床データの属性数の多い場合はその組み合わせ数も膨大となり、事実上その空間の全網羅の検索は不可能である。このため遺伝的アルゴリズムの応用の検討を行った。その一部の結果は「An Immune Algorithm with an Evolutionary Scheme for Component Selection for the kNN Method」の論文にまとめられ、IEEE World Congress on Computational Intelligence (WCCI 2018)の国際学会で発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「Improving the Accuracy of the KNN Method When Using an Even Number K of Neighbors」	共著	2019/1/28	IFME Proceedings: ICBHI 2015, Vol. 64, Springer	Alberto Palacios Pawlovsky, Daisuke Kurematsu	pp.49-55.

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「An Immune Algorithm with an Evolutionary Scheme for Component Selection for the kNN Method」	2018年7月13日	IEEE World Congress on Computational Intelligence (WCCI 2018)	Alberto Palacios Pawlovsky

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NPOの日本・ペルー共生協会(東京都)	2002年から現在まで	理事長
NPOの日本・ペルー共生協会(神奈川)	2017年から	理事長

森下武志 (もりした たけし) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専門分野：医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学
 前職：神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学内役職等：入試広報センター委員
 留学：東京大学大学院知能機械情報学系研究科 情報システム工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：Best Paper Award, Presented at the 22th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 2017)
 3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サンプルランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2)医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3)福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
(4)医療系学生への工作機械を用いた機械加工学と体験的学習の指導	2013年4月～現在	医療系技術者育成における、工作物が製造されるまでの設計・製図・加工・評価の一連の流れを体験させ実践力を養う指導を実践
(5)医療系学生への工学的実験検証体験の指導	2014年4月～現在	座学で学ぶ工学的理論を、実験によって確認させることでより深い理解力を養う指導を実践
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:医用工学総論 I	2012年4月～現在	3段式の復習を実現する第2種ME技術実力検定試験対策指導テキストと問題の作成
(2)科目:工学WS I 実習教材	2012年4月～現在	各種計測機器、設計製図、機械加工、実験の評価を系統立てた実践的教材とテキスト開発
(3)科目:工学WS II 実習教材	2012年4月～現在	実験計測と誤差、および統計的処理方に関する、実践的テキスト開発と実験での体験教育
(4)科目:福祉工学	2013年4月～現在	高齢社会、障害者など一般社会人として医療技術者として有用な知識を検定試験形式での教育教材の開発と実践
(5)科目:基礎工学実験教材	2014年4月～現在	交流回路実験を通して、波形、回路、位相、ベクトル等を座学や国試験問題等の裏付けを実験的に検証する教材開発

(6)科目:医用電磁気学	2014年8月～現在	ME検定試験、国家試験の電気系全般の問題対応力を確実に養うための、わかりやすい解説付き演習テキストの開発
(7)科目:工学へのステップテキスト	2015年8月～現在	数値の科学的処理方法、電子回路作成方法などをできる限りわかりやくしたテキストの全面改訂版作成
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(7)科目:電子工学テキスト	2017年4月～現在	ME検定試験、国家試験の電子系全般の問題対応力を確実に養うための、わかりやすい解説付き演習テキストの開発

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Study on Miniaturization of Traveling Capsule Inside Digestive Tract	共著	27th,October, 2018	Abstracts of 13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2018	Sorane YAMADA, Takeshi MORISHITA	pp148-149
Study on Removing Arterial Filter Remaining Bubbles with a Vibration Device	共著	27th,October, 2018	Abstracts of 13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2018	Risa MATSUDO, Takeshi MORISHITA	pp120-121
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
人工心肺の自動化をめざしたオクルーダー開発に関する検討	2018.6.4	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'18 講演論文集	山本愛里紗,市山友里香, 森下武志		
動脈フィルター残留気泡除去装置の揺動に関する検討	17, November 2018	第61回自動制御連合講演会'18 概要集, 2A5	松戸里紗, 山本愛里紗, 市山友里香, 宮澤 悠太, 森下武志		
消化管走行カプセルの小型化に関する検討	17, November 2018	第61回自動制御連合講演会'18 概要集, 2A6	山田 空音, 五十嵐 光輝, 森下武志		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本ロボット学会、日本機械学会、日本医療機器学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2017年5月～現在	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 審査員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
横浜北工業会学校幹事	2015年4月～現在	神奈川県

池上 和志 (いけがみ まさし) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ペクセル・テクノロジーズ(株)研究開発部博士研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：甲種危険物取扱者
 非常勤講師：
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特開2008-198488
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
ペロブスカイト太陽電池の簡易作製法の研究とその実践	2018年～	シグマアルドリッチ社 材料科学の基礎 第9号「ペロブスカイト太陽電池の基礎」に、本研究室で実践した内容が紹介された。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>有機無機ハイブリッドペロブスカイト化合物を用いた研究について、太陽電池の研究からさらに展開し、X線やガンマ線の検出素子への応用を含めて研究を進めた。X線、ガンマ線の研究については、JAXA(宇宙航空研究開発機構)との共同研究、また企業との共同研究を通じて行った。</p> <p>有機無機ハイブリッド化合物を放射線検出に応用するためには、その吸収係数が低いことから、厚いペロブスカイト膜を作製することが必要となる。そこで、ペロブスカイトを再結晶により単結晶を取り出す検討を進め、さらに、その単結晶をホットプレス機によりペレット上に作製する方法の検討を進めた。その結果、直径7mmで、厚みが1mmまでの結晶を作製することに成功した。</p> <p>実際に作製した結晶を、酸化チタン層により被覆した透明導電性のフッ素ドーパ酸化スズ(FTO)ガラスに、溶媒による溶解と接着剤により固定することで素子とした。実際に電極を作製し、バイアス電圧を印加しながらガンマ線やX線の照射することで、信号検出を行うことができた。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
ペロブスカイト太陽電池の材料開発と特性評価の課題	単著	2018年4月30日	次世代の太陽電池・太陽光発電(技術情報協会)	池上和志	227-235

フレキシブル有機太陽電池	単著	2018年4月	特集 透明ポリマー材料と次世代光技術工業材料 Vol. 66 No. 4	池上和志	75-79
(学術論文)					
Tolerance of Perovskite Solar Cell to High-Energy Particle Irradiations in Space Environment	共著	2018年4月	iSCIENCE 2	Miyazawa Yu, Ikegami Masashi , Chen Hsin-Wei, Ohshima Takeshi, Imaizumi Mitsuru, Hirose Kazuyuki, Miyasaka Tsutomu	148-155
Solid-State Thin-Film Dye-Sensitized Solar Cell Co-Sensitized with Methylammonium Lead Bromide Perovskite	共著	2018年5月	BULLETIN OF THE CHEMICAL SOCIETY OF JAPAN 91(5)	Pinpithak Peerathat, Kulkarni Ashish, Chen Hsin-Wei, Ikegami Masashi , Miyasaka Tsutomu	754-760
Spontaneous Synthesis of Highly Crystalline TiO ₂ Compact/Mesoporous Stacked Films by a Low-Temperature Steam-Annealing Method for Efficient Perovskite Solar Cells	共著	2018年5月4日	ACS Appl. Mater. Interface 2018, 10,	Y. Sanehira, Y. Numata, M. Ikegami , and T. Miyasaka	17195-17202
Ambient Fabrication of 126 μm Thick Complete Perovskite Photovoltaic Device for High Flexibility and Performance	共著	2018年12月	ACS APPLIED ENERGY MATERIALS 1(12)	Singh Trilok, Ikegami Masashi , Miyasaka Tsutomu	6741-6747
Stabilization of alpha-CsPbI ₃ in Ambient Room Temperature Conditions by Incorporating Eu into CsPbI ₃	共著	2018年12月	CHEMISTRY OF MATERIALS 30(19)	Jena Ajay Kumar, Kulkarni Ashish, Sanehira Yoshitaka, Ikegami Masashi , Miyasaka Tsutomu	6668-6674
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
院内感染原因金に対する酸化チタン光触媒反応を用いたPETフィルム抗菌効果の検討	2018年8月18日	第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 北海道大学 学術交流会館	細井優輝, 池上和志, 徳岡由一, 蓮沼裕也		
ペロブスカイト太陽電池の高効率化に向けたニオブ、スズ共ドープ酸化チタン膜の水蒸気加熱製膜	2018年9月18-21日	第79回応用物理学会秋季学術講演会	實平義隆、沼田陽平、池上和志、宮坂 力		
高結晶性酸化チタンナノ微粒子をコンパクト層として用いる低温製膜ペロブスカイト太陽電池	2018年9月18-21日	第79回応用物理学会秋季学術講演会	塚本絢穂、池上和志、宮坂 力		
インクジェット法によるトリプルカチオンペロブスカイト層の成膜とその光電変換特性	2018年9月18-21日	第79回応用物理学会秋季学術講演会	戸邊智之、船山遼斗、岩橋秀樹、遠藤聡人、實平義隆、沼田陽平、池上和志、宮坂 力		
FA0.85Cs0.15PbI ₃ /MO ₂ (M = Ti, Sn)の熱安定性評価	2018年9月18-21日	第79回応用物理学会秋季学術講演会	小藪江幹太、池上和志、宮坂 力、小林大輔、山本知之、廣瀬和之		
ペロブスカイト太陽電池における透明電極基板への酸化チタン微粒子層の低温製膜とその抵抗評価	2018年9月18-21日	第79回応用物理学会秋季学術講演会	大曾根真輝、池上和志、宮坂 力		

低温製膜ペロブスカイト太陽電池における高結晶性酸化チタンを用いる透明導電性基板の表面処理法	2018年9月18-21日	第79回応用物理学会秋季学術講演会	阿部剛志、池上和志、宮坂 力
X線回折法を用いたFA0.85Cs0.15PbI3分解過程の評価	2019年3月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会、東京工業大学大岡山キャンパス	小藪江幹太、池上和志、宮坂 力、小林大輔、山本知之、廣瀬和之
バンドギャップのチューニングによるNbドープ酸化チタン/ペロブスカイト太陽電池の高効率化	2019年3月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会、東京工業大学大岡山キャンパス	實平義隆、柴山直之、沼田陽平、池上和志、宮坂 力
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
有機無機ハイブリッド太陽電池における酸化物半導体の役割解明と軽量太陽電池への展開	2016年度～2018年度	平成28年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2018年1月1日～12月31日	2018年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員・Chair	
2018年4月1日～現在	応用物理学会論文誌 JJAP/APEX 編集委員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジーズ株式会社

石河睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランスデューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、人間工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助教
 学内役職等：
 留学：University of Southern California (USA) (2009年11月～2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクス基礎と応用に関するシンポジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
実験系授業における教材	2011年4月～現在	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～現在	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
物理学、電気工学、人間工学におけるそれぞれの教材	2013年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付
数学、微分積分学におけるそれぞれの教材	2018年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
薄膜作製プロセスを用いて高周波強力超音波トランスデューサの開発とその評価を行い、新規医療デバイスへの応用について検討した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Preparation of {001}c-oriented epitaxial (K, Na)NbO ₃ thick films by repeated hydrothermal deposition technique	共著	2018年5月	J. Ceram. Soc. Jpn., vol. 126, no. 5	Takahisa Shiraishi, Yoshiharu. Ito, Mutsuo Ishikawa , Hiroshi Uchida, Takanori Kiguchi, Minoru K. Kurosawa, Hiroshi Funakubo, Toyohiko. J. Konno.	pp. 281-285

Deposition of piezoelectric KNbO ₃ /PbTiO ₃ films for ultra high frequency and high intensity ultrasonic transducers	共著	2018年9月	International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications in Actuators	Mutsuo Ishikawa , Yosuke Uchida, Takahisa Shiraishi, Marie Tabaru, Hiroshi Funakubo, Minoru Kurosawa.	pp. 113
研究発表・講演の題目					
		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
Growth of orientation-controlled epitaxial (K, Na)NbO ₃ thick films and their ferroelectric and piezoelectric properties		2018年6月	2018 PiezoMEMS Workshop	Y. Ito, A. Tateyama, Y. Nakamura, T. Shimizu, M. Kurosawa, H. Funakubo, H. Uchida, T. Shiraishi, T. Kiguchi, T. J. Konno, M. Ishikawa .	
水熱法を用いた(K,Na)NbO ₃ 配向体の低温作製とその特性評価		2018年9月	第78回応用物理学会秋季学術講演会	舟窪浩, 伊東良晴, 舘山明紀, 中村美子, 清水荘雄, 黒澤実, 内田寛, 白石貴久, 木口賢紀, 今野豊彦, 石河睦生 .	
(Poster) Deposition of piezoelectric KNbO ₃ /PbTiO ₃ films for ultra high frequency and high intensity ultrasonic transducers,		2018年9月	International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications in Actuators(IWPMA2018)	Mutsuo Ishikawa , Yosuke Uchida, Takahisa Shiraishi, Marie Tabaru, Hiroshi Funakubo, Minoru Kurosawa.	
Growth of orientation-controlled epitaxial (K, Na)NbO ₃ films and their ferroelectric and piezoelectric properties		2018年9月	International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications in Actuators(IWPMA2018)	Yoshiharu Ito, Akinori Tateyama, Yoshiko Nakamura, Takao Shimizu, Minoru Kurosawa, Hiroshi Funakubo, Hiroshi Uchida, Takahisa Shiraishi, Takanori Kiguchi, Toyohiko J Konno, Nobuhiro Kumada, Mutsuo Ishikawa	
(Chairperson) Materials characterization methods		2018年9月	International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications in Actuators(IWPMA2018)	Mutsuo Ishikawa	
Preparation of Orientation-controlled (K, Na)NbO ₃ Thick Films by Hydrothermal Method and Their Properties		2018年9月	The 10th China-Japan Symposium on Ferroelectric Materials and Their Applications	Hiroshi Funakubo, Akinori Tateyama, Yoshiharu Ito, Takao Shimizu, Yoshiko Nakamura, Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida, Takanori Kiguchi, Takahisa Shiraishi, Toyohiko J. Konno, Mutsuo Ishikawa .	
(口頭)高周波強力超音波トランスデューサの開発と医療応用へ向けて		2018年11月	第38回エレクトロセラミックス研究討論会	石河 睦生 , 内田 庸助, 田原麻梨江, 白石 貴久, 舟窪 浩, 黒澤実	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
圧電結晶膜を用いた 高周波強力超音波トランスデューサ (招待講演)		2018年8月	第16回圧電MEMS研究会	神戸大学	
高周波強力超音波トランスデューサの開発と医療応用へ向けて (招待講演)		2018年11月	エレクトロセラミックス研究討論会	武蔵小杉・ユニオンビル	

Development of high intensity and high frequency ultrasonic transducers for new medical applications (ゲストスピーカー)	2018年11月	JSTさくらサイエンスプロジェクト	東京大学
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
圧電単結晶を用いたプローブ試作	2018年4月～現在	株)リコー	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
Grant-in-Aid for Scientific Research(C)	2017年4月～2020年3月	科研費基盤C	
生体医歯工学共同研究課題	2018年4月～2020年3月	生体医歯工学共同研究拠点	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本音響学会、精密工学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、材料技術研究協会、IEEE、MRS		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年8月～2019年3月	NPO法人健康福祉工学会 理事	
2014年4月～2019年3月	材料技術研究協会 理事	
2014年4月～2019年3月	麗澤会 常任理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医用工学の資格や研究活動についての説明	2018年7月	郁文館高校
第二回小児脳幹部グリオーマシンポジウム・ボランティアスタッフ	2018年10月21日	国立育成医療研究センター
高大連携プロジェクト	2018年11月～2019年11月	桐蔭学園

奥 知 子 (おく ともこ) 専任講師



出 生 年 : 1983(昭和58)年
 在 籍 : 2018(平成30)年4月～
 最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程
 修了
 学 位 : 工学修士
 学 位 論 文 : 「有限要素法(FEM)による血液透析患者のシャント音の発
 生メカニズムに関する理論検討」(修士論文)
 専 門 分 野 : 臨床工学、生体機能代行装置学
 前 職 : 戸田中央医科グループ 医療技術部 医療法人社団武蔵
 野会TMG宗岡中央病院 臨床工学科
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 臨床工学技士、臨床ME専門認定士、透析技術認定士、3
 学会合同呼吸療法認定士、医療情報機器コミュニケーター
 (MDIC)、医療情報技師、透析技能検定2級合格、第1種
 ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験
 合格
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : Toin International Symposium on Biomedical Engineering
 2018 Presents Oral Session Award of Excellence

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
臨床現場で課題となっている問題点を研究テーマとし、新しい器材や機器の開発に取り組むべく理論解析等を実施した。特に、血液浄化療法分野に力を入れ、血液透析用留置針の最適化形状に関する研究においては、2018年 桐蔭国際シンポジウムの口頭発表部門で最優秀賞を受賞することができた。今後も、引き続き、臨床現場に貢献できる研究を行っていきたい。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
血液粘性を考慮した17G血液透析用留置針の最適形状に関する数値流体力学(CFD)解析	2018年6月29日～ 7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	山内 忍、宮田茉莉奈、島崎直也、 奥知子 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
嚥下困難者用食事の各種物性値が嚥下音に及ぼす影響に関する時間-周波数解析	2018年9月12日～ 14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会、大分大学(大分県大分市)	可見雅弥、嶋崎 舞、佐藤敏夫、 奥知子 、山内 忍、本橋由香、高橋常男、阿岸鉄三
血液透析患者のバスキュラーアクセスの狭窄に伴うシャント音と血管抵抗指数の経時変化と血管内血液流れとの関連	2018年9月12日～ 14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会、大分大学(大分県大分市)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、佐藤敏夫、 奥知子 、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三、中根紀章
Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Examination of a method for detecting blood coagulation by monitoring the absorbance of blood in the circuit as blood coagulation progresses	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Haruka Furukawa, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
High-precision visualization of flow velocity distribution in indwelling needles for hemodialysis using particle image velocimetry	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomohiro Masaya, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Analysis with a fluid with the same viscosity as blood—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Marina Miyata, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Associations between visualizations of flow in artificial angiostenosis models with particle image velocimetry and the acoustic properties of shunt murmurs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakajima, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Experimental investigation of the optimal shape of venous air trap chambers to prevent blood coagulation	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakayama, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Basic study on assessment of vascular assess function with shunt murmur analysis measured with an electronic stethoscope in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment of the swallowing reflex-inducing effects of different carbonation concentrations of carbonated water	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Mai Shimazaki, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Investigation of the optimal shape of coaxial double-lumen catheters to reduce phenomenon of sticking to blood vessel wall	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kiyono Sugano, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment system of phenomenon of sticking to blood vessel wall of double lumen catheters using the inferior vena cave of pigs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Comparison of a shunt murmur analysis method and the ultrasonic pulse Doppler method using an artificial angiostenosis model	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
高齢者に対するオーダーメイドの食事介助を目的とした非侵襲かつ定量的な新しい嚥下機能評価法の提案	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	可児雅弥、嶋崎 舞、本橋由香、山内 忍、 奥知子 、佐藤敏夫、高橋常男、阿岸鉄三
超音波による血管抵抗指数とシャント音の時間-周波数解析によるバスキュラーアクセス機能評価法との関連	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、本橋由香、山内忍、 奥知子 、佐藤敏夫、阿岸鉄三

未来に託す夢の医療技術	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来アイデア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	齋藤直、小杉兼太、山内 忍、 奥知子 、本橋由香、佐藤敏夫
コンタクトレンズと医用画像装置のFuture Generation	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来アイデア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	曾我部勇希、小塚マーガレット、長澤 朔、八巻千晶、橋本和樹、本橋由香、山内 忍、 奥知子 、佐藤敏夫
嚥下音分析による非侵襲嚥下機能評価法を用いた嚥下調整食の最適物性の検討	2019年2月23日	第11回ヘルシエイジング学会学術集会、持田製薬ルークホール(東京都新宿区)	可児雅弥、嶋崎 舞、佐藤敏夫、 奥知子 、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三

○その他

(表彰・受賞)

賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE :Oral Session Award」 Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD～Poster Session Award」 Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD～Poster Session Award」 Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本生体医工学会、日本医工学治療学会、日本人工臓器学会

本橋由香(もとはし ゆか) 専任講師



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：生体音の時間-周波数解析に基づく非侵襲診断方法に関する研究-バスキュラーアクセス及び嚥下機能評価への適応-
 専門分野：生体計測、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：桐蔭工学会賞(2007)
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会 第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2017年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年(2017年度3年次学生)のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
2018年度は、これまで基礎研究を積み重ねてきた血液透析患者のシャント音の変化からバスキュラーアクセス機能を評価する新しい方法に関する研究において透析施設と共同研究を開始し、基礎研究で得られた技術や経験に基づく臨床実験を行うことができた。学内での実験的な基礎研究や理論検討を充実することで臨床実験にスムーズに移行することが可能となり、2019年度からはその経過や成果を外部に発信できるものと考えている。それと同時に血液浄化療法に関連する医療材料の最適化やモニタリング方法の提案も行っており、メーカーや医療現場が必要とするニーズに応える研究活動を継続していきたい。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討	共著	2018年	医工学治療Vol.30 No.1	島崎直也、中根紀章、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.41-52
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討ー第2報:側孔の数と配置が脱水特性に及ぼす影響	共著	2018年	医工学治療Vol.30 No.3	島崎直也、中根紀章、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.170-181
Swallowing Sound Analysis System for Quantitative Evaluation of Dysphagia Rehabilitation	共著	2018年	桐蔭論叢第38号	Masaya Kani, Rika Furutaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi	pp.89-96
Vascular access function assessment by combination of normalized cross-correlation coefficient and duration time	共著	2018年	桐蔭論叢第38号	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	pp.97-104
(総説・論説)					
高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み	共著	2018年6月15日	人工臓器 47巻 1号 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	島崎直也、中根紀章、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	40頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
嚥下音測定に基づく嚥下補助飲食品の飲み込み評価システムの提案	2018年6月19～21日	第57回日本生体医工学会大会、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	可児雅弥、古滝莉加、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三、高橋常男		
正規化相互相関係数と基準化持続時間の同時モニタリングによるバスキュラーアクセス機能診断方法	2018年6月19～21日	第57回日本生体医工学会大会、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	佐々木一真、井上周杜、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
側副血行路を有するバスキュラーアクセスに対するシャント音分析による機能評価法の実験的検証	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐々木一真、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
粒子画像流速測定法を用いたVA狭窄直後の流れの可視化とシャント音の関連	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐々木一真、中島大輝、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
透析患者の誤嚥性肺炎予防を目的とした嚥下音分析による嚥下機能評価と嚥下関連筋との関係	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	可児雅弥、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三、高橋常男		

PIVを用いた17G血液透析用留置針内部の流れの可視化による側孔の影響についての検証	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	山内 忍、梶谷智博、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
血液粘性を考慮した17G血液透析用留置針の最適形状に関する数値流体力学(CFD)解析	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	山内 忍、宮田茉莉奈、島崎直也、奥知子、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
3Dプリンターを用いた血液凝固を抑制できる静脈側エアトラップチャンバの最適形状に関する検討	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐藤敏夫、中山大樹、山内 忍、 本橋由香 、阿岸鉄三
血液凝固に伴う吸光モニタリングによる回路内凝固検出の試み	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐藤敏夫、古川春花、坂元英雄、山内 忍、 本橋由香 、阿岸鉄三
ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象に関する定量的評価システムの検討	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	鈴木博子、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
嚥下困難者用食事の各種物性値が嚥下音に及ぼす影響に関する時間-周波数解析	2018年9月12日～14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会、大分大学(大分県大分市)	可児雅弥、嶋崎 舞、佐藤敏夫、奥知子、山内 忍、 本橋由香 、高橋常男、阿岸鉄三
血液透析患者のバスキュラーアクセスの狭窄に伴うシャント音と血管抵抗指数の経時変化と血管内血液流れとの関連	2018年9月12日～14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会、大分大学(大分県大分市)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、佐藤敏夫、奥知子、山内 忍、 本橋由香 、阿岸鉄三、中根紀章
Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Examination of a method for detecting blood coagulation by monitoring the absorbance of blood in the circuit as blood coagulation progresses	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Haruka Furukawa, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
High-precision visualization of flow velocity distribution in indwelling needles for hemodialysis using particle image velocimetry	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomohiro Masaya, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Analysis with a fluid with the same viscosity as blood—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Marina Miyata, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Associations between visualizations of flow in artificial angiostenosis models with particle image velocimetry and the acoustic properties of shunt murmurs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakajima, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Usability of numerical computation about mechanism of generating shunt murmur	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Experimental investigation of the optimal shape of venous air trap chambers to prevent blood coagulation	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakayama, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Basic study on assessment of vascular assess function with shunt murmur analysis measured with an electronic stethoscope in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment of the swallowing reflex-inducing effects of different carbonation concentrations of carbonated water	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Mai Shimazaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Investigation of the optimal shape of coaxial double-lumen catheters to reduce phenomenon of sticking to blood vessel wall	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kiyono Sugano, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment system of phenomenon of sticking to blood vessel wall of double lumen catheters using the inferior vena cave of pigs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Comparison of a shunt murmur analysis method and the ultrasonic pulse Doppler method using an artificial angiostenosis model	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
高齢者に対するオーダーメイドの食事介助を目的とした非侵襲かつ定量的な新しい嚥下機能評価法の提案	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	可児雅弥、嶋崎 舞、 本橋由香 、山内 忍、奥 知子、佐藤敏夫、高橋常男、阿岸鉄三
超音波による血管抵抗指数とシャント音の時間-周波数解析によるバスキュラーアクセス機能評価法との関連	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、 本橋由香 、山内忍、奥 知子、佐藤敏夫、阿岸鉄三
未来に託す夢の医療技術	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来 アイディア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	斎藤 直、小杉兼太、山内 忍、奥知子、 本橋由香 、佐藤敏夫
コンタクトレンズと医用画像装置のFuture Generation	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来 アイディア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	曾我部勇希、小塚マーガレット、長澤 朔、八巻千晶、橋本和樹、 本橋由香 、山内 忍、奥 知子、佐藤敏夫

嚥下音分析による非侵襲嚥下機能評価法を用いた嚥下調整食の最適物性の検討	2019年2月23日	第11回ヘルシエイジング学会学術集会、持田製薬ルークホール(東京都新宿区)	可児雅弥、嶋崎 舞、佐藤敏夫、奥 知子、山内 忍、 本橋由香 、阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE :Oral Session Award」 Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD~Poster Session Award」 Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD~Poster Session Award」 Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本人工臓器学会、日本音響学会、日本生体医工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2013年1月1日～2020年12月31日	日本医工学治療学会 評議員

山内 忍 (やまうち しのぶ) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程医用工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：血液透析用留置針内の圧力分布測定に基づく側孔の最適化に関する研究
 専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 学内役職等：
 留資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会 第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2018年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討	共著	2018年	医工学治療Vol.30 No.1	島崎直也、中根紀章、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.41-52
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討ー第2報:側孔の数と配置が脱水特性に及ぼす影響	共著	2018年	医工学治療Vol.30 No.3	島崎直也、中根紀章、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.170-181

Swallowing Sound Analysis System for Quantitative Evaluation of Dysphagia Rehabilitation	共著	2018年	桐蔭論叢第38号	Masaya Kani, Rika Furutaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi	pp.89-96
Vascular access function assessment by combination of normalized cross-correlation coefficient and duration time	共著	2018年	桐蔭論叢第38号	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	pp.97-104
(総説・論説)					
高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み	共著	2018年6月15日	人工臓器 47巻 1号 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	島崎直也、中根紀章、 山内忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	40頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
嚥下音測定に基づく嚥下補助飲食品の飲み込み評価システムの提案		2018年6月19～21日	第57回日本生体医工学会大会、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	可児雅弥、古滝莉加、 山内忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三、高橋常男	
正規化相互相関係数と基準化持続時間の同時モニタリングによるバスキュラーアクセス機能診断方法		2018年6月19～21日	第57回日本生体医工学会大会、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)	佐々木一真、井上周杜、 山内忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	
側副血行路を有するバスキュラーアクセスに対するシャント音分析による機能評価法の実験的検証		2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐々木一真、 山内忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	
粒子画像流速測定法を用いたVA狭窄直後の流れの可視化とシャント音の関連		2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐々木一真、中島大輝、 山内忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	
透析患者の誤嚥性肺炎予防を目的とした嚥下音分析による嚥下機能評価と嚥下関連筋との関係		2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	可児雅弥、 山内忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三、高橋常男	
PIVを用いた17G血液透析用留置針内部の流れの可視化による側孔の影響についての検証		2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	山内忍 、榎谷智博、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	
血液粘性を考慮した17G血液透析用留置針の最適形状に関する数値流体力学(CFD)解析		2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	山内忍 、宮田茉莉奈、島崎直也、奥知子、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	
3Dプリンターを用いた血液凝固を抑制できる静脈側エアトラップチャンバの最適形状に関する検討		2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐藤敏夫、中山大樹、 山内忍 、本橋由香、阿岸鉄三	

血液凝固に伴う吸光モニタリングによる回路内凝固検出の試み	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	佐藤敏夫、古川春花、坂元英雄、 山内 忍 、本橋由香、阿岸鉄三
ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象に関する定量的評価システムの検討	2018年6月29日～7月1日	第63回日本透析医学会学術集会総会、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場他(兵庫県神戸市)	鈴木博子、 山内 忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
嚥下困難者用食事の各種物性値が嚥下音に及ぼす影響に関する時間-周波数解析	2018年9月12日～14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会, 大分大学(大分県大分市)	可児雅弥、嶋崎 舞、佐藤敏夫、奥 知子、 山内 忍 、本橋由香、高橋常男、阿岸鉄三
血液透析患者のバスキュラーアクセスの狭窄に伴うシャント音と血管抵抗指数の経時変化と血管内血液流れとの関連	2018年9月12日～14日	日本音響学会 2018年秋季研究発表会, 大分大学(大分県大分市)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、佐藤敏夫、奥 知子、 山内 忍 、本橋由香、阿岸鉄三、中根紀章
Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Examination of a method for detecting blood coagulation by monitoring the absorbance of blood in the circuit as blood coagulation progresses	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Haruka Furukawa, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
High-precision visualization of flow velocity distribution in indwelling needles for hemodialysis using particle image velocimetry	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomohiro Masaya, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Analysis with a fluid with the same viscosity as blood—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Marina Miyata, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Associations between visualizations of flow in artificial angiostenosis models with particle image velocimetry and the acoustic properties of shunt murmurs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakajima, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Usability of numerical computation about mechanism of generating shunt murmur	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Experimental investigation of the optimal shape of venous air trap chambers to prevent blood coagulation	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daiki Nakayama, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Basic study on assessment of vascular assess function with shunt murmur analysis measured with an electronic stethoscope in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment of the swallowing reflex-inducing effects of different carbonation concentrations of carbonated water	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Mai Shimazaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Investigation of the optimal shape of coaxial double-lumen catheters to reduce phenomenon of sticking to blood vessel wall	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kiyono Sugano, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment system of phenomenon of sticking to blood vessel wall of double lumen catheters using the inferior vena cave of pigs	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Comparison of a shunt murmur analysis method and the ultrasonic pulse Doppler method using an artificial angiostenosis model	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
高齢者に対するオーダーメイドの食事介助を目的とした非侵襲かつ定量的な新しい嚥下機能評価法の提案	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	可児雅弥、嶋崎 舞、本橋由香、 山内 忍 、奥 知子、佐藤敏夫、高橋常男、阿岸鉄三
超音波による血管抵抗指数とシャント音の時間-周波数解析によるバスキュラーアクセス機能評価法との関連	2018年11月1日～3日	第56回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション、ヒルトン東京お台場(東京都港区)	佐々木一真、中島大輝、関 俊輔、鈴木亮也、本橋由香、 山内 忍 、奥 知子、佐藤敏夫、阿岸鉄三
未来に託す夢の医療技術	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来 アイディア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	斎藤 直、小杉兼太、 山内 忍 、奥知子、本橋由香、佐藤敏夫
コンタクトレンズと医用画像装置のFuture Generation	2019年2月22日～24日	第35回学術大会 市民公開セッション「医工学治療の未来 アイディア」～次世代へつなぐ医工学治療～、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区)	曾我部勇希、小塚マーガレット、長澤 朔、八巻千晶、橋本和樹、本橋由香、 山内 忍 、佐藤敏夫
嚥下音分析による非侵襲嚥下機能評価法を用いた嚥下調整食の最適物性の検討	2019年2月23日	第11回ヘルシエイジング学会学術集会、持田製薬ルークホール(東京都新宿区)	可児雅弥、嶋崎 舞、佐藤敏夫、奥 知子、 山内 忍 、本橋由香、阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE :Oral Session Award」 Computational fluid dynamics analysis of the optimal shape for side holes in indwelling needles for hemodialysis —Comparison of analysis results and experimental results for each side hole shape—	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki

「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD~Poster Session Award」 Quantification of the physical properties of a dysphagia diet and its effects on swallowing monement	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「AWARD OF EXCELLENCE :PRIZE OF GOLD~Poster Session Award」 Association between a shunt murmur analysis and temporal changes in shunt flow volume and resistive index using ultrasonic pulse Doppler in hemodialysis patients	2018年10月27日	13th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会、日本医工学治療学会

宮坂 力 (みやさか つとむ) 特任教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2001(平成13)年12月～
 最終学歴：東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位：工学博士
 学位論文：光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野：光電気化学、環境エネルギー化学
 前職：富士写真フイルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等：研究科長(2006-2009)、研究推進部長(2009-2012)
 留学：カナダ・ケベック大学トアリビエール校生物物理学科(1979～1980)
 資格：危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰：応用物理学会業績賞(2019年3月)
 加藤記念賞(2018年10月)
 クラリベートアナリティクス引用栄誉賞(2017年9月)
 日本化学会賞(2017年3月)
 PVSEC Hamakawa賞(2017年11月)
 日本学術振興会175委員会 イノベティブPV賞(2013年)
 日本写真学会 学術賞(2012年)
 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)文部科学大臣賞(2009年)
 横浜市ビジネスプランコンテスト・アカデミー賞(2004年)
 化学技術戦略推進機構 アカデミアショーケース(2002年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
大学院工学研究科用教材:生体電気化学特論	2015年～2018年	光合成反応機構を中心とする生物による物理化学的エネルギー変換システムの原理とその工学的理解を解説するテキスト

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
有機無機ペロブスカイト材料を用いる光電変換ならびに太陽電池素子の技術開発に注力する研究活動を行い、大学院工学研究科博士課程の学生の指導、外部研究資金による研究プロジェクトに参画する博士研究員の指導を行った。科研費研究において基盤研究Bの課題「有機金属ペロブスカイトのメソ構造体ハイブリッド化による物質変換と高機能化」ならびに科学技術推進機構(JST)-ALCAのプロジェクトにおいて「有機無機ペロブスカイトを用いる塗布型太陽電池の高効率化開発」の研究課題を終了して、最終報告を提出した。一方で、JAXAとの共同研究プロジェクトとして「宇宙環境へ向けた高効率・低コスト・軽量薄膜ペロブスカイト太陽電池デバイスの高耐久化開発」を推進した。これらの研究成果を国際学会の招待講演において多数報告するとともに、原著論文ならびに総説をおよそ20件の学術雑誌に出版した。また、国際交流においてはJSPSの二国間交流共同研究事業において、ロシアのサンクトペテルスブルク大学、イタリアの研究機関CNRとの交流研究を実施し、若手研究者の出張派遣を通じて共同研究を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
ペロブスカイト太陽電池の進展	単著	2018年12月	パリテイ, 2019, 34		15-17
常識を超える太陽電池ーペロブスカイト型太陽電池ー	単著	2019年	Re, 2019, 201		38-41
Halide Perovskite Photovoltaics: Background, Status, and Future Prospects	共著	2019年3月1日	Chemical Reviews, 2019, 119		3036-3103

(学術論文)					
Lead halide perovskites in thin film photovoltaics: backgrounds and perspectives	単著	2018年4月5日	Bull. Chem. Soc. Jpn., 2018, 91	T. Miyasaka	1058-1068
Nb-doped amorphous titanium oxide compact layer for formamidinium-based high efficiency perovskite solar cells by low-temperature fabrication	共著	2018年4月24日	J. Mater. Chem. A, 2018, 6	Y. Numata, R. Ishikawa, Y. Sanehira, A. Kogo, H. Shiraib, and T. Miyasaka	9583-9591
Spontaneous synthesis of highly crystalline TiO ₂ compact/mesoporous stacked films by a low-temperature steam-annealing method for efficient perovskite solar cells	共著	2018年5月4日	ACS Appl. Mater. Interfaces 2018, 10, 20	Y. Sanehira, Y. Numata, M. Ikegami, and T. Miyasaka	17195-17202
Stability and degradation in hybrid perovskites: Is the glass half empty or half-full?	共著	2018年5月15日	J. Phys. Chem. Lett., 2018, 9, 11	I. Deretzis, E. Smecca, G. Mannino, A. L. Magna, T. Miyasaka, and A. Alberti	3000-3007
Thermo-evaporated pentacene and perylene as hole transport materials for perovskite solar cells	共著	2018年7月31日	Dyes and Pigments, 2019, 160	X. Zhang, M. Li, C. Dall'Agnesse, G. Chen, X.-F. Wang, and T. Miyasaka	285-291
Invalidity of Band-Gap Engineering Concept for Bi ³⁺ Heterovalent Doping in CsPbBr ₃ Halide Perovskite	共著	2018年9月6日	J. Phys. Chem. Lett., 2018, 9	O. A. Lozhkina, A. A. Murashkina, V. V. Shilovskikh, Y. V. Kapitonov, V. K. Ryabchuk, A. V. Emeline, and T. Miyasaka	5408-5411
Stabilization of α -CsPbI ₃ in Ambient Room Temperature Conditions by Incorporating Eu into CsPbI ₃	共著	2018年9月16日	Chem. Mater., 2018, 30	A. -K. Jena, A. Kulkarni, Y. Sanehira, M. Ikegami, and T. Miyasaka	6668-6674
Thiocyanate Containing Two-Dimensional Cesium Lead Iodide Perovskite, Cs ₂ PbI ₂ (SCN) ₂ : Characterization, Photovoltaic Application, and Degradation Mechanism	共著	2018年11月14日	ACS Appl. Mater. Interfaces 2018, 10, 49	Y. Numata, Y. Sanehira, R. Ishikawa, H. Shirai, and T. Miyasaka	42363-42371
Structural and Optical Behaviour of MAPbI ₃ Layers in Nitrogen and Humid Air	共著	2018年11月29日	2018 IEEE 4th International Forum on Research and Technology for Society and Industry (RTSI), 2018	A. Alberti, G. Mannino, I. Dreretzis, E. Smecca, S. Sanzaro, A. La Magna, Y. Numata, and T. Miyasaka	1-5
Ambient Fabrication of 126 μ m Thick Complete Perovskite Photovoltaic Device for High Flexibility and Performance	共著	2018年11月30日	ACS Appl. Energy Mater., 2018, 1	T. Singh, M. Ikegami, and T. Miyasaka	6741-6747
SnO ₂ -Ti ₃ C ₂ MXene electron transport layers for perovskite solar cells	共著	2019年2月5日	J. Mater. Chem. A, 2019, 7	L. Yang, Y. Dall'Agnesse, K. Hantanasirisakul, C. E. Shuck, K. Maleski, M. Alhabeb, G. Chen, Y. Gao, Y. Sanehira, A. K. Jena, L. Shen, C. Dall'Agnesse, X. -F. Wang, Y. Gogotsi and T. Miyasaka	5635-5642

Performance enhancement of AgBi2I7 solar cells by modulating a solvent-mediated adduct and tuning remnant BiI3 in one-step crystallization	共著	2019年3月14日	Chem. Commun., 2019,55,	A. Kulkarni, A. K. Jena, M. Ikegami, and T. Miyasaka	4031-4034
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
High Efficiency Perovskite Solar Cells Based on Kinetic Control of Cs-mixed Intermediate States During the Crystallization		2018年4月2日	MRS Spring Meeting 2018, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	G. M. Kim and T. Miyasaka	
Progress of Perovskite Photovoltaics Exploring for Ultra-Thin Lightweight Power Source” (invited talk)		2018年4月2日	MRS Spring Meeting 2018, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	T. Miyasaka	
Metal oxide-based perovskite solar cells and their superior tolerance in the space environment (invited talk)		2018年5月29日	10th International Conference on Hybrid and Organic Photovoltaics (HOPV18), Perugia, Spain	T. Miyasaka	
Evaluation of perovskite solar cells under irradiation with respect to carrier lifetime and structure for space application		2018年6月10日	World Conference on Photovoltaic Energy Conversion(WCPEC-7), Waikoloa, Hawaii	S. Kanaya, D. Erdmann, G. M. Kim, M. Ikegami, Y. Numata, T. Miyasaka, Y. Hazama, H. Akiyama, K. Suzuki, K. Osonoe, T. Yamamoto, Y. Miyazawa, H. Toyota, and K. Hirose	
Stable high efficiency of perovskite solar cells fabricated under ambient air conditions		2018年6月17日	Grand Renewable Energy 2018, Pacifico Yokohama	T.Miyasaka	
Superior tolerance of perovskite thin film solar cells in the space radiation environment (invited talk)		2018年6月27日	The 7th Sungkyun International Solar Forum (SISF 2018), Korea	T.Miyasaka	
Metal oxide-based high voltage perovskite solar cells and their superior tolerance in the space environment(invited talk)		2018年7月31日	22nd International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy (IPS22), Hefei, China	T.Miyasaka	
Metal oxide-based high efficiency and durable perovskite solar cells: current progress and perspectives(invited talk)		2018年8月21日	Conference on the Material Challenges in Alternative Renewable Energy (MCARE 2018), Vancouver, B.C. Canada	T.Miyasaka	
ペロブスカイト太陽電池における化学/物理の学際研究の現状と将来		2018年9月16日	日本化学会化学系学協会東北大会、秋田大学 手形キャンパス	宮坂 力	
低温製膜ペロブスカイト太陽電池における高結晶性酸化チタンを用いる透明導電性基板の表面処理法		2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	阿部剛志、池上和志、宮坂 力	
インクジェット法によるトリプルカチオンペロブスカイト層の成膜とその光電変換特性		2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	戸邊智之、船山遼斗、岩橋秀樹、遠藤聡人、實平義隆、沼田陽平、池上和志、宮坂 力	
高結晶性酸化チタンナノ微粒子をコンパクト層として用いる低温製膜ペロブスカイト太陽電池		2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	塚本絢穂、池上和志、宮坂 力	
ペロブスカイト太陽電池の高効率化に向けたニオブ、スズ共ドーブ酸化チタン膜の水蒸気加熱製膜		2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	實平義隆、沼田陽平、池上和志、宮坂 力	

新規添加剤を用いた2段階法による高電圧型-FAPbBr ₃ ペロブスカイト太陽電池	2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	沼田陽平、宮坂 力
Toward High performance and stable perovskite solar cells by the process from regulation of solvent evaporation to the Ge-doping in B site	2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	Gyu Min Kim、宮坂 力
有機無機ペロブスカイトと金属錯体を用いた高感度光検出素子の開発	2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	石井あゆみ、宮坂 力
有機無機ペロブスカイト太陽電池の創製と高効率化Creation and efficiency enhancement of organic inorganic perovskite solar cells (応用物理学会業績賞受賞講演)	2018年9月18日	第79回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	宮坂 力
Perovskite solar cell, its challenges and progresses(invited talk)	2018年9月21日	2018 International Conference on Solid State Devices and Materials (SSDM2018), The University of Tokyo Yasuda Auditorium	T. Miyasaka
Photovoltaics of Halide Perovskites and Perspectives of Extensive Applications from the Ground to the Universe(invited talk)	2018年9月27日	MRS Fall Meeting, Boston, USA	T. Miyasaka
Compositional engineering of cost efficient durable perovskite solar cells	2019年1月29日	Asia-Pacific International Conference on Perovskite, Organic Photovoltaics and Optoelectronics (IPEROP), Kyoto, Japan	T. Miyasaka
Enhancing photovoltaic performance and stability of all-inorganic and lead-free absorbers	2019年2月26日	International Conference on Perovskite Solar Cells, Photonics, and Optoelectronics (NIPHO19), Jerusalem, Israel	T. Miyasaka
Toward high performance and stable perovskite solar cells by the process from regulation of solvent evaporation to the Ge-doping in B site	2019年3月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会、東京工業大学大岡山キャンパス	G. M. Kim、宮坂 力
有機無機ペロブスカイトと金属錯体を用いた高感度光検出素子の開発	2019年3月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会、東京工業大学大岡山キャンパス	石井あゆみ、宮坂 力
バンドギャップのチューニングによるNbドープ酸化チタン/ペロブスカイト太陽電池の高効率化	2019年3月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会、東京工業大学大岡山キャンパス	實平義隆、柴山直之、沼田陽平、池上和志、宮坂 力
ルビジウムドープ高耐熱型ペロブスカイト太陽電池	2019年3月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会、東京工業大学大岡山キャンパス	沼田陽平、實平義隆、石川 良、白石 肇、宮坂 力
次世代太陽電池ペロブスカイト太陽電池の技術動向と未来 (第19回応用物理学会業績賞受賞講演)	2019年3月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会、東京工業大学大岡山キャンパス	宮坂 力
ペロブスカイト太陽電池の効率と耐久性向上	2019年3月16日	日本化学会第99春季年会、甲南大学	宮坂 力
Different mechanisms of perovskite formation by cation halide compositions	2019年3月28日	電気化学会第86回大会、京都大学吉田キャンパス	G. M. Kim、宮坂 力

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
応用物理学会業績賞受賞「有機無機ペロブスカイト太陽電池の創製と高効率化(Creation and efficiency enhancement of organic inorganic perovskite solar cells)」	2018年9月18日	応用物理学会	宮坂 力
加藤記念賞	2018年11月	加藤科学振興会	宮坂 力
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
JAXA探査ハブ研究プロジェクト、「宇宙環境へ向けた高効率・低コスト・軽量薄膜ペロブスカイト太陽電池デバイスの高耐久化開発」に関する共同研究	2017年～現在	科学技術振興機構(JST)-JAXA共同研究プロジェクト	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「衛星用電池 コスト1/10 JAXAなど 折り畳んで搭載」	2018年5月21日(夕刊、10面)	日本経済新聞	
「日本の革新力 土壌を鍛えろ(2) 枯れたテーマに水やり」	2018年6月5日(朝刊、1面)	日本経済新聞	
「インクジェットで低温成膜 ペロブスカイト 樹脂基板に」	2018年10月3日	日刊工業新聞	
科学の森「新領域への対応鈍い日本 次世代太陽電池『ドーナツ化』」	2019年1月24日	毎日新聞	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本化学会、応用物理学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ化学会、アメリカ電気化学会、MRS (Material Research Society)

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

佐藤 豊(さとう ゆたか) 教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：2016(平成28)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了
 学位：教育学修士
 学位論文：「高等学校における野外教育プログラムの効果及び評価について(横浜国立大学:教修第1930号)」(修士論文)
 専門分野：体育科教育学、スポーツ教育学、野外教育学
 前職：文部科学省スポーツ青少年局 教科調査官
 鹿屋体育大学スポーツ人文応用社会科学系教授
 学内役職等：教職センター長、スポーツ教育学科学科長
 留学：
 資格：高等学校(保健体育)専修教員免許状
 中学校(保健体育)一種教員免許状
 学校心理士(学校心理士認定運営機構第72333号)
 非常勤講師：福岡教育大学、国土館大学
 受賞・表彰：2018東アジアスポーツ教育学会ポスター発表最優秀賞
 体づくり運動アプリの小学校体育での導入効果(セカンド)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
単元構造図方式によるユニットプラン作成ツールを用いたグループワークによる演習授業	2009～現在	学習指導に際しての俯瞰力および観点別学習評価理解のための演習ツールを開発し、大学、現職教員研修で実施、改良を図っている。
体づくり運動授業用アプリを用いたICT活用の効果的授業の模擬授業演習	2012～現在	一斉指導、個別指導、学習評価を踏まえたアプリを開発し、モデル校における研究成果を学会等で公表した。
単元計画、模擬授業、中学校授業演習、ビデオ省察の繰り返しによる実践的指導力の育成カリキュラム	2013～現在	教育実習前の実践的指導力育成のためのカリキュラムを開発し、大学紀要で成果を公表した。保健体育実践演習Ⅱ、Ⅲ
大学版単元構造図の開発と、資質・能力評価シートの開発	2013～現在	カリキュラムポリシーに基づく15時間のユニットプラン(観点別学習評価計画)と効率的・効果的な評価シートの開発
スマート・コーチ(ソフトバンク)、体づくり運動アプリ(体ラボ)と共同した遠隔地部活動支援システム	2018～	教員の多忙化、外部指導者不足の中学校、高等学校の支援システムとして、横浜市内中学校において、動画ソフト及び体力づくりソフトを活用して、大学教授監修のもと大学生が遠隔地から支援する部活動指導について研究
2.作成した教科書、教材、参考書		
目指そう、保健体育教師	2015～	杉山重利 佐藤豊 園山和夫編著 朝日出版 2015
楽しい体育理論の授業をつくろう	2017～	佐藤豊 編著

平成29年版 学習指導要領改訂のポイント	2016～	楽しい体育の授業plus 明治図書編
平成29年版 中学校新学習指導要領の展開	2016～	保健体育 佐藤豊編著
平成30年版 学習指導要領改訂のポイント	2017～	保健体育 佐藤豊編著
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本体育科教育学会 第23 回大会(沖縄大学) 基調講演	2018年6月23日	「資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びとは」
教員支援機構「平成30 年度 体力向上 マネジメント指導者養成研修」	2018年6月20日	講義「体育・保健を中心としたカリキュラム・マネジメント」
台湾スポーツ教育学会招待講演	2018年8月14日	Possibilities of the Use of Fitness Application in Physical Education Classes
2018年度 仙台大学学術講演会	2019年2月14日	『体育科・保健体育科の新学習指導要領で目指すこと』

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略

2018年度は、教職センターの設置に伴う、「実践的指導力」育成に向けたコア・カリキュラムに対応した教育課程の検討、教育委員会等との連携等に尽力した。また、29.30年度学習指導要領の改訂に伴い、中学校、高等学校保健体育の改訂協力者として教育課程の基準作成に携わった。研究面では、科学研究費補助金(日本学術振興会)基礎研究B(15H0364)教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発の最終年度として、日本体育学会、日本体育科教育学会、SHAPE AMERICA、東アジアスポーツ教育学会(台湾)において研究成果の公表及び大学研究紀要等を通じて論文を公開した。また、全国23カ所において、延べ1200名の現職教員、大学教員、教育委員会事務局との協働ワークショップを通じて、学習指導要領理解のための単元構造図作成、カリキュラム・マネジメント、知識構造化等新たな研修用ツールの開発を行った。さらに、韓国ソウル大学、台湾師範大学、アメリカ、ブリッジウォーター大学、オハイオ大学、ケント大学の体育科教育への訪問を通して、諸外国大学教員養成でのワークショップや体育科教育の現状調査を行った。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
高等学校学習指導要領解説(保健体育・体育編)	特定不可	2018.12	文部科学省	文部科学省	特定不可
ワンダフル・スポーツ2019-2021	編著	2018.12	新学社	佐藤豊 編著代表	全336
(学術論文)					
体育系大学のダンス授業におけるICT活用によるダンス映像視聴・評価活動の実践—大学3・4年生を対象とした授業の分析を通じて—	共著	2018.12	大学体育学15, 2018, p.31-45, 査読あり	梶ちか子, 松元隆秀, 佐藤豊, 金高宏文	p.31-45
新たな学習指導要領で期待される授業づくり—九州体育・保健体育ネットワーク研究会2017 ファイナルin 福岡	共著	2018.12	桐蔭論叢第39号	佐藤豊, 日野克博, 高橋修一, 森良一	P29-37
体育・スポーツ系教員養成大学における教職課程コアカリキュラムを取り入れた授業検討の試み	共著	2019.2	桐蔭スポーツ科学, 査読あり 2	佐藤豊, 木原洋一, 佐藤国正, 田村幸久, 吉原昌子, 遠藤純二	P33-43

資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びとは	単著	2019.3	体育科教育学研究 35-1	佐藤豊	P19-26
2018年台湾における体育・保健 体育科教育の現状	共著	2019.3	桐蔭論叢第40号	佐藤豊, 青木哲也, 三田部勇, 四方田健二, 木原慎介, 清田美紀, 佐藤若, 岩崎敬, 後藤晃伸	P65-76
スポーツの価値を基盤とした教育 「スポーツの価値と学校教育をつなぐ視点」	単著	2019.3	日本アンチドーピング 機構スポーツの価値 を基盤とした授業づくり ワークショップ報告書	佐藤豊	P9-15
カリキュラム・マネジメントの検討を通して「スポーツの価値」をテーマとした授業の課題・可能性を共有する	単著	2019.3	日本アンチドーピング 機構スポーツの価値 を基盤とした授業づくり ワークショップ報告書	佐藤豊	P26-35,67
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
体育の知識を明確するためのワークショップの検討	2018.6	日本体育科教育学会第23回大会(沖縄大学)	佐藤豊, 友添秀則, 本多壮太郎, 大越正大, 木原慎介, 三田部勇, 清田美紀, 梶ちか子		
A Practgical Study on Classes of Fitness in PE at Primary Schools that Utiliases ICT	2018.8	The 2018 International Conference for the 7th East Asian Alliance of Sport Pedagogy and Adventure Physical Education,台湾、台湾師範大学	M, Seida. Y, Sato. & S, Honda.		
A Qualitative Study on Action Learning-Based PE Study Group	2018.8	The 2018 International Conference for the 7th East Asian Alliance of Sport Pedagogy and Adventure Physical Education,台湾、台湾師範大学	S, Honda, Y, Sato. & M, Seida.		
教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発②-2016年度と2017年度教師ネットワーク研究会参加者の比較から-	2018.8	日本体育学会第69回大会 徳島大学(徳島県徳島市)	佐藤豊, 友添秀則, 高橋修一, 吉野聡, 本多壮太郎, 清水将, 日野克博, 梶ちか子		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
平成30年度滋賀県高等学校等保健体育教科主任研修会 深い学びにつながる保健体育授業の展開	2018.4.24	滋賀県教育委員会	滋賀県大津市		
平成30年度第1回県立高等学校等保健体育科主任会「観点別評価につながる授業づくりについて」	2018.5.2	福岡県教育委員会	福岡県福岡市		
新学習指導要領実施に向けて中学校保健体育科に期待する	2018.5.12	平成30年度東京都公立中学校保健体育科研究会	東京都新宿区		
体育授業指導力向上研修「体育理論の効果的な指導と指導計画作成」	2018.6.8	山形県教育委員会	山形県山形市		

平成30年度 福岡県体育研究所 断続研修 球技(ネット型)の授業づくり	2018.6.19	福岡県教育委員会	福岡県福岡市
第1回部活動指導者研修講座	2018.6.25	長崎県教育委員会	長崎県長崎市
足利市中学校保健体育部会研究会「主体的・ 対話的で深い学びに基づく授業づくり」	2018.7.31	足利市中学校保健体育部会	栃木県足利市
専門研修(短期研修)講座「主体的・対話的で 深い学びの実現!『体育のアクティブ・ラーニ ング』」	2018.10.23	福岡県体育研究所	福岡県福岡市
平成30年度東西しらかわ中学校教育研究会 保健体育部会秋の研修会	2018.11.07	東西しらかわ中学校教育研究 会保健体育専門部	福島県白河市
49回大分県学校体育研究発表大会臼杵大 会特別講演「新たな学習指導要領で求められ る授業づくり」	2018.11.08	大分県教育委員会	大分県臼杵市
平成30年度富山県高等学校保健体育研究 協議会「新しい学習指導要領と高等学校保健 体育の授業づくり」	2018.11.15	富山県高等学校保健体育研 究協議会	富山県高岡市
第59回宮崎県学校体育研究大会 高等学校部会指導助言	2018.11.26	宮崎県教育委員会	宮崎県宮崎市
東京都平成30年度 保健体育科主任連絡協 議会	2018.12.10	東京都教育委員会	東京都千代田区
学校でのスポーツ事故を防ぐために パネルディスカッション	2018.12.17	日本スポーツ振興センター	宮崎県宮崎市
北海道高等学校教育研究会第56回大会教科 別集会	2019.1.10	北海道教育委員会	北海道札幌市
「平成30年度国立教育政策研究所教育課程 研究指定校事業に係る研究授業(高槻市教 育研究会発表大会)」での指導助言	2019.1.18	高槻市教育委員会	大阪府高槻市
学校でのスポーツ事故を防ぐために パネルディスカッション	2018.1.25	日本スポーツ振興センター	長崎県長崎市
茨城県平成30年度体育主任研修会(新学習 指導要領に実施に向けたこれからの授業)	2019.2.1	茨城県教育委員会	茨城県水戸市
鹿児島市小学校体育研究会「新学習指導要 領の理解と授業づくりに向けて」	2019.2.22	鹿児島市小学校体育研究会	鹿児島県鹿児島市
東広島市小学校体育指導力向上のための研 修会(研究部会)	2019.2.12	東広島市教育委員会	広島県東広島市
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
教師養成、現職教員の協働によるアクション・ ラーニング研修プログラムの開発	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会) 基礎研究B(15H0364)	

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
東アジアスポーツ教育学会における研究成果の発表	2018.6.28-7.1	台湾師範大学、国立体育大学
教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発」にかかわる情報収集	2018.9.24-9.30	SU(bridge water state university), Ohio university,Kent university
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
保健体育授業アドバイザー講評	2018.12.6	富山県中学校体育研究会会報174号
保健体育(体育分野)における主体的・対話的な深い学びの実現に向けた知識の検討	2019.1	東京書籍 教室の窓1月号 保健体育
(その他特記事項)		
日本スポーツ振興センター,学校における事故防止必携		
日本スポーツ振興センター, 学校屋外プールにおける熱中症対策		
学校でのスポーツ事故を防ぐために(セミナー冊子) 宮崎会場、長崎会場パネルディスカッション		
https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/H30seminarbooklet/H30seminarbooklet_8_mivazaki.pdf		
https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/H30seminarbooklet/H30seminarbooklet_12_nagasaki.pdf		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
Ieasep(国際スポーツ教育学会)、日本体育学会、日本体育科教育学会、日本野外教育学会、日本体操学会、日本学校心理士会

Ⅳ 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
学習指導要領解説 高等学校保健体育作成協力者副主査	2015年～2018年		
日本アンチドーピング機構(JADA) スポーツの価値を基盤とした教育推進協力者	2015年～		
日本スポーツ振興センター スポーツ事故防止対策協議会委員	2017年～		
毎日新聞社中学校体力づくりコンテスト審査委員	2011年～		
長崎県武道等推進委員会(座長)	2012年～		
富山県中学校教育課程研究大会 授業力向上アドバイザー	2012年～		
神奈川県立麻生総合高等学校、神奈川県立綾瀬西高等学校評議員	2017年～		
横浜市部活動の未来を考える懇談会委員、横浜市教育課程推進委員会アドバイザー	2018年～		

福岡県部活動ガイドライン作成委員会(座長)	2018年～		
横浜市教育課程推進アドバイザー 体育・保健体育	2016年～		

谷本直美 (たにもと なおみ) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：音楽科教育 教師教育
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長 (2013～2015)
 キャリア情報センター副センター長 (2017～)
 留資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭1種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～2019年3月	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3～4レベルに編曲し、学生が自分のピアノ経験にあったレベルを選択して練習を始められるような教材を準備した。さらに演奏能力に差がある学生が1つの曲を合奏できるよう、パート毎に難易度を変えて編曲し、合わせる楽しさを経験して音楽指導に前向きになれるような教材を作成した。学生授業評価は2018年度前後期とも4.7/5であった。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱の指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもったうえで模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。2018年度後期は身体表現活動を通じた鑑賞に初めて取り組み、2019年度前期は児童が音楽劇の登場人物として学生と一緒に歌うなど、それぞれ学生が児童に直接指導する場面を増やしている。学生授業評価は2018年度前期が4.6/5、後期が4.4/5であった。
小学校における読み聞かせ体験	2010年6月～現在	ゼミ履修学生(3年)に子どもたちの前に立つ体験として、読み聞かせの機会を近隣小学校にいただいている。毎年「なぞなぞライオン」を扱い、なぞなぞやしりとりを通して子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする体験をさせ、児童理解と指導体験の機会としている。その発展として7月に行われる同小学校における保護者会主催の全校お楽しみ会にも読み聞かせで有志が参加し、自分達で作品を選び、脚色も加えながら練習を積んで臨んでいる。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
科研費研究4年次(延長による最終年度)にあたり、小学校音楽専科の若手教師1名をあらたにメンティとしたメンタリング・プログラムを実施した。プログラムのかたちができあがって3事例目にあたる。1年間のメンタリングの結果、1・2事例目同様に指示型の授業から対話型の授業に転換するようになり、指示の割合も4割から2割までに減少した。メンタリングの中で子どもへの問いかけを増やしていくと、経験したことのない子どもの状況にメンティが不安や戸惑いを感じるようになり、新しい取り組みを行う際にはその後の具体的な見通しを示すなどの支援が必要であることがわかった。このようなメンタリングにおけるメンターの機能については日本学校音楽教育実践教育学会にて発表、また4年間のプログラム開発の成果については日本学校教育実践教育学会にて発表、論文投稿を行い、年度末に報告書を発行した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
平成27-30年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)「若手教師のための芸術教科における授業メンタリング・プログラムの開発」報告書	共著	2019年3月31日	桐蔭横浜大学	谷本直美、名達英詔	特定不可
(学術論文)					
「若手教師のための芸術教科によるメンタリング・プログラムの有効性—なぜメンティはメタ認知を獲得することができたのか—」	共著	2019年3月	日本学校教育実践教育学会『学校教育実践ジャーナル』第2巻	谷本直美、名達英詔	21-28頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
口頭発表「若手音楽教師のためのメンタリングにおけるメンターの機能について」	2018年8月19日	日本学校教育実践教育学会第23回全国大会(京都教育大学/京都)			
口頭発表「若手教師のための芸術教科によるメンタリング・プログラムの有効性—なぜメンティはメタ認知を獲得することができたのか—」	2018年12月15日	日本学校教育実践教育学会第23回研究発表大会(北海道教育大学旭川校/北海道)	谷本直美、名達英詔		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
国立市立国立第五小学校校内研究会講師	2018年6月20日	国立市立国立第五小学校	国立市立国立第五小学校		
国立市立国立第四小学校校内研究会講師	2018年10月12日	国立市立国立第四小学校	国立市立国立第四小学校		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費助成事業	2015年4月～2019年3月	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会、日本学校教育実践学会

林 田 はるみ(はやしだ はるみ) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2018(平成30)年4月～
 最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了

学位：博士(スポーツ科学) 人間科学修士
 学位論文：Influence of menstrual cycle and endurance exercise on stress and inflammatory markers in women(博士論文)

専門分野：応用健康科学, 運動生理学, スポーツ理学療法
 前職：常葉大学健康プロデュース学部准教授
 学内役職等：国際交流委員, 学生委員, 自己点検評価委員, FD委員, 研究紀要編集委員会, ハラスメント相談員

留学：ラフバラ大学(英国)(2012年5月～2013年3月)
 資格：理学療法士免許, 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー, 日本スポーツ協会マスター上級コーチ(エアロビック)

非常勤講師：法政大学スポーツ健康学部
 受賞・表彰：(社)日本理学療法士協会 会長賞(1986年4月), The Korean Society of Exercise Physiology, Research Award (2010年11月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
ダンス 教材作成	2018年8月	・学校教育における3つのダンスのうち、創作ダンスについて、創作の手順とコツを段階を踏んで習得できるよう、授業教材を作成した。桐蔭横浜大学のダンス授業の教材として用いた。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
主とする研究課題である女性のスポーツ活動と免疫ストレス応答について予備的検討を行ってきた、その結果H31学術研究助成基金助成に採択され、今後はさらにこの研究を発展させる予定である。ダンス分野に関して、中学校・高等学校でのダンス経験が大学生のダンス学習意欲と気分にあぼす影響について検討し、原著論文を発表した。健康づくり分野に関して、デイサービスセンター利用者を対象に、身体能力検査を行い、介護度別の基準値を設定した。これにより高齢者のデイサービスセンターでの活動の目標ができ、日常生活や日々の運動に張り合いができると期待される。さらに日本エアロビック連盟と共同でユニバーサルスポーツとしてのスローエアロビックのプログラム開発を行っており、今後も継続する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツと運動の筋膜	共著・翻訳	2019年3月	ラウンドフラット	Schleip Robert ら26人により執筆された著書“Fascia in Sport and Movement”を日本語に翻訳したもの。翻訳：竹内 京子、林田はるみ 他6名と分担	87-96頁：第9章運動パフォーマンス：ストレッチングの誤った認識と将来動向、143-152頁：第14章ジャイロトニック法での筋膜トレーニング(ダンサーのためのトレーニング法)、143-163頁：第15章ダンスの筋膜トレーニング法

(学術論文)					
中学校・高等学校でのダンス経験が大学生のダンス学習意欲と気分 に及ぼす影響	共著筆頭	2019年 2月	桐蔭スポーツ科学 第 2巻 (2019)	林田はるみ, 諏訪部和 也, 伊藤理香	pp.15-25
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
発育発達と安全管理の講義と実技講習		2018年7月	(公社)日本エアロビック連盟 キッズ・ジュニアエアロビック指 導員新規養成講習会	山梨学院短期大学(山梨県甲府 市)	
地域の健康運動指導士やダンス講師を対象 に, スローエアロビックの指導法についての講 義と実技講習		2018年11月	(公社)日本エアロビック連盟 スローエアロビック普及員養成 講習会	小瀬スポーツセンター(山梨県甲 府市)	
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名		事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等		
女性のスポーツ活動による健康障害と酸化ス トレス度		2012年3月～2019年4月	基盤研究(C)学術研究助成基金助成金(日本学術振興 会)		
(海外出張)					
用件		出張期間	出張先		
国際コミュニケーション実習(短期語学留学) 引率		2019年2月23日～3月16 日	ボンド大学(オーストラリア)		
(その他特記事項)					
高齢者の自信回復と活カアップのために～介護度別身体能力目標、(株)脳リハビリネットワーク監修(2019年2月)デイサービスセン ター利用者を対象に、身体能力検査を行い、介護度別の基準値を設定した。第4章介護度別身体能力検査結果に対する考察の執 筆を担当した。(pp:35～44)					

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本理学療法士協会, 日本体力医学会, 国際運動免疫学会, 日本スポーツリハビリテーション学会, アメリカスポーツ医学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年4月～現在	(公社)日本エアロビック連盟 指導専門委員
2010年4月～現在	日本スポーツリハビリテーション学会理事
2011年3月～現在	(公社)日本エアロビック連盟 普及指導委員
2017年4月～現在	(公社)日本エアロビック連盟 普及指導委員会委員長

松本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出生年：1952(昭和27)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専門分野：体育科教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部学部長(2016～)
 留学：
 資格：保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非常勤講師：桜美林大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
島根県教育委員会 「幼児期からの運動・体力向上指導者講習会」講師	2018年7月26日	ほぼ3時間半にわたっての実技講習・質疑応答であった。保育園・保育所、幼稚園・幼児園、小学校教員の総計50数名が参加された。
島根県小学校体育研究会・夏期研修会 授業提案及び解説を担当	2018年7月28日	高温のために児童の出席は取りやめとなり、急遽、先生方に児童役になっていただいて模擬授業形式で展開した。その後、授業内容(中学年・走り幅跳び)の解説をした。
広島県教育委員会・研修講座 「器械運動系指導実践講座」講師	2018年8月7日	午前3時間半・午後3時間、計6時間半の講習であったが、空調設備のある体育館であったため熱中症を心配することも無く展開できた。
茨城県教育委員会・実技講習会講師	2018年8月10日	午前・午後の6時間の講習で、体づくり運動と器械運動の内容・方法についての講習を行った。
松阪市養育委員会・研修講座 「器械運動の指導法」講師	2018年8月21日	60名の先生方と、午後2時～午後4時半に「器械運動が苦手な先生こそ受講して欲しい『器械運動講座』」と題された実技講習を担当した。
名古屋市体育研究会冬季研修会・講演	2019年1月24日	「体育授業で大切にしたいこと～新要領にも関連させて～」というテーマで90分お話をさせていただいた。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
学習指導要領の改訂を終えて、新しい教育活動が展開されてきている時期である。可能な限り、新しい考えや基本的な指導の内容・方法等を踏まえた教育実践に生きる研究と普及に努めてきた。具体的には、小学校教員向けの新要領を踏まえた書籍の執筆・出版、教育誌での執筆、各種研究会での講演や提案授業、実技講習の指導等である(広島県教育委員会、茨城県教育委員会、松阪市教育委員会、名古屋市体育研究会、島根県小学校体育研究会、八戸市立小学校、高知市立小学校等)。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
実践で学ぶ！学生の社会貢献 —スポーツとボランティアでつながる	編著	2018年10月1日	成文堂	吉田勝光、松本格之祐 他	5頁
すぐ使える！体育教材30選 小学校中学年	共著	2018年11月15日	学事出版	松本格之祐、木下光正 他	特定不可
楽しい体育の授業 2019年1月号 「器械運動・つまずき解決のためのアイデア」	単著	2018年12月	明治図書	松本格之祐	10頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会

宮津大蔵 (みやづ だいぞう) 教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学教育学部卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：国語科教育学
 前職：東京都公立小学校教諭
 学内役職等：大学情報センター長(大学図書館長)
 留資格：
 非常勤講師：東京家政学院大学現代生活学部(国語科教育)
 淑徳大学人文学部兼任講師(文章表現論)
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校国語教科書(学校図書) 小学校国語音声言語教材台本 小学校国語教師用指導所 小学校教科書単元別到達目標と評価規準 国語 (日本標準)	2005年度版～現在	教科書改訂に伴う執筆、編集。説明文教材の執筆、「聞く・話す」教材の執筆、言語教材の開発、文学教材の選定など小学校国語科の全ての分野、全ての学年の教材開発に携わっている。 教師用指導書音声編の台本を執筆する。解説書に収録内容を解説し、学習目標を設定し、発展的な学習活動例を開発する。
(1)ソーシャルスキルワークの授業実践開発 (2)みんなと学ぶ小学校国語教科書1～6年(学校図書) (3)みんなと学ぶ小学校国語教師用指導書1～6年(学校図書) (4)学校教科書単元別・到達目標と評価規準<国語> (5)みんなと学ぶ小学校国語CD教師用指導書音声編 (6)文部科学省後援事業 日本語検定公式練習問題集改訂版6級) (7)小学校国語指導資料 新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫 文部科学省	2005年度版～現在	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本国語教育学会、日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、図書館情報学会相模原市小中学校PTA連絡協議会家庭教育事業講演会講師『『ヅカメン！お父ちゃんたちの宝塚』にみる子育て術～子どもたちがたくましく育つ親の見守り方～』

亀岡 聖 朗 (かめおか せいろう) 教授(2019年度 新任教員)



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2019(平成31)年4月～
 最終学歴：日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(心理学)
 学位論文：「Built-Environmentに関する環境心理学的研究 -博物館施設を中心として-」(博士論文)
 専門分野：教育心理学 環境心理学 社会心理学
 前職：桐生大学医療保健学部栄養学科 教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭1種免許状(社会)
 高等学校教諭1種免許状(社会)
 認定心理士(第9101号)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
・看護場면을想定した体験型学習の実践	2008年4月～2019年3月	本科目では、看護場면을念頭に置き、社会心理学と臨床心理学の視点から対人コミュニケーションの理論と実践を取り上げ、その基礎から応用までを学習することを目的とした。自己理解に基づく他者理解、患者に対する接遇、看護師同士あるいは病院スタッフ同士がチームとして患者に接する際に生じやすいコミュニケーションギャップ、さまざまな手段を使ったコミュニケーションについて演習を行い、その解説を講義する形式で90分の演習を組み立て、学生の対人スキルの向上に寄与するよう工夫した。(「コミュニケーション論」桐生大学医療保健学部看護学科)
・栄養士養成を想定した体験型学習の実践	2006年4月～2019年3月	本科目では、社会心理学と臨床心理学の視点から、対人関係論の基礎から応用に至るまでの学習を目的とした。社会心理学的な対人関係理論のほか、対人援助場面に活用できるカウンセリング理論について取り上げ、受容、繰り返し、明確化など、コミュニケーションにおける傾聴の技法を中心とした演習も実施し、学生の対人関係スキルの向上に寄与するよう工夫した。(「人間関係」桐生大学短期大学部生活科学科)
・模擬授業の実践(体験型学習の一環として)	2008年4月～2019年3月	本科目では、履修学生による模擬授業を実施した。履修学生が目指す教職免許に関連する課題を自らが選択・設定し、レジュメを用意し授業を行い、それを他の受講学生が評価する、という一連の体験を課した。その目的は、決められた時間で自ら考えた内容を人前でプレゼンテーションする体験を積むことにあった。模擬授業担当以外の履修学生は、当該学生の模擬授業を匿名で授業評価した。この評価を学生にフィードバックし、自分の授業がどう伝わったか、自己評価と他者評価と相違があるか等について自覚させ、授業をすることに対する気づきを促した。(「教育心理学」桐生大学医療保健学部・桐生大学短期大学部)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
教育心理学の分野では、教職実践演習(養護教諭)における、学生の協同的な学習の様子とその効果に関する質的検討を行った。「主体的・対話的な深い学び」が重視されるなかで、教職実践演習における学生の協同の学び合いによる能動的思考を刺激する学習の達成の様子について今後も考察を続ける。また環境心理学の分野では、従来の博物館来館者研究(Museum Visitor Study)を環境と人間行動との関連に注目する環境心理学的な視点で概観し、研究上の課題について考察した。社会心理学の分野では、教育心理学的な関心にも基づき、大学教育における学生のソーシャル・キャピタルの質量と精神的健康との関連について検討している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
博物館における来館者研究ー環境心理学の視点からー	単著	2018年12月20日	桐生大学紀要 第29号		pp.19-29
「学び続ける養護教諭」の養成を目指した教職実践演習の取組(第2報)ー学生の能動的思考を活性化させる学びの軌跡についてー	共著	2019年3月29日	桐生大学教職課程年報 第2号	黒岩初美・亀岡聖朗	pp.100-113
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(ポスター)栄養指導を想定した面接場面におけるBGM効果の予備的検討	2018年9月26日	日本心理学会第82回大会(東北大学/宮城県仙台市)			
○その他					
(その他特記事項)					
コミュニティFM放送局であるFM桐生の昼番組『ランチどきっ!』のコーナー『ミニ・ゼミナール』に、毎週13回にわたって出演した。テーマは『どうして味わいを感じるの? ~心理学で考える』とし、毎回約20分で、食にかかわる心理学的な話題を紹介し解説した。(2018年9月~12月)					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、人間・環境学会(MERA)、日本環境心理学会、日本応用心理学会、日本教育心理学会、日本学生相談学会、日本心理臨床学会、日本大学心理学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2017年6月~2019年3月	人間・環境学会(MERA) 『MERA Journalのあり方』検討ワーキンググループ委員
2006年11月~現在	日本大学心理学会 運営委員会 運営委員

中野英之 (なかの ひでゆき) 教授(2019年度 新任教員)



出生年：1969年(昭和44年)5月
 在籍：2019年4月～
 最終学歴：北海道大学大学院地球環境科学研究科地圏環境科学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(地球環境科学)(北海道大学)
 学位論文：Experimental studies on the metamorphism of interstellar organic materials in the solar nebula and meteoritic parent bodies
 専門分野：理科教育, 地域生活学, 惑星科学
 前職：京都教育大学教育学部准教授
 学内役職等：
 留資格：小学校教諭2種, 中学校・高等学校教諭専修(理科), 高等学校教諭1種(農業), 博物館学芸員, 学校図書館司書教諭, 神職(権正階)
 非常勤講師：京都教育大学大学院教育学研究科, 京都華頂大学現代家政学部
 受賞・表彰：日本地学教育学会教育実践優秀賞(2009年8月)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
学習者が主体的・体験的に活動できる理科教材の開発を中心に研究活動を行った。					
(学術論文)					
小学校におけるCLILをベースとした地学分野と外国語活動を統合した授業の開発	共著	2018年6月	地学教育, 71(1)	平川尚毅, 中野英之, 仁科篤弘	1-12
教員養成課程の理系領域専攻学生にみる教職意識の特徴	共著	2018年9月	京都教育大学紀要, 133	黒田恭史, 柳本哲, 梶原裕二, 中野英之, 原田信一, 榊原典子, 香川貴志	43-53
地域住民の知的資産を理科の授業に活かす試み	共著	2018年12月	地域生活学研究, 9	松村祥, 中野英之, 山田茂, 石河栄二	16-29
小学校教員を対象とした地層のほぎ取り標本の作製実習と火山噴火のモデル実験	共著	2019年3月	教師教育研究, 9	中野英之, 池田顕一郎, 後藤創紀	64-74
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
ボリビアの自然と文化	2018年10月13日	放送大学京都学習センターみやこ祭	放送大学京都学習センター		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本惑星科学会、日本地学教育学会、天文教育普及研究会、日本初等教育研究会、日本災害復興学会

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
福島県伊達市立大石小学校における理科 課外授業(放射線教育)	2018/6/25(全4時間)	
福島県伊達市立大石小学校における理科 課外授業(理科実験)	2018/9/6・7日(全9時間)	
京都府木津川市立加茂小学校における理科 課外授業(理科実験)	2018/11/29日(全4時間)	
福島県伊達市立大石小学校における理科 課外授業(理科実験)	2019/2/20・21日(全10時 間)	

李 禧 承 (い ひすん) 准教授



出 生 年 : 1973(昭和48)年
 在 籍 籍 : 2012(平成24)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学 位 位 : 博士(教育学)
 学 位 論 文 : 学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研
 究(博士論文)
 専 門 分 野 : 教育工学、教育方法学、教育学
 前 職 : 筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : 筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資 格 : 中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非 常 勤 講 師 : 筑波大学
 受 賞・表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
はじめて学ぶ教職 教育の方法と技術 「第12章 学習指導におけるデジタル教材の利用」	2019年2月20日	代表的な3つの学習理論、「行動主義学習理論」「認知主義学習理論」「構成主義学習理論」を具現化するデジタル教材について概観した。また、昨今学校教育において利用が注目される「デジタル教科書」の政策動向とともに、デジタル教材の利用を検討する手立てとして、授業設計(ID)及び、ガニエの「9教授事象」について解説した。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
協調学習を実現するための代表的な手法とされる「知識構成型ジグソー法」の利用可能性を検討した。とりわけ体育実技授業に焦点をあて、生徒一人ひとりの「理解」に基づく体育実技習得を目指す授業づくりについて追究した。「知識構成型ジグソー法」に基づく体育実技の授業づくりにおいてエキスパート活動の課題設定の手助けとして、ガニエのID理論モデルを援用する可能性について理論的に検討し、この成果については、「日本教育メディア学会」で研究発表、及び「桐蔭論叢」への投稿を予定している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
はじめて学ぶ教職 教育の方法と技術 「第12章 学習指導におけるデジタル教材の利用」	共著	2019年2月20日	ミネルヴァ書房	樋口直弘 編著 李 禧承	161-175頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本教育メディア学会、日本デジタル教科書学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会、筑波教育学会

井口 成明(いぐち なりあき) 准教授



出生年：1962(昭和37)年5月28日
 在籍：2018(平成30)年4月
 最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科前期課程修了
 学位：スポーツ科学修士
 学位論文：東京大学教育学部附属中等教育学校における体育授業の
 試み—生徒が学び合う体育授業の創造—
 専門分野：保健体育教育法・安全教育学・野外教育学・水泳指導法
 前職：東京大学教育学部附属中等教育学校教諭
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校保健体育一種教諭
 高等学校保健体育一種教諭
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2010年自然活動体験授業実践発表 文部大臣奨励賞受賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
水泳競技における飛び込みスタートの危険性と安全に配慮した段階的指導法について	2015年～	日本スポーツ振興センター 指導者セミナーで講演
学校プールにおける熱中症の危険性とその対策について	2018～	日本スポーツ振興センター発行、「水泳活動中の事故」で発表
4.その他教育活動上特記すべき事項		
東京都中学校水泳指導者講習会主任講師	2010～現在に至る	東京都中学校体育連盟

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
2018年度は、日本スポーツ振興センタースポーツ事故調査研究員として、屋外プールでの熱中症の危険性、水泳活動中の事故防止について研究し、日本スポーツ振興センター、京都府教育委員会主催、文部科学省後援「事故防止セミナー」等で講演を行った。また、日本安全教育学会でも発表した。大学の集中授業「自然活動論」において、受講学生に参加前と参加後のアンケートを実施し、自然災害に対する対応、知識の習熟をみる調査研究を開始。2019年度に発表予定。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
学校水泳における危険とその対策	2018年9月8日	日本安全教育学会第19回大会(國學院大學たまプラーザキャンパス)	武田剛 加藤 一晃
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
保健体育ネットワーク研究会「韓国の」小学校体育授業	2019年3月	ソウル大学附属小学校(大韓民国)	
(その他特記事項)			
日本スポーツ振興センター「屋外プールにおける熱中症対策(2018年6月)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本安全教育学会理事、日本体育学会、日本体育科教育学会、日本野外教育学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東京都中学校水泳安全指導講習会	2010～年1回 1月に実施	東京都中学校体育連盟

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察－世界
 トップレベルのセット・オフENSEの傾向－
 専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
 前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
海外のバスケットボール(主に米国)における戦術・戦略について、現地視察と調査を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
バスケットボールアタッキング・ゾーンディフェンス	共著		大修館書店	加藤大仁、木村和宏	2-143頁
勝つためのバスケットボールの科学	共著	2019.1.19発行	洋泉社MOOK	小谷究、木村和宏	22-37

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、スポーツ方法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年10月～現在	公認バスケットボール上級コーチ

城田直彦（しろたただひこ）准教授



出生年 : 1962(昭和37)年
 在籍 : 2015(平成27)年4月～
 最終学歴 : 奈良教育大学大学院教育学修士課程修了
 学位 : 教育学修士
 学位論文 : 「数学における「中1ギャップ」の要因に関する考察」(修士論文)
 専門分野 : 数学教育
 前職 : 白鳳女子短期大学
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 小学校専修免許状、中学数学専修、高校数学専修、中学英語2級、幼稚園2級
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
メールを利用した課題提出、フィードバック	2015年4月～現在	講義内に出された課題を、学生はメールで提出。学生のつまずきを次回の授業に生かす。
マイクロティーチングの導入	2015年4月～現在	教師役、児童役を決めて短時間で行う。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校 算数科、中学校 数学科の教科書	2015年～現在	日本文教出版

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『あなたの知らない「身のまわりの単位」事典』	単著	2018年7月18日	PHP研究所	—	—
『楽しくわかる数学の基礎』	単著	2018年7月25日	ソフトバンクサイエンス・アイ新書	—	—
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(ポスター発表) 発展的な思考・態度の内面化を促す授業改善:モデルプレートによる教師の意識変容	2018年6月10日	日本数学教育学会 第6回春期研究大会(千葉)	佐藤学、重松敬一、赤井利行、杜威、新木伸次、 城田直彦 、椎名美穂子、黒田大樹		
(口頭発表) 発展的思考・態度を視点にした教科書分析の枠組み	2018年11月3日	東北数学教育学会 第50回年会(宮城教育大学)	佐藤学、重松敬一、赤井利行、杜威、新木伸次、 城田直彦 、椎名美穂子、黒田大樹		

○その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「数学用語うんちく」	2018年7月1日	数学教育 2018年7月号(pp.36-39)
「読み解く数学偉人伝 アルキメデス ―エウレカ! 円周率にちかづいたぞ!―」	2018年7月31日	算数・数学情報誌 ROOT Vol.22
「読み解く数学偉人伝 オイラー ―美しい定理に愛された18世紀の数学の巨人―」	2018年10月31日	算数・数学情報誌 ROOT Vol.23

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本数学教育学会、全国数学教育学会、近畿数学教育学会、和算問題教材化研究会

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位：修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文：演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 -1931-45年
 の日本における体育的身体論を射程として-(教育学)
 専門分野：スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職：筑波大学大学院博士課程
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段

非常勤講師：

受賞・表彰：平成23年度第9回茗溪会顕彰

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川県体育学会、日本体操学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたけ台小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～(毎週火・木2コマ)	団体等名称:体操教室

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位：体育学修士
 学位論文：中高齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野：体育科学
 前職：学校法人了徳寺学園職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：講道館柔道六段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「Toe flexor muscle strength and morphological characteristics of the foot in judo athletes」	共著	2019年3月5日	International Journal of Sports Medicine・In press	Koyama Keiji, Hirokawa Mitsushi , Yoshitaka Yukiharu, Yamauchi Junichiro	Epub ahead of print

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2010年4月～現在	全日本柔道連盟 国際委員会委員
2012年11月～現在	全日本柔道連盟 ナショナルチーム強化コーチ

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

殖田友子 (うえだ ともこ) 教授



出生年：
在籍：2014(平成26)年4月～
最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単位
取得後退学
学位：修士(経営学)
学位論文：
専門分野：スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
前職：帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科准教授
学内役職等：
留学：
資格：管理栄養士、健康運動指導士、公認スポーツ栄養士
非常勤講師：神奈川大学人間科学部、神奈川大学国際経営学部
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本健康運動指導士会、日本栄養改善学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2010年7月～現在	日本スポーツ栄養学会評議員 (2013年12月日本スポーツ栄養研究会から学会に改組)
2013年4月～現在	大田区体育協会評議員

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2004(平成16)年7月～
 最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位：博士(学術)、修士(看護学)
 学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康
 心理学的研究(博士論文)
 専門分野：健康心理学、基礎看護学
 前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
 学内役職等：学生部副部長
 留学：
 資格：看護師免許、専門健康心理士、健康管理士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：日本ヒューマン・ケア心理学会第一回学会論文賞(2011年7
 月)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
AI解析を用いたコトコフ音波形による健康管理指標値の研究におけるデータ収集 キャンパス内全面禁煙後の学生、教職員の意識および、喫煙関連の健康意識に関する研究					
○著書・論文等					
著書・論文等 の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月日(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
実践で学ぶ！学生の社会貢献	共著	2018年10月	成文堂	田中暢子(編著)、松本格 之祐(編著)、吉田勝光(編 著)、櫻井智野風(編著)、 加藤友生(編著)他	39-44
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金 基盤研究(C)、「AI解析 を用いたコトコフ音波形による健康管理指標 値の研究」	2018年4月～2020年3月	日本学術振興会			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本ヒューマン・ケア心理学会、日本健康心理学会、日本スポーツ健康科学学会、日本カウンセリング学会、日本看護研究学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員
2015年9月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会常任理事・事務局長

加藤知生 (かとう ともお) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：日本体育大学体育学部健康学科卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職：日立横浜病院
 学内役職等：学生部長 スポーツサポートセンター長
 留学：
 資格：日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 JATI認定トレーニング指導者資格
 JPSU認定スポーツトレーナー
 理学療法士、柔道整復師、
 中学1級・高等学校1級教諭免許(保健体育)
 非常勤講師：学校法人花田学園 東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)
2.作成した教科書、教材、参考書		
水泳選手に対するトレーナーの基礎知識と技術	2019年1月	授業科目:アスレティックトレーナーの役割、アスレティックリハビリテーション論にて自身の執筆部分を教材として利用。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
・2020東京五輪における理学療法サービスにむけて、その内容と人材(職域)についての検討および具体案の作成。 ・水泳における水泳肩(スイマーズショルダー)の発生率は、腰痛、膝痛と同様に高い。そこで、肩関節周囲筋の損傷や石灰沈着が生じる身体的・動作的特徴の解明。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
実践で学ぶ!学生の社会貢献—スポーツとボランティアで繋がる—	共著	2018/10/1	成文堂	加藤知生	173-178頁 218-240頁
(学術論文)					
マスターズスイマーにおける肩関節周囲筋の損傷や石灰沈着が生じる身体的・動作的特徴の解明とその予防に向けた取り組み	共著	2018年5月	デサントスポーツ科学 39	地神裕史,大内洋,金岡恒治,加藤知生,河野隆次	249-256頁
マスターズスイマーの肩周囲の異常所見と専門種目や練習量などの一般的情報との関係	共著	2019年3月	水と健康医学研究会誌 21(1)	地神裕史,大内洋,小山稔,置大恵,奥田鉄人,加藤知生,金岡恒治	33-39頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
実行委員長：総合司会	2018年7月7・8日	第7回日本アスレティックトレーニング学会学術大会	加藤知生
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
競技力向上と外傷予防	2018年12月14日	身体運動の効果と実践を考える研究者の会・運動リテラシー向上を目指し研究者が出来ること	八王子市学園都市センター
水泳トレーナー概論	2019年2月16日	日本水泳トレーナー会議基礎研修会	桐蔭横浜大学
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
競技力向上コース事業	2010年4月～	神奈川県立体育センター	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本理学療法士協会、日本アスレティックトレーニング学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年9月～現在(2011～)	日本水泳トレーナー会議役員(代表)	
2003年3月～現在(2010～)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー(連携協議員)	
2007年4月～現在(2013～)	日本水泳連盟医事委員会(副委員長)	
2013年6月～現在(2018～)	日本アスレティックトレーニング学会評議員(兼監査)	
2017年4月～現在	一般社団法人全国スポーツ系大学協議会認定スポーツトレーナー教育・普及委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会活動および保健体育授業(からだづくり)	2008年～(年3回)	横浜市教育委員会 学校運営評議会(2011年～)

河崎賢三（かわさき けんぞう）教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位：医学博士
 学位論文：
 専門分野：整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職：島根医科大学文部教官助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 非常勤講師：
 受賞・表彰：材料技術研究協会技術賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
医学現場実習を重要視した授業	2006年4月～	医学現場に出向き、スポーツ医学の知識の取得に勤めている
○その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa
野球肘は防げる	2013年5月～現在 (連載中)	ベースボールマガジン社Hit&Run

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ、野球)
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクスの研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : テクノロジー学科学科長(2016～)
 留 学 :
 資 格 : 専修免許状(保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、講道館柔道七段
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「Toe flexor muscle strength and morphological characteristics of the foot in judo athletes」	共著	2019年3月5日	International Journal of Sports Medicine・In press	Koyama Keiji, Hirokawa Mitsushi, Yoshitaka Yukiharu , Yamauchi Junichiro	Epub ahead of print

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本学生柔道連盟理事	2010年4月1日～現在	全日本学生柔道連盟

成田 崇矢 (なりた たかや) 教授(2019年度 新任教員)



出生年：1975(昭和50)年6月12日
 在籍：2019(平成31)年4月～
 最終学歴：早稲田大学スポーツ科学学術院博士後期課程修了
 学位：博士(スポーツ科学)、修士(体育学)、学士(保健学)
 学位論文：「飛込選手の腰痛発生要因の解明：予防対策提言にむけて」(博士論文)
 専門分野：アスレティックリハビリテーション
 前職：健康科学大学 健康科学部 理学療法学科 教授
 学内役職等：桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツテクノロジー学科 教授
 留学：Curtin University (Australia)(2006年11月～2007年1月)
 資格：理学療法士、日本体育協会公認アスレティックトレーナー、
 The Certified Mulligan Concept Practitioner (徒手療法国際資格)、日本サッカー協会公認C級コーチ、NSCA認定CSCS
 非常勤講師：
 受賞・表彰：岩沼市長 感謝状

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
オーストラリア研修 企画/引率/通訳	2015年3月～、年1回、計4回	Curtin University, Edith Cowan Universityでの研修を企画、運営、現場での通訳を4年連続して行った
4.その他教育活動上特記すべき事項		
健康科学大学トレーナークラブ顧問	2009年～2019年3月	
健康科学大学サッカー部顧問	2012年～2019年3月	山梨県社会人リーグ2部優勝2回、山梨県クラブチームサッカー選手権大会 優勝2回

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
徒手療法前後の脊椎アライメントの変化をレントゲン画像にて測定した。20例以上に被検者が増えてきたので今後、論文にまとめて行こうと考えている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
肩こりを治せば、老いも止められる	共著	2018年	高橋書店	金岡恒治, 成田崇矢	
極めるアスリートの腰痛	共著	2018年9月	文光堂	西良浩一、金岡恒治, 大久保雄、成田崇矢	P123-135
プロフェッショナル腰痛診療	共著	2018年10月	中外医学社	山下敏彦, 西良浩一, 金岡恒治編, 成田崇矢	P114-124
腰痛のプライマリ・ケア	共著	2018年10月	文光堂	金岡恒治, 成田崇矢	

脊柱理学療法マネジメント 病態に基づき機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	編集	2019年2月	メジカルビュー社	成田崇矢	
(学術論文)					
ナショナルジュニア飛込選手における練習前後の肩関節可動域の変化		原著 2018年	日本整形外科学スポーツ医学会誌、38 (2)	成田崇矢, 金岡恒治	p.56-61.
腰部障害と水泳動作		総説 2018年	理学療法ジャーナル 52 (5)	単著	p.444-445
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
フルマラソンにおける身体衝撃の経時変化		2018年12月	第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会(東京)	永野康治, 東原綾子, 中川剣人, 成田崇矢, 稲見崇孝	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
腰痛に対する運動療法		2018年3月31日-4月1日	CITセミナー	東京都千代田区	
腰痛に対するシステムティックな評価とアプローチ		2018年4月14, 15日	南魚沼リハビリテーション研究会	新潟県南魚沼市	
腰痛の病態の基本的理解・機能的評価方法		2018年4月22日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 実技1	東京都千代田区	
腰痛に対する評価とアプローチ		2018年5月12,13日	聖隷クリストファー大学卒業後研修会	静岡県浜松市	
器質の変化に対する運動療法		2018年5月20日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 基礎理論2	東京都西東京市	
腰痛に対する評価とアプローチ		2018年5月27日	SESSION	神奈川県横浜市	
腰痛の評価と治療		2018年6月23, 24日	第73回熊本県理学療法士協会学術研修会	熊本県熊本市	
腰痛に対する評価とアプローチ		2018年6月30日	POSTアカデミア	東京都墨田区	
器質の変化に対する運動療法		2018年7月1日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 実技2	東京都千代田区	
仙腸関節障害の基本的理解・機能的評価方法		2018年7月15日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 基礎理論3	東京都西東京市	
機能的腰痛に対する評価とアプローチ		2018年7月16日	ジャパンライムセミナー	東京都文京区	
腰椎に対するシステムティックな評価とアプローチ		2018年8月5日	立川相互病院研修会	東京都立川市	
腰椎に対するシステムティックな評価とアプローチ		2018年8月12日	株式会社geneセミナー	愛知県名古屋市	
アスリートの腰痛に対する治療戦略～医師・理学療法士の立場から～		2018年8月18日	NPO法人江戸川スポーツ医学研究会 第3回研修会	東京都台東区	
仙腸関節障害の基本的理解・機能的評価方法		2018年8月19日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 実技3	東京都千代田区	

腰痛の病態の基本的理解・機能的評価方法	2018年8月25, 26日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 基礎1・実技1	鹿児島県鹿児島市
腰痛に対する理学療法	2018年8月30日	第4回スポ研サマーセミナー	群馬県前橋市
股関節評価とアプローチ	2018年9月1日	わたり病院 院内研修会	福島県福島市
アスリートの腰痛に対するシステムティックな評価とアプローチ	2018年9月2日	山形県理学療法士協会 専門領域推進部スポーツ理学療法領域研修会	山形県山形市
仙腸関節障害に対する病態理解、評価とアプローチ	2018年9月8, 9日	熊本臨床スポーツ研究会	熊本県熊本市
徒手理学療法	2018年9月23日	スポーツ理学療法研修会(基礎)埼玉会場	埼玉県さいたま市
腰痛の評価と治療 腰痛疾患(非特異的腰痛)に対する理学療法	2018年9月29日	臨床家のための運動器研究会	神奈川県川崎市
脊柱に対する理学療法 機能的腰痛に対する考え方	2018年9月30日	地域リハ従事者研修会	茨城県水戸市
腰部疾患に対する理学療法2Daysコース(評価とアプローチ)	2018年10月5, 6日	リハテックリンクス	東京都江戸川区
スポーツ理学療法	2018年10月14日	第22回茨城県理学療法士学会「教育講演」	茨城県阿見町
仙腸関節障害に対する評価と理学療法	2018年10月20日	TAPセミナー	東京都江戸川区
筋筋膜性腰痛の基本的理解・機能的評価方法	2018年10月21日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 基礎理論4	東京都西東京市
徒手療法を応用した腰痛評価	2018年11月4日	第11回マニュアルセラピー研究会学術集会「特別講演」	北海道札幌市
第6回水泳競技メディカルサポートミーティング	2018年11月10日	国立館大学	東京都世田谷
身体機能研究会 rbodyコラボ	2018年11月11日	rbody	東京都千代田区
腰椎に対するシステムティックな評価とアプローチ	2018年11月30日	富士整形外科	
頸椎の基本的理解・機能的評価方法	2018年12月2日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 基礎理論(頸椎)	東京都西東京市
頸椎に対するシステムティックな評価とアプローチ	2018年12月15-16日	南魚沼リハビリテーション勉強会	新潟県南魚沼市
体幹部	2019年1月12日	スポーツ理学療法研修会(基礎)宮城会場	宮城県仙台市
頸椎の基本的理解・機能的評価方法	2019年1月20日	日本身体機能研究会 腰痛運動療法セミナー 実技(頸椎)	東京都千代田区
脊柱疾患が分かる。臨床に繋げるための機能的腰椎の診かた。基礎から応用	2019年1月26-27日	C.I.Tセミナー	東京都大田区
頸椎疾患に対する理学療法の展開	2019年2月9日	第1回東前橋整形外科リハビリテーション研修会	群馬県前橋市

腰椎疾患のバイオメカニクスと治療方略	2019年3月9日	第2回関節疾病予防セミナー	東京都墨田区
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
矯正パッド	2019年3月1日	特許第6487601号	成田崇矢、山梨賛友株式会社
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
チョイス@病気になったとき:その歩き方で大丈夫?ウォーキングのトラブル	2018年9月1日	NHK	
美と若さの新常識:ストレッチでめざせ美スタイル!	2018年12月11日	NHK	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本理学療法士協会、日本臨床スポーツ医学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本脊椎・脊髄病学会、日本徒手療法学会(評議員)	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2009年6月～	日本水泳連盟科学委員
2009年6月～	日本オリンピック委員会強化スタッフ
2009年6月～	日本水泳連盟飛込委員
2014年6月～	日本水泳連盟医事委員
2009年～	飛込競技国際大会多数トレーナー帯同
2014年～	富士河口湖町スポーツ推進審議会委員
2014年～	群馬県立高崎商業高校女子バスケットボール部トレーナー
2015年4月	文部科学省委託事業「女性アスリートの育成・支援プロジェクト『女性競技種目戦略的強化プログラム』」
2015年9月～	日本理学療法士協会 日本スポーツ理学療法学会 ガイドライン部会 部員 (2017年まで)
2015年～2019年	バスケットボール女子日本リーグ機構、山梨クイーンビーズ トレーナー
2016年～	ミキハウススポーツクラブ・飛込競技・坂井丞、千歩純一 トレーナー
2018年4月～	徒手理学療法編集委員会 委員
2018年6月～	日本理学療法士協会 ガイドライン・用語策定委員会作成グループ (足関節捻挫) 班員
2018年6月～	日本理学療法士協会 日本スポーツ理学療法学会 ガイドライン部会部員

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年 : 1957(昭和32)年
 在籍 : 1991(平成3)年4月～
 最終学歴 : 東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程
 学位 : 学術博士
 学位論文 : 大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野 : 知能情報処理、感性情報処理
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等 : 学生部副部長 (2012～2016)
 留学 :
 資格 : ITパスポート試験
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生の情報通信技術に関する支援	2011年1月～ (継続中)	日頃より、担当して授業を問わず、学生の情報通信技術(ICT)やビデオ映像制作などの支援を教員研究室で行っている。たとえば、ゼミ生以外の学生(2グループ)がビデオ映像の制作のため1カ月程度、栗山研究室の情報機器を利用した。また、ゼミ生以外の学生に対しても「情報処理技術者試験(ITパスポート試験)経済産業省主催 国家試験」の勉強の支援を行い、2011年7月試験において合格者(1名)を輩出した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
スポーツ情報分析室の管理運営	2013年7月～2019年3月	スポーツ情報分析室の新設提案および分析ソフトの勉強会等の実施

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
電子情報通信学会、人工知能学会、日本ファジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会

小山桂史 (こやま けいじ) 准教授



出生年：1984(昭和59)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程
 修了
 学位：博士(スポーツ健康科学)
 学位論文：Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野：スポーツバイオメカニクス
 前職：順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等：入試広報委員長
 留学：
 資格：中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 トレーニング指導者
 非常勤講師：駒澤大学総合教育研究部非常勤講師
 首都大学東京非常勤講師
 受賞・表彰：第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本関夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝
 (2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>足部の力発揮機能のメカニズムを検討するために、足部筋力(足指把持筋力)、足部形態(アーチ高、足長)を測定した。その結果、足指把持筋力はアーチ高とは関係が見られず、足部筋力はアーチ構造に依存しないことが分かった。一方で、立位と座位での足指把持筋力を比べると、立位の方が高かった。座位から立位への足指把持筋力の増加率はアーチの座位から立位への変化率(アーチ動態)が関連し、筋力の増加率が高い者ほどアーチの変化率も大きいことがわかった。したがって、体重を足部に負荷することによって、アーチ構造が圧縮され、アーチの底辺を成す足底腱膜に張力が作用して筋力が大きくなることがわかった。その作用は柔らかい足を持つ者ほど大きく発揮できることが示唆された。さらにこれらの項目を、裸足のトレーニング習慣がある柔道選手と非柔道選手を比べると、柔道選手は非柔道選手と比べて、足部の筋厚あたりの筋力とアーチ動態が大きく、特異的な発達が示唆された。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Force-generating capacity of the toe flexor muscles and dynamic function of the foot arch in upright standing	共著	2019年2月1日	Journal of Anatomy	Yamauchi Junichiro, Koyama Keiji	234: 515-522
Toe flexor muscle strength and morphological characteristics of the foot in judo athletes	共著	2019年3月5日	International Journal of Sports Medicine	Koyama Keiji , Hirokawa Mitsushi, Yoshitaka Yukiharu, Yamauchi Junichiro	40: 263-268
Relation between the ankle joint angle and the maximum isometric force of the toe flexor muscles	共著	2019年3月6日	Journal of Biomechanics	Yamauchi Junichiro, Koyama Keiji	85:1-5

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
Relationship between the foot function and vertical jump performance	2018年7月	23 th annual congress of the European College of Sport Science, Dublin	Keiji Koyama, Seiya Kudo, Junichiro Yamauchi
足指把持動作時の力発揮-足関節角度関係	2018年9月	第73回 日本体力医学会大会、福井	小山桂史, 山内優希, 山内潤一郎
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
熱中症予防指導士の認定講座の講師	2019年3月	日本スポーツ健康科学学会	桐蔭横浜大学(横浜市)
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C、分担	2016年4月～平成2019年3月予定	足部機能の発育発達様相を考慮した子どもの運動能力向上プログラムの開発 研究代表者: 森田 憲輝 共同研究者: 小山 桂史, 山内 潤一郎	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本バイオメカニクス学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本トレーニング科学学会, 日本バレーボール学会, 日本靴医学会, 日本スポーツ健康科学学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2013年4月～2019年3月	日本スポーツ健康科学学会 庶務・会計理事	
2019年3月～現在	日本スポーツ健康科学学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
駒澤大学での生涯学習(健康づくり教室:ジョギングコース)	2016年9月～現在に至る	陸上指導

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ
 専攻修士課程 修了
 学位：修士(武道・スポーツ)
 学位論文：異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野：ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化コー
 チ
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本ハンドボール学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2001年10月～	日本体育協会公認ハンドボールコーチ	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
第3回アスリート育成指導者講習会役員(強化普及アドバイザー)	2018年7月	神奈川県ハンドボール協会
普及育成事業指導者講習会役員(強化普及アドバイザー)	2019年2月	神奈川県高等学校体育連盟 ハンドボール専門部

Ⅳ芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子ハンドボール部監督)女子第54回全日本学生ハンドボール選手権大会	2018年11月	丸善インテックアリーナ大阪	インカレベスト8

廣瀬立朗 (ひろせ たつろう) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京大学大学院
 学位：博士(学術)
 学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
 専門分野：運動生理学、運動生化学
 前職：日本体育大学 助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：上智大学
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
NAD+前駆体の摂取がラット骨格筋、筋力、走運動能力に与える影響について検討している。自走式回転ケージによる走行距離に関してはNAD+摂取により変化が認められなかった。また、ヒラメ筋腓腹筋においてのSDH染色濃度に差は見られなかった。現在NAD+摂取が高強度運動中の筋力や走力に与える影響について検討している。			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
熱中症予防士認定講座「熱中症の疫学」	2019年3月1日	日本スポーツ健康科学学会	桐蔭横浜大学

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体力医学会 physiology 日本スポーツ健康科学学会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
東京都マスターズウェイトリフティング選手権 M45:85kg級優勝	2018年5月	武蔵の森	
全日本マスターズウェイトリフティング選手権 M45:85kg級2位	2018年8月	和歌山県体育館	

渡辺 啓太 (わたなべ けいた) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2018年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了
 学位：体育学修士
 学位論文：バレーボールのプレーの評価指標に関する一考察
 専門分野：スポーツ情報戦略、高度競技マネジメント、スポーツイノベーション
 前職：専修大学ネットワーク情報学部 客員教授
 学内役職等：女子バレーボール部 部長
 留学：NOVARA、ITALY(2010年1月～3月)
 資格：日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー修了
 日本バレーボール協会アナリスト育成インストラクター
 バレーボール上級コーチ
 非常勤講師：
 受賞・表彰：SQUARE ENIX Award、専修大学学長賞、筑波大学大学院人間総合科学研究科長賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア機器を活用した授業の実践	2018年9月～	
2.作成した教科書、教材、参考書		
「データを武器にする」ダイヤモンド社	2018年9月～	
4.その他教育活動上特記すべき事項		
学生の主体性を活かしたスポーツアナリスト養成カリキュラムの開発	2018年9月～2019年1月	

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
バーチャルリアリティによる効果的練習方法の開発に関する研究。 バレーボールのゲーム分析に関する研究。 バレーボール競技にボールが及ぼす影響に関する研究。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
単眼バレーボール映像を用いたアタック位置予測	2018年9月19日	第23回日本バーチャルリアリティ学会大会	佐藤綱祐、渡辺啓太、矢野博明、岩田洋夫
Motion Recognition for Automatic Control of a Block Machine	2018年11月30日	VRST2018 Virtual Reality Software and Technology	Kosuke Sato, Keita Watanabe, Hiroaki Yano, Hiroo Iwata

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
JOCナショナルコーチアカデミー講師	2018年6月12日	日本オリンピック委員会	味の素ナショナルトレーニングセンター
JSAAアナリスト入門セミナー講師	2018年7月30日	日本スポーツアナリスト協会	SAPジャパン株式会社
データを武器にして戦うとは ～サイエンス・テクノロジーとデータアナリティクス～	2018年9月12日	山梨県立韮崎高校スーパーサイエンスハイスクール	山梨県立韮崎高校
スポーツアナリティクスの未来	2018年11月15日	SPORTEC WEST	インテックス大阪
スポーツ界におけるデータの戦略的活用とセキュリティについて	2018年12月6日	ディーアイエスソリューション株式会社	シスコシステムズ東京本社
記念講演～スポーツ界におけるICTとデータの活用～	2019年1月24日	埼玉県生産性本部 平成31年新春労使懇談会	埼玉会館
10年後のスポーツアナリストについて語ろう	2019年1月26日	スポーツアナリティクスジャパン2019	東京コンファレンスセンター・有明
ICTを活用したスポーツ情報戦略	2019年1月27日	特定非営利活動法人日本SAQ協会	大宮ソニックシティビル
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
SQUARE ENIX Award "Motion Recognition for Automatic Control of a Block Machine"	2018年12月1日	VRST2018 Virtual Reality Software and Technology	Keita Watanabe, Kosuke Sato, Hiroaki Yano, Hiroo Iwata
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
サッカーのデータ分析の仕事とは	2018年7月3日	Japan Sports Analyst Association【Web】	
スポーツアナリストを育てるには	2018年7月4日	Japan Sports Analyst Association【Web】	
横浜F・マリノスの集客数を増やすには？	2018年11月28日	+AI(プラスエーアイ)【Web】	
AIによる“未来予測”で、試合に勝つ	2018年12月12日	エドテックジン【Web】	
スポーツアナリストの役割知って	2019年1月22日	朝日新聞DIGITAL【Web】	
川淵三郎氏がアナリストの活動に期待「日本スポーツ界に“希望の星”ができた	2019年1月27日	スポーツナビ【Web】	
高度な映像分析を学生がプレゼン「もっと早くこんなツールに出会いたかった」	2019年2月12日	Dartfish【Web】	
スポーツアナリストという職業の確立に奔走	2019年3月12日	advanced by massmedian【Web】	
ビジネスパーソンがスポーツアナリストから学べること	2019年3月14日	DIGITALIST【Web】	
(その他特記事項)			
ジャパネット杯春の高校バレー(第70回全日本バレーボール高等学校選手権大会)テレビ中継解説			
FIVBバレーボール世界選手権女子日本大会のテレビ中継におけるデータコンテンツの監修			
スポーツアナリストの発展を(TBSテレビ1月26日)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、情報処理学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本バレーボール学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2011年9月～現在	日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー講師
2014年6月～現在	一般社団法人日本スポーツアナリスト協会代表理事
2014年11月～現在	スポーツアナリティクスジャパン実行委員会実行委員長
2015年8月～現在	総務省「スポーツ×ICT」ワーキンググループおよび「スポーツデータ利活用」タスクフォースメンバー
2015年12月～現在	JSAA Analytics Challenge Cup(旧スポーツアナリティクス甲子園) 審査員
2017年4月～現在	日本バレーボール協会 ハイパフォーマンス戦略担当
2017年9月～現在	日本オリンピック委員会選手強化本部情報・医・科学専門部会 情報・科学サポート部門メンバー
2017年10月～現在	日本バレーボール協会 TOKYO2020対策プロジェクト プロジェクトリーダー
2018年2月～現在	日本バレーボール協会 ユニバーシアード日本代表女子バレーボールチームアドバイザー
2018年9月～現在	スポーツビジネス産業展 アドバイザリーコミッティーメンバー

スポーツ健康政策学科 (Department of Culture and Sport Policy)

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 教授



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻単位修得退学
 学位：修士(文学)
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 学内役職等：
 留資格：中学校教員専修免許状(国語)
 高等学校教員専修免許状(国語)
 博物館学芸員資格
 非常勤講師：法政大学非常勤講師(日本文学と文化Ⅰ、日本文学と受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
能「自然居士」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「船橋」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用※運用実績あり	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「経正」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「皇帝」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「野守」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「大江山」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		

能「芦刈」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「吉野天人」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「小袖曾我」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「小塩」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「鸚鵡小町」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「大会」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
能「難波」解説(入稿済)	単著	2018年より順次運用	檜書店、国立能楽堂解説ほかTabでの字幕解説。「あらすじ／見どころ」「詞章解説」		
「御社上の儀」解説	単著	2018年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		
能「俊成忠度」解説	単著	2018年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		
能「巻絹」解説	単著	2018年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		
能「黒塚(安達ヶ原)」解説	単著	2018年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		
狂言「雁礫」解説	単著	2018年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		
(学術論文)					
40. 「屋内競技から屋外競技、屋内競技へ」	単独	2018年4月	Sportsmedicine2018(200号)、ブックハウスHD		
41. 「ラグビー起源譚とその周辺」	単独	2018年5月	Sportsmedicine2018(201号)、ブックハウスHD		

42.「浦島太郎と相撲、オリンピック」	単独	2018年6月	Sportsmedicine2018 (202号)、ブックハウスHD		
43.「明治維新と剣術／撃剣興行警視庁 剣道」	単独	2018年7月	Sportsmedicine2018 (203号)、ブックハウスHD		
44.「葬と相撲／四本柱と四股」	単独	2018年9月	Sportsmedicine2018 (204号)、ブックハウスHD		
45.「オリンピック・ミュンヘン大会と東京大会の(芸術展示)」	単独	2018年10月	Sportsmedicine2018 (205号)、ブックハウスHD		
46.「『水飲むな！』『根性みせろ！』の起源(1)／武田千代三郎「水抜き」「油抜き」訓練法」	単独	2018年11月	Sportsmedicine2018 (206号)、ブックハウスHD		
47.「インナーマッスルの(神話)／インナーマッスルの(オリエンタリズム)」	単独	2018年12月	Sportsmedicine2018 (207号)、ブックハウスHD		
48.「オリンピック・ト占・歌舞伎／綱引き雑談」	単独	2019年2月	Sportsmedicine2019 (208号)、ブックハウスHD		
49.「サンダウとサンドー／『サンダウ体力養成法』と『鐵啞鈴体力養成法』」	単独	2019年3月	Sportsmedicine2019 (209号)、ブックハウスHD		

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
第12回ECOろうそく能／法人設立十周年特別公演会「第一夜 研究公演・復曲能(高安)／アフタートーク」(主催:なにわ文化芸術芸能推進協議会[愛称:カエパス]、於:山中能舞台) 第12回ECOろうそく能／法人設立十周年特別公演会「第四夜 本格公演・復曲能(高安)／パネルディスカッション」(主催:なにわ文化芸術芸能推進協議会[愛称:カエパス]、於:山中能舞台)(登壇者:西野春雄[法政大学名誉教授]、金子直樹(能楽評論家)、橋場夕佳、今泉隆裕、山中雅志) 薪御能入門講座「御能を楽しむ、奈良で楽しむ」(主催:奈良市観光協会、於:奈良県文化会館 会議室)(登壇者:今泉隆裕他)	2018年6月15日		西野春雄(法政大学名誉教授)、 今泉隆裕 、橋場夕佳、山階弥右衛門(観世流シテ方・山階流家元)
第12回ECOろうそく能／法人設立十周年特別公演会「第四夜 本格公演・復曲能(高安)／パネルディスカッション」(主催:なにわ文化芸術芸能推進協議会[愛称:カエパス]、於:山中能舞台) 薪御能入門講座「御能を楽しむ、奈良で楽しむ」(主催:奈良市観光協会、於:奈良県文化会館 会議室)(登壇者:今泉隆裕他)	2018年12月22日		西野春雄(法政大学名誉教授)、金子直樹(能楽評論家)、橋場夕佳、 今泉隆裕 、山中雅志

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

岡田 俊恵 (おかだ としえ) 教授



出生年 : 1954(昭和29)年
 在籍 : 1989(平成元)年4月～
 最終学歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学位 : 文学修士
 学位論文 : A Study on Macbeth
 専門分野 : 英語英文学、英語教育、時事英語
 前職 : 静岡大学助教授
 学内役職等 : 桐蔭英語村名誉村長、外国語センター委員、国際交流センター委員、教職課程委員会委員、学生委員会委員
 留学 :
 資格 : 中学教員1級、高校教員1級免許
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
2.作成した教科書、教材、参考書		
外国語特別活動の英語教材	2013年～現在	外国語特別活動(英語)の教材は、市販の教材だけではうまく授業展開できないため、殆ど手作り教材である。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当。
桐蔭英語村の管理運営	2014年4月～現在	桐蔭英語村の職員およびネイティブ・スタッフ、日本人スタッフの統率。小中高大学生向け各種プログラムの作成指導。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会、語学教育研究所、PENの会(にいがた小学校英語教育研究会)

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
特別支援学級での外国語活動及び外国語指導補助	2018年9月11日	新潟市立女池小学校	新潟市立女池小学校特別支援学級(スマイル学級)で、3年生から6年生までの授業を支援。
外国語活動及び外国語授業指導の補助	2019年3月13日	新潟市立庄瀬小学校	新潟市立庄瀬小学校で、3年生から6年生までの授業支援。

田中暢子 (たなか のぶこ) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2013(平成25)年～
 最終学歴：ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位：博士(スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文：“An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability”(ラフバラ大学2013年)
 専門分野：スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学
 前職：中央大学保健体育研究所 客員研究員
 学内役職等：国際交流センター副センター長、学部国際交流委員会委員長、フットサル部顧問、男子バスケットボール部顧問
 留資格：ラフバラ大学大学院博士課程・修士課程
 格：弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許、障害者職業カウンセラー、上級介護予防運動スペシャリスト
 非常勤講師：中央大学、筑波大学大学院TIAS、ウースター大学スポーツエクササイズ学部名誉教授
 受賞・表彰：1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞(高齢者エアロビックプログラム開発)
 2016年 ウースター大学名誉准教授就任
 2018年 ウースター大学名誉教授就任

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
実践で学ぶ！学生の社会貢献	2018年	桐蔭横浜大学の教員らが中心となって執筆した教科書の編集に携わった。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>笹川スポーツ財団の研究助成を獲得し、その資金で、イタリア(シンポジストとして)、台湾(基調講演者として)などで開催されたカンファレンスにシンポジストに登壇、また日本スポーツ精神医学会での研究発表をした。さらにはアジア障害者スポーツ研究会に基調講演者としての招聘、マレーシアで開催された世界最大級のカンファレンス、Going! Globalにて、インクルーシブスポーツの発展の可能性について、シンポジストとして協定校のウースター大学の教員らとともに登壇した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツイベントとジェンダー; パラリンピックとジェンダー	単著	2018年5月	よくわかるスポーツとジェンダー, ミネルヴァ書房		132-133
スポーツをする権利とジェンダー; イギリス	単著	2018年5月	よくわかるスポーツとジェンダー, ミネルヴァ書房		98-99
多様性と体育・スポーツ; アダプテッドスポーツ	単著	2018年5月	よくわかるスポーツとジェンダー, ミネルヴァ書房		182-183
アダプテッドスポーツのはじまりとパラリンピックムーブメント	単著	2018年8月	教養としてのアダプテッド体育スポーツ学		90-93
はじめに	共編者	2018年10月	実践で学ぶ! 学生の社会貢献		i - ii
共生社会からの意義—東京2020に向けた日本の変化	共著	2018年10月	実践で学ぶ! 学生の社会貢献	兒玉友・田中暢子	33-38
障害者を対象としたイベント運営	共著	2018年10月	実践で学ぶ! 学生の社会貢献	兒玉友・田中暢子	265-268
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(学会)					
日本体育・スポーツ政策学会(学会大会委員長)	2018年12月	第28回日本体育スポーツ政策学会(桐蔭横浜大学)			
日本体育・スポーツ政策学会(シンポジウム1コーディネーター)	2018年12月	第28回日本体育スポーツ政策学会(桐蔭横浜大学)	太田慎也、松田薫二ほか		
精神障害者スポーツにおける国際比較研究—競技の視点から(学会発表)	2018年9月	第16回日本スポーツ精神医学会学術集会(葉業健保会館)	森谷航、佐々毅		
精神障害者スポーツにおける国際比較研究—各国のガバナンスに注目して(学会発表)	2018年9月	第16回日本スポーツ精神医学会学術集会(葉業健保会館)	森谷航、佐々毅		

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
British Council, Going Global 2018 シンポジスト登壇	2018年5月	British Council・ウースター大学	マレーシア国際会議場(クアラルンプール市)
Dream World Cup2018 国際カンファレンスシンポジスト	2018年5月	世界メンタルヘルス・フットボール委員会	イタリア Palatiziano(ローマ市)
ASAPE(アジア障害者体育スポーツ学会) 基調講演	2018年7月	ASAPE	マレーシア大学(クアラルンプール市)
復康足球台日交流議壇(基調講演)	2018年10月	社団法人嘉義市心康復之友協會	台湾 嘉義市
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
精神障害者の競技スポーツ推進と国際化における現状と課題ー精神障害者フットボール国際委員会の加盟国間の国際比較研究からの一考察ー	2018年4月～2019年2月	笹川スポーツ財団研究助成	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
British Council, Going Global 2018 シンポジスト登壇	2018年5月	マレーシア国際会議場。ウースター大学、北京体育大学と申請したカンファレンス企画が通り、マレーシアで開催された国際カンファレンス期間中、シンポジウムを開催し、登壇した。	
Dream World Cup2018 研究実施/国際カンファレンスシンポジスト	2018年5月	イタリアローマ。笹川スポーツ財団研究助成採択を受け、イタリアで開催されたDream World Cup2018期間中、参加対象国に対しアンケートとインタビュー調査を実施。また国際カンファレンスにシンポジストとして登壇し、精神障害者スポーツの国際動向について講演を行った。	
ASAPE(アジア障害者体育スポーツ学会) 基調講演	2018年7月	ASAPEの第15回学会大会期間中(マレーシア開催)に、基調講演の依頼を受け、女性パラリンピアン のジレンマというタイトルで基調講演を行った。	
復康足球台日交流議壇	2018年10月	台湾、香港、マカオ、日本が参加したカンファレンスにて、日本、並びに世界の精神障害者スポーツの動向について講演した。	
(その他特記事項)			
NHK WEBニュース	2018年8月		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会、障害学会、日本障害者体育・研究会、日本オリンピックアカデミー 他		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2011年3月～現在	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー	
2014年6月～現在	益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与	
2014年6月～現在	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟理事	
2016年3月～現在	一般社団法人日本障がい者サッカー連盟理事	
2015年4月～現在	日本体育スポーツ政策学会理事	
2018年3月～現在	スポーツ庁健康スポーツ課技術審査委員会委員	
2018年4月～現在	独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンス統括人材の育成支援事業推進委員会委員	
2018年12月～現在	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
つづきMYプラザ「グローバル人材と人間力」	2018年8月7日	都築多文化・青年交流プラザ

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻
 修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸として(博士論文)
 専門分野：メディア論、表象文化論、日本語教育
 前職：大同大学情報学部教授
 学内役職等：入試・広報センター長(2013～)
 留学：
 資格：一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)】
 日本語教育能力検定合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
ノート『腕時計のオールデコ』	単著	2018年6月	桐蔭論叢第38号		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「腕時計 小型化「38ミリ」の流れ スイスの展示会から」	2018年4月27日	読売新聞夕刊			
(その他特記事項)					
(雑誌連載)					
1. 『並木浩一の腕時計文化論』単著 2008年1月～現在『WATCH NAVI』学研パブリッシング					
2. 「腕時計のポートレート」単著 2011年1月～現在『PEN』、阪急コミュニケーションズ(月2回刊)					
3. 「リストウォッチは雄弁だ！」単著 2014年～現在『Men7s Precious』、小学館(季刊)					
(web連載)					
4. 「知的エリートは腕時計をこう選ぶ」単著 2018年1月～現在『Precious.jp』、小学館(月2回連載)					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会、情報文化学会、デジタルアーカイブ学会、沖縄文化協会、沖縄映画研究会、日本語教育学会、放送批評懇談会

吉田 毅 (よしだ たけし) 教授



出生年：1963(昭和38)年
 在籍：2017(平成29)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科修士課程修了
 学位：博士(体育科学)
 学位論文：競技者の青年期における困難克服プロセスに関する社会的研究—主体的社会化論を手がかりに—
 専門分野：スポーツ社会学
 前職：常葉大学健康プロデュース学部教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学科学科長、地域連携・生涯学習センター長、スポーツ健康政策学部研究紀要編集委員会委員長
 留資格：高等学校教諭一級普通免許(保健体育)
 中学校教諭一級普通免許(保健体育)
 非常勤講師：常葉大学健康プロデュース学部
 受賞・表彰：日本体育学会 学会賞(2013年)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
数年前に科研費を受けて実施した「中途身体障害者のスポーツへの社会化」に関する調査データについて再検討を加え、「中途身体障害者の複線的スポーツキャリア形成プロセスと他者関係性—ある車椅子バスケットボール選手のライフストーリー—」と題する論文を著した(桐蔭論叢)。また、上記研究の次に科研費を受けて実施した「東日本大震災で被災した地域スポーツ界の復興」に関する調査データを基に『理論と実践で学ぶサッカーコーチング』(大修館書店)の第1章第2節「サッカーと社会」について執筆した。さらに、数年に亘って継続している「地域スポーツクラブの持続要因に関する研究」及び「地域スポーツクラブのレジリエンスに関する研究」に取り組んだ。具体的には、東日本大震災被災地における地域スポーツクラブを対象にフィールドワーク(聞き取り、視察)を実施した。この研究は科研費につなげる意図を有するものであったが、実際に2019年度から科研費に採択されるに至った。今後の発展を期する研究である。なお、アスリートのキャリア形成についても検討を重ねた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
理論と実践で学ぶサッカーコーチング:第1章第2節「サッカーと社会」	共著(分担執筆)	2018年9月	大修館書店	中山雅雄編著	8-16頁
(学術論文)					
中途身体障害者の複線的スポーツキャリア形成プロセスと他者関係性—ある車椅子バスケットボール選手のライフストーリー—	単著	2018年12月	桐蔭論叢39号	吉田 毅	5-16頁
○その他					
(その他特記事項)					
「スポーツ社会学研究」(日本スポーツ社会学会機関誌)の投稿論文の査読を依頼され実施した。					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本社会学会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2017年4月～2019年3月	日本体育学会機関誌「体育学研究」編集委員
2017年11月～2019年3月	日本体育学会選挙管理委員
2018年10月～現在	神奈川県立スポーツ施設指定管理者評価委員会委員長

福 浦 一 男(ふくうら かずお) 准教授



出 生 年 : 1967年(昭和42)年
 在 籍 : 2017年(平成29)年4月～
 最 終 学 歴 : 京都大学大学院文学研究科博士後期課程所定の研究指導認定退学
 学 位 : 博士(文学)
 学 位 論 文 : 「北タイ、チェンマイの霊媒集団とその宗教実践」
 専 門 分 野 : 比較社会学・文化人類学
 前 職 : 滋賀医科大学非常勤講師
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : チェンマイ大学(タイ)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>2018年度は、北タイの伝統的な宗教文化の諸事例を通して、民衆の文化実践のなかの「創造性」とその可能性について考察してきたこれまでの調査・研究をよりいっそう発展させる研究(JSPS科研費17K03280)を深化させた。</p> <p>2018年7月には22nd Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia (ASAA)で研究発表を実施した。2年に一度開催されるこの学会にパネリストとして参加し、歴史的なパースペクティブから、東南アジア大陸部に位置する北タイの伝統的な宗教実践者たちの協同的儀礼実践とその重要性に関する研究発表を実施した。この研究発表に関わって、後日オーストラリアの研究者から、このパネルの研究発表を元にした国際共同出版の提案があり、現在具体化に向けて準備をしている。さらに、2019年度に開催されるThe 2019 AAS-in-ASIA Conferenceにおいてもパネルの組織・司会・研究発表を行うこととなった。</p> <p>2019年度からは、一連の研究成果をさらに国内外に発信していく所存である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「北タイ、チェンマイの『師』(khu)信仰の現代的展開」	単著	2019年3月	『宗教研究』第92巻別冊		412-413頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「北タイ、チェンマイの宗教実践者と精霊憑依——伝統的な宗教性の再構成を巡って」	2018年6月2日	日本文化人類学会第52回研究大会(弘前大学/青森県弘前市)			
Resurrecting Lan Na Religiosity: Interconnectedness of Religious Practitioners through Spirit Possession in Chiang Mai, Northern Thailand	2018年7月4日	Presentation in the Panel Titled “Stone Masters: Deities, and Divination; Emergence or Resurgence of Ritual in Thailand?” for the 22nd Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia (ASAA), Held in University of Sydney, Australia			
「北タイ、チェンマイの『師』(khu)信仰の現代的展開」	2018年9月8日	日本宗教学会第77回学術大会(大谷大学/京都府京都市)			

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
日本学術振興会	2017年4月～2020年3月	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 課題番号:17K03280 平成29年度 基盤研究(C) 北タイ、チェンマイの霊媒術と 憑依文化の再編に関する人類学的研究
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
The 22nd Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia (ASAA)のパネル“Stone Masters: Deities, and Divination; Emergence or Resurgence of Ritual in Thailand?”での発表	2018年7月4日	シドニー大学(オーストラリア)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本文化人類学会、日本社会学会、日本宗教学会、関西社会学会、Asian Studies Association of Australia

齋藤 れい (さいとう れい) 准教授(2019年度 新任教員)



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2019(平成31)年4月～
 最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(スポーツ科学)
 学位論文：スポーツ観戦における経験価値尺度(EVSSC)の開発
 専門分野：スポーツマーケティング、スポーツマネジメント、スポーツビジネス論
 前職：早稲田大学スポーツ科学部スポーツ科学科非常勤講師
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：和光大学経済経営学部経営学科
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業内容のインターネット上での公開	2010年4月～	各大学のオンラインシステムを有効活用し、連絡事項のメール配信、課題やレポート等のリマインド、授業内配布資料やレジュメ等の公開を行っている。
ワールドカフェ方式を用いたグループワークの実施	2014年4月～	大教室における150人規模の学生を対象にアクティブラーニングを実施するにあたり、ワールドカフェ方式を用いてグループワークを行っている。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
「競技ドッジボールの国内普及と強化 並びに国際化にむけての提案」 競技団体代表監督ならびに事務局長にインタビューを行ったほか、大学生を対象にドッジボールに対するイメージ調査を行い親和図法を用いて分析を行った。2019年7月の日本スポーツ産業学会第28回大会企画コンペ「競技団体の更なる発展に向けたアイデアを提案しよう」に応募し、入賞した。本件に関しては、スポーツ産業学研究に執筆掲載予定。

小笠原 一 彰 (おがさわら かずあき) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
在籍：2014(平成26)年4月～
最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科健康・スポーツ系教育専攻
学位：修士(教育学)
学位論文：競泳選手のクリティカル・スイム・スピードの決定
専門分野：コーチング学、トレーニング科学、運動生理学
前職：桐蔭学園中高社会科教員(専門:日本史)
学内役職等：
留学籍：
資格：中高社会科教員1種免許(地理歴史)
非常勤講師：早稲田大学スポーツ科学部(2015～現在)
受賞・表彰：早稲田大学体育名誉賞(1993)、神奈川県水泳連盟特別功労賞(2012)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、水泳水中運動学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1995年4月～現在	神奈川県水泳連盟強化委員
2000年4月～現在	神奈川県高校体育連盟水泳専門部常任委員

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の指導場面に着目して－(修士論文)
 専門分野：スポーツ哲学、バレーボール
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部(助手)
 学内役職等：
 留学：
 資格：国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
 公益財団法人日本バレーボール協会公認講師
 財団法人日本体育協会上級コーチ
 財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
 中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
 実用フランス語技能検定3級
 自然体験活動指導者(自然体験活動リーダー)
 バルシューレジャパン公認バルシューレ指導者C級
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
事前・事後指導	2018年7月1日	教育実習事前・事後指導講義内で使用する講義資料を作成
教職実践演習	2018年12月1日	教職実践演習講義内で使用する講義資料を作成

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
【人はなぜ暴力をふるうのか】をテーマに運動部活動で生起している体罰問題について研究活動を実施し、研究ノートを作成した。 【野外教育に埋め込まれた学習】をテーマに野外教育活動の有効性について研究活動を実施した。 【種目横断的ボール運動の活用】をテーマにバレーボールの普及活動に向けたフランスの取り組みを調査した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
体育・スポーツ系教員養成大学における教職課程コアカリキュラムを取り入れた授業検討の試み	共著	2019年2月	桐蔭スポーツ科学第2巻2019	共著 佐藤豊・木原洋一・佐藤国正・田村幸久・吉原昌子・遠藤純二	pp.33-43

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター)地域型バレーボールクラブの運営に関する一考察－MOUVEMENT VOLLEY-BALL LYSSOISの取り組みに着目して－	2019年3月	日本バレーボール学会、第24回日本バレーボール学会	
○その他			
(その他特記事項)			
書評:【アメリカの大学スポーツ腐敗の構図と改革への道】を担当(2018年9月)			

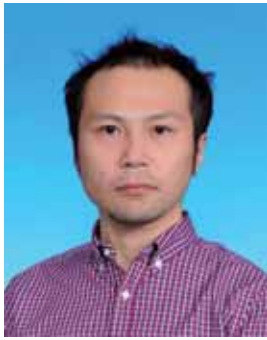
Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本体育・スポーツ哲学学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本オリンピックアカデミー、日本オリンピック委員会、日本バレーボール協会

Ⅳ芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子バレーボール部監督)			
2018年度春季関東大学バレーボールリーグ戦4部Aリーグ	2018年4月	東京学芸大学	4部Aリーグ:1位:5勝
2018年度春季関東大学バレーボールリーグ戦4部リーグ順位決定戦	2018年5月	成蹊大学	4部リーグ総合2位 秋季リーグ3部リーグ昇格
2018年度 神奈川県大学バレーボール リーグ戦1部	2018年6月	神奈川大学	1部リーグ4位:1勝3敗 天皇杯神奈川予選出場権獲得
第37回東日本大学 バレーボール選手権大会	2018年6月	墨田区総合体育館	2回戦敗退
平成30年度天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 神奈川県予選	2018年7月	小田原アリーナ	準決勝敗退
2018年度秋季関東大学バレーボール リーグ戦3部Aリーグ	2018年9月	中央学院大学	3部Aリーグ:4位:2勝3敗
2018年度秋季関東大学バレーボール リーグ戦3部リーグ 順位決定戦	2018年10月	中央大学	3部リーグ総合7位(12チーム) リベロ賞:長尾咲季
2018年度神奈川県大学バレーボール トーナメント戦	2018年11月	神奈川大学	2回戦敗退

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
 単位取得後退学
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体
 育政策」から「スポーツ政策」への転換－
 専門分野：スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 非常勤講師：東洋大学、東京有明医療大学
 受賞・表彰：

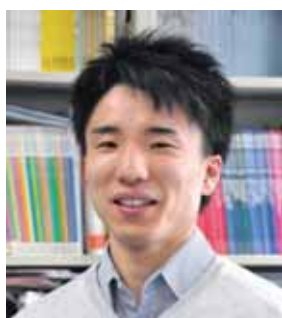
I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
映像を用いた実技授業	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法・剣道コーチング論)において、習得すべき技術を映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。
レポートによる種目特性の習得	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法)において実技技能以外の種目特性の習得のためレポートの作成等の工夫を行っている
映像を用いた授業	2014年4月～現在	地域スポーツ経営論において地域スポーツの現状を把握するために映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

尾 山 裕 介(おやま ゆうすけ) 助教



出 生 年 : 1989(平成1)年
 在 籍 : 2018年(平成30)年4月～
 最 終 学 歴 : 新潟大学大学院現代社会文化研究科人間形成研究専攻
 修了
 学 位 : 博士(学術)
 学 位 論 文 : 中高齢者を対象とした転倒予防に基づく動的姿勢制御能力の
 評価法の確立
 専 門 分 野 : 応用健康科学、測定評価学、健康づくり
 前 職 : 医療法人宮仁会 猫山宮尾病院事務部健康づくり課
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 健康運動指導士、温泉利用指導者、2級フィットネスクラブ・
 マネジメント技能士、高等学校教諭専修免許(保健体育)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 日本体育学会測定評価専門分科会優秀発表賞(2013年8
 月、2015年8月)、日本体育測定評価学会優秀発表賞
 (2016年3月)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
高齢者の転倒予防を目的とした動的姿勢制御能力(足踏み動作)について研究を進めた。それらの成果を日本体育学会(8月)、日本体力医学会(9月)、日本体育測定評価学会(3月)で発表した。今後は、転倒との関連を明らかにできるように、足踏み動作による転倒リスクの評価法の確立を目指す。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
運動量の違いが動的姿勢制御能力および身体機能に及ぼす影響	共著	2019年2月	桐蔭スポーツ科学2巻	尾山裕介、村山敏夫、太田玉紀	1-8頁
女性中高齢者における静止立位姿勢が不安定面上での足圧中心移動能力および立位姿勢保持能力に及ぼす影響	共著	2019年3月	体育測定評価研究18巻	尾山裕介、村山敏夫、太田玉紀	56-69頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(ポスター)足踏み動作における床反力と主観的疲労度との関連—中高齢者を対象とした縦断的検討—	2018年8月	日本体育学会第69回大会(徳島大学/徳島県徳島市)	尾山裕介、原光希、村山敏夫、太田玉紀		
(ポスター)前後および左右方向へ生じる床反力を用いた足踏み動作の安定性評価	2018年9月	第73回日本体力医学会大会(アオッサ・ハピリン/福井県福井市)	尾山裕介、原光希、村山敏夫、太田玉紀		
(口頭)横浜市青葉区の取り組み～なぜ青葉区は平均寿命日本一のまちになれたか～	2019年1月	地域デザイン学会温泉文化フォーラム(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	尾山裕介		
(口頭)女性中高齢者における床反力波形パターンの分類による足踏み動作の定量化	2019年3月	日本体育測定評価学会第19回大会(札幌国際大学/北海道札幌市)	尾山裕介、亀岡雅紀、坂口雄介、村山敏夫、原光希、太田玉紀		

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
子どもからシニアまで楽しめる運動	2018年11月18日	横浜市青葉区	青葉区役所(横浜市)
○その他			
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
健康寿命を考える[下] 仲間と一緒に 楽しく走る 運動効果 何歳になっても	2019年1月19日(朝刊)	読売新聞(神奈川版)	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会 日本体力医学会 日本体育測定評価学会 日本健康支援学会 地域デザイン学会 文理シナジー学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015年4月～現在	地域デザイン学会 温泉文化フォーラム 運営委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
ウォーキングイベントの実施	2018年5月12日、2018年11月23日	横浜市青葉区との連携事業(共同主催)

大学院 法学研究科 (Graduate School of Law)

溝 上 慎 一 (みぞかみ しんいち) 特任教授



出 生 年 : 1970(昭和45)年
 在 籍 : 2018年9月～
 最 終 学 歴 : 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程 教育心理学専攻修了
 学 位 : 京都大学博士(教育学)学位取得
 学 位 論 文 : 青年の自己感情とそれを規定する自己の諸相—青年の内在的視点と固有の文脈を考慮して—
 専 門 分 野 : 心理学(現代青年期、自己・アイデンティティ形成、自己の分権化)と教育実践研究(学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジションなど)。
 前 職 : 京都大学高等教育研究開発推進センター 教授/教育アセスメント室長(教育学研究科兼任)
 学 内 役 職 等 : 学校法人桐蔭学園 理事長/トランジションセンター 所長・桐蔭横浜大学特任教授
 留 学 : オランダ・ナイメーヘン大学・在外研究員(2000年)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 日本青年心理学会学会賞 論文名「自己形成を促進させる自己形成モードの研究」

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
心理学の研究では、自己形成におけるアイデンティティ形成の機能を検討し、国際誌(Journal of Adolescence)に掲載された。科研費Bの課題、大学教育学会の課題研究として、大学におけるアクティブラーニングの効果検証をおこなってきた(大学教育学会誌に掲載)。ほか電通育英会と共催でおこなっている全国大学生のキャリア意識調査の10年間のまとめを出版した(『大学生白書2018』)。アクティブラーニングやトランジションに関する理論書も刊行した(『学習とパーソナリティ』)。ほかALやトランジションに関する共同研究もおこなった。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
教育心理学(教職教養講座第8巻)	共著	2018年5月28日	協同出版	楠見孝(編) 溝上慎一	pp.113-128
大学生白書2018 —いまの大学教育では学生を変えられない—	単著	2018年8月20日	東信堂	溝上慎一	
学習とパーソナリティ「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね!」をどう見るか(学びと成長の講話シリーズ)	単著	2018年10月15日	東信堂	溝上慎一	
(総説・論説)					
アクティブラーニングの効果検証—最終年の報告—	単著	2018年5月	大学教育学会誌, 40(1)	溝上慎一	27-28

(学術論文)					
The effect of attitudes toward lectures on learning outcomes mediated by attitudes toward active learning	共著	2018年	Educational Technology Research, 41	Koyama, A., & Mizokami, S	69-76
Do Japanese youth proactively form identities?	共著	2018年4月	An investigation of independent self formation. Identity, 18(2)	Mizokami, S., Côté, J. E., Eichas, K., & Toyokawa, T.	109-123
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
日本における探究学習と科学的リテラシー・情報リテラシーとの関係性の整理		2018年8月26日	日本教育情報学会第34回年会(松蔭大学)	登本洋子・溝上慎一・堀田龍也	
高校生を対象にしたキャリア教育におけるジョブシャドウイングの効果		2018年9月15日	日本キャリアデザイン学会第15回大会研究大会・総会(関西大学)	一蝶亮・登本洋子・溝上慎一	
大学生のリーダーシップ自己効力感に関する研究ー時間的・空間的視野に着目して		2018年	日本リーダーシップ学会第3回研究講演会	武田佳子・溝上慎一	
指定討論 相良順子企画公募シンポジウム指定討論「中高女子の自己評価と適応 3年間の縦断データから」		2018年9月26日	日本心理学会第82回大会(東北大学)	溝上慎一	
高等学校における探究的な学習についての整理		2018年9月29日	日本教育工学会第34回全国大会(東北大学)	登本洋子・溝上慎一・堀田龍也	
大学生のライフキャリアとワークキャリアーロールモデルを通じた考察		2018年10月27日	日本青年心理学会第26回大会(京都大学)	溝口侑・溝上慎一	
高校生のアイデンティティホライズンが大学進学、仕事へのトランジション、地元志向に及ぼす影響		2018年10月27日	日本青年心理学会第26回大会(京都大学)	溝上慎一	
指定討論 高坂康雅自主シンポジウム企画「公立小中一貫教育における子どもの発達と適応」		2019年3月17日	日本発達心理学会第30回大会(早稲田大学)	溝上慎一	
大学生のリーダーシップ自己効力感と高校・大学の経験との関連について		2019年3月24日	第25回大学教育研究フォーラム発表論文集, 271(京都大学)	武田佳子・溝口侑・溝上慎一	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
「アクティブラーニング型授業、キャリア教育の背景となる発達の理解」		2018年4月5日	花園学園研修講師		
「トランジションを見据えた組織的なアクティブラーニング型授業への転換」		2018年5月14日	帝塚山学院中学校高等学校講演		
「高大接続・トランジションに向けてのアクティブラーニング型授業の組織的推進」		2018年5月21日	清教学園研修		
「EDGEプログラムの教育効果を示すためにどのような測定をすればよいか」		2018年5月27日	日本ベンチャー学会 起業家教育推進委員会主催講演		
「アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点から個と協働の力をともに育てるー2030年以降を見据えた学校教育の社会的機能の転換ー」		2018年6月1日	秋田大学教育文化学部附属中学校主催公開研究会講演		

「基礎学力の定着に向けたアクティブラーニング型授業の発展」	2018年6月12日	滋賀県立玉川高等学校教員研修講師	
「トランジションを見据えたアクティブラーニング型授業への組織的転換」	2018年6月14日	久留米市立南筑高等学校講演	
「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」	2018年6月20日	2018年度立命館中学校・高等学校公開授業研究会記念講演	
「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の実現に向けてー新学習指導要領をふまえてー」	2018年6月21日	南丹市立園部中学校研究授業研修	
「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の組織的発展に向けてー新学習指導要領をふまえてー」	2018年6月22日	大阪府立岸和田高等学校校内研修	
「進学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて」	2018年6月28日	静岡高等学校研修会	
「アクティブラーニングを活かした授業改善について」	2018年7月3日	向日市立向陽小学校校内研修会	
「「基礎力定着」とは？ー事業3年目を迎えてー」	2018年7月6日	第1回山形県高等学校基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業検討会議	
「高大接続・トランジションに向けての教育改革」	2018年7月14日	多摩大学目黒中学校・高等学校講演	
「仕事・社会へのトランジション、資質・能力の育成を見据えた主体的・対話的で深い学びへの転換」	2018年8月2日	舞鶴教育講演会	
「トランジション・レクチャー」	2018年8月6日	リーダー育英塾講演	
オープニングセッション「2030年社会と学校教育ー2日間のキーワードの基礎的理解」、リフレクションセッション「生徒学生を学び育てるトランジション方略ー「変わらない」から「変える」へ」	2018年8月10日	未来のマナビフェス主催	
「人の発達をふまえた学校教育を再構築するー授業改革とキャリア教育ー」	2018年8月11日	第二回ユマニテク短大キャリア教育フォーラム講演	
「「Thinking Design」「Critical Thinkingの授業」から組織的なアクティブラーニング型授業の推進について」	2018年8月23日	立命館守山中学校・高等学校教員研修会	
「アクティブラーニング型授業の組織的推進ー生徒学生を学び育てるトランジションリレーへー」	2018年8月24日	岐阜県立加納高等学校講演会	
「意味ある対話(関わり)によるインタラクション」	2018年8月29日	静岡サレジオ夏季教職員研修会	
「「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて」	2018年8月30日	横浜創英中学・高等学校 平成30年度全教職員研修	
「学生が学び成長するアクティブラーニング型授業の組織的実現を目指して」	2018年9月6日	長崎国際大学講演	
「進学校におけるアクティブラーニング型授業の実現に向けて」	2018年9月12日	静岡市立高等学校構内研修会	

「心の地平を拓げる“アイデンティティホライズン”が生徒のキャリア発達・学習をどの程度促すか」	2018年9月19日	2018年度花園中学高等学校アクティブラーニング型授業実践研究会記念講演	
「トランジションをふまえたアクティブラーニング型授業への転換－新学習指導要領をふまえて－」	2018年9月20日	舞鶴市小学校校長会講演	
「著者と語る:『大学生白書2018－いまの大学教育では学生を変えられない－』」	2018年9月25日	日本記者クラブ主催記者会見	
「『トランジション』と『キャリア教育』と『アクティブラーニング』を絡めて『なぜ今、アクティブラーニングか』」	2018年10月2日	大手前高松中学・高等学校講演	
「日本の大学が人材を育てられない理由がわかってきた」	2018年10月5日	ビデオニュース・ドットコム主催マル激トーク・オン・ダイヤモンド第913回	
「トランジションを実現する生徒の学びと成長のキュラムアセスメント」	2018年10月6日	河合塾学びみらいPASS活用事例報告会コメント	
「アクティブラーニングと対話的な学び－フレームの発展を目指して－」	2018年10月7日	アクティブラーニング実践フォーラム2018基調講演(日本青少年育成協会主催)	
「アクティブラーニングの効果検証と高大接続・トランジション」	2018年10月16日	藤田保健衛生大学第3回医学情報教育講演会	
「アクティブラーニング型授業の展開と学校改革」	2018年10月18日	沼津市立沼津高等学校・中等部第1回公開授業・講演会	
「高校・大学・仕事/社会へのトランジションリレー－若者のトランジション研究の最前線－」	2018年10月20日	法政大学大学院キャリアデザイン学研究所公開セミナー講師	
「生徒の学びが変わる授業づくり公開授業研究会2」基調講演「アクティブラーニングのその先に」	2018年11月3日	大妻嵐山中学校・高等学校	
「トランジションリレーに向けた高大接続改革と外化としてのアクティブラーニング」	2018年11月8日	竹中工務店学校法人向けセミナー基調講演	
「商業科(広告と販売促進)」	2018年11月9日	静岡市立清水桜が丘高等学校講評	
「協同学習の視点から学校から仕事・社会へのトランジションを考える」	2018年11月17日	日本協同教育学会第15回大会記念講演	
「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」実践研究校(山形県立庄内総合高等学校)に係る公開研究会講演「新学習指導要領のターゲットイヤー2030年社会を見据えて求められる高校生の学力－庄内総合高校の成果をふまえて－」	2018年11月22日	文部科学省	
「トランジションリレーを見据えたアクティブラーニング型授業の実現」	2018年11月28日	福知山公立大学講演	
「国語科(国語総合)」	2018年11月29日	大阪府立岸和田高等学校講評	
「トランジションを目指したアクティブラーニング型授業の実現－しなやかなマインドセットへの転換－」	2018年12月4日	大阪高等学校講演	
「児童・生徒のトランジションを見据えた学校教育改革」	2019年1月28日	東京学芸大学大学院講義	

「探究活動とAL型授業の相乗効果を高めるカリキュラム・マネジメント」	2019年1月31日	静岡県都市立合同研修会講演会	
「子供・大人(高齢者)の成長に資する他者/社会と外化ーアクティブラーニング改革と社会に関わる学校づくりを目指してー」	2019年2月13日	まちと学校のみらいFOCAS第7回講演	
「アクティブラーニング型授業の組織的導入ー背景と方法ー」	2019年2月14日	岐阜聖徳学園大学FD研修会講演	
「教育を捨てて教育に戻れ！ー大学の授業研究からトランジションをにらんだ生徒学生の学びと成長へー」	2019年3月24日	第25回大学教育研究フォーラム(京都大学)特別講演	
「大学の学びを見据えた高校での学び」	2019年3月26日	大阪大学高等教育・入試研究開発センターシンポジウム基調講演	
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
大学生調査アドバイザー	2007年～現在	公益財団法人 電通育英会	
研究顧問	2018年～現在	学校法人河合塾教育イノベーション本部	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
学生エンゲージメントを高める教授・学習環境に関する総合的研究	2018年4月～2021年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会) 基盤研究(C) 分担	
高校生の深い学びのメカニズムの解明と理論化ー高大接続研究の観点からー研究課題	2018年4月～2023年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会) 基盤研究(B) 分担	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
連載第1回:アクティブラーニングも主体的・対話的で深い学びも、ポイントは外化にあり	2018年4月1日	『教育科学 国語教育』No.820	
主体的・対話的で深い学びーポイントは外化の実現ー(次期学習指導要領改訂のポイントをどう考えるか①)	2018年4月5日	『教育新聞』	
連載第2回:外化を促してこそ深い学びであり資質能力の育成である	2018年5月1日	『教育科学 国語教育』No.821	
連載第3回:全員の子どもに外化を促すワークシートベースの授業	2018年6月1日	『教育科学 国語教育』No.822	
連載第4回:アクティブラーニング型授業における教師と生徒の関係性と生徒の身体化	2018年7月1日	『教育科学 国語教育』No.823	
連載第5回:アクティブラーニング型授業における生徒同士の学び合い	2018年8月1日	『教育科学 国語教育』No.824	
理系は高大一貫教育	2018年8月27-28日	共同通信より『東奥日報/京都新聞/北海道新聞/室蘭民報/埼玉新聞/中日新聞/北陸中日新聞/神戸新聞/高知新聞/徳島新聞/佐賀新聞』	
連載第6回:枠をふまえて枠を越えることが期待される進学校のアクティブラーニング型授業	2018年9月1日	『教育科学 国語教育』No.825	

思考力や資質・能力を育てるアクティブラーニングー頭の中の可視化(外化)	2018年9月	『作業療法ジャーナル』No.52 No.10
小論文ブックポート『溝上慎一著:アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』	2018年9月	『学研・進学情報』第51巻第6号
連載第7回:前理解としてのイメージと理解としてのことば	2018年10月1日	『教育科学 国語教育』No.826
小中学校へのアクティブラーニング施策の意義	2018年10月	『季刊 理想』No.129
教育改革を進める次世代リーダー育成の場:リーダー育英塾始動	2018年10月	『IKUEI NEWS』Vol.84
高校教育は生徒学生の資質・能力を育てる最後の主戦場	Nov・Dec 2018年	『カレッジマネジメント』
連載第8回:深い学びを促す「比較」という技法ー自己ー他者の構図ー	2018年11月1日	『教育科学 国語教育』No.827
連載第9回:帯活動でアクティブラーニングへの身体化を促し、資質・能力を育てる	2018年12月1日	『教育科学 国語教育』
連載第10回:アクティブラーニングの評価	2019年1月1日	連載第10回:アクティブラーニングの評価
Book Review 小針誠著『アクティブラーニング学校教育の理想と現実』	2019年1月	『IDE(現代の高等教育)』
連載第11回:アクティブラーニング評価論の第一はマイクロレベルの形成的評価	2019年2月1日	『教育科学 国語教育』No.830
アクティブラーニングの十章(上)	2019年2月6日	『教育新聞 電子版』
「生徒」と「自分」の社会参加の在り方を考えてほしい	2019年2月10日	『Career Guidance』Vol.426(50th Anniversary)
連載第12回(最終回):トランジションの観点から見たアクティブラーニング評価	2019年3月1日	『教育科学 国語教育』No.831
アクティブラーニングの十章(上)ートランジションの証明ー	2019年3月28日	『教育新聞』

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本授業UD学会, 日本教育心理学会, 日本青年心理学会, 日本発達心理学会, 大学教育学会, 日本教育工学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2018年～現在	中央教育審議会専門委員
2006年～現在	大学教育学会理事
2012年～現在	Journal of Adolescence ³ Editorial Board委員
2018年～現在	学校法人河合塾教育研究開発本部研究顧問
2014年～現在	産業能率大学AP実行委員会外部委員
2016年～現在	大阪府立大学大学再生加速プログラム(AP)外部評価委員
2017年～現在	大阪大学大学院人間科学研究科外部評価委員
2014年～現在	京都市立西京高等学校SGH運営指導委員

大学院 工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本 恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
 前職 :
 学内役職等 : 研究推進部副部長(2011～)
 大学院アドミッション委員(2012～)
 環境エネルギー学環 研究推進チームメンバー(2011～)
 留資格 :
 学格 : 第一種情報処理技術者
 日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999～)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞
 建設施工と建設機械シンポジウム2014 論文賞
 建設施工と建設機械シンポジウム2017 優秀論文賞
 日本非破壊検査協会 平成30年度学術奨励賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
基礎情報処理	2015年4月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。大学院授業で使用。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「世界中のコンクリート欠陥探査の常識が変わる！？ -最新 非接触音響探査法のすべて-」	2014年9月27日～	学園祭フロンティアセミナーにおける講演、非接触音響探査法に関する最新Topic(参加者、理数科約30名)(2014年より4年連続担当)
4.その他教育活動上特記すべき事項		
「風も無いのに葉っぱが揺れる？」 おもしろ理科教室	2013年～	パラメトリック音源を用いた音響放射圧の実験(2013年より6年連続担当)
「音波に関する実験」 桐蔭高校理数科課題研究	2013年～2018年	パイプを用いた楽器作り(共振)、各種音源特性(指向性)等の実験(2013年より5年連続担当)
「非接触音響探査法に関する研究」 桐蔭高校サイエンスプログラム	2018年～	非接触音響探査法を用いた実験及び研究

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
・農工融合計測 1. 植物映像のゆらぎ解析による作物給水ニーズの推定(基盤C、分担研究者3年目、H28.4-H31.3) ・非破壊計測 1. 非接触音響探査を用いたコンクリートの強度評価に関する研究(基盤C、分担研究者2年目、H29.4-R02.3) 2. マルチロータ型ヘリコプターを用いた非接触音響探査法に関する研究(若手B、協力研究者2年目、H29.4-R02.3) 3. 非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討(国土交通省 建設技術研究開発助成制度H29.8-H31.3) 4. 軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討(合同研究 プロテック株 H28.9-H31.8) 5. 音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他作業の指導(東電)(奨学寄付金 佐藤工業株 H29.10-H30.9) 6. UAVを用いた音波照射加振による浅層地中探査技術の基礎研究(防衛装備庁、安全保障技術研究、研究代表者1年目、H30.11-R03.3) 7. 耐火煉瓦に対する非接触音響探査法の適用性に関する検討(合同研究、JFEスチール株、H30.12-R02.3) ・医用計測 1. AI解析を用いたコトコフ音波形による健康管理指標値の研究(基盤C、分担研究者1年目、H30.4-R02.3)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「音波照射加振を用いた遠距離からの非接触音響探査」	単著	2018年7月1日	No-Dig Today(環境にやさしい非開削技術) No.104	杉本恒美	10-16頁
「非接触音響探査法の欠陥検出アルゴリズムと高架橋における適用例」	単著	2018年10月1日	No-Dig Today(環境にやさしい非開削技術) No.105	杉本恒美	8-13頁
「衝撃弾性波法によるコンクリート内部欠陥の評価手法に関する最新の技術動向」	共著	2018年9月1日	非破壊検査(検査と材料評価)	高鍋雅則, 森雅司, 内田慎哉, 杉本恒美, 森和也	475-485頁
「非接触音響探査法による地下空洞天井部吹付けコンクリート欠陥検出技術の開発」	共著	2019年3月5日	電力土木 No.400 (2019年3月号)	森岡宏之, 本田 中, 歌川紀之, 杉本恒美	87-91頁
(学術論文)					
「Detection of internal defects of concrete structures based on statistical evaluation of healthy part of concrete by the noncontact acoustic inspection method」	共著	2018年6月23日	Jpn.J.Appl.Phys., Vol.57	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda, Akihiko Kawakami	07LC13
「非接触音響探査法による実コンクリート構造物に対する非破壊検査」	共著	2018年8月2日	コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム論文集・Vol.6	杉本恒美, 杉本和子, 歌川紀之, 川上明彦, 森岡宏之	235-240頁
「非接触音響探査法のための音響学的特徴量を用いた健全部の統計的評価による欠陥検出」	共著	2018年8月2日	コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム論文集・Vol.6	杉本和子, 杉本恒美, 歌川紀之, 黒田千歳	241-246頁
「縦挿し型送受信機を用いた土壌中の伝搬速度計測(3)」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	白川貴志, 内川千春, 大平武征, 中川裕, 佐野元昭, 杉本恒美	127-130頁
「植物の葉の固有振動数の日周変動を用いた灌水制御についての検討」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	内川千春, 杉本恒美, 佐野元昭, 大平武征, 中川裕, 白川貴志	121-126頁
「小松菜を定植した培養土中の音波伝搬速度と体積含水率の検討(II)」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	大平武征, 杉本恒美, 佐野元昭, 白川貴志, 中川裕, 内川千春	117-120頁

「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究—長距離計測の検討(Ⅱ)—」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	上地樹, 小菅信章, 杉本和子, 杉本恒美	111-116頁
「音波照射加振を用いた土木構造物のための高速非接触音響探査法に関する研究——マルチトーンバースト波のS/N比に関する検討(Ⅱ)——」	共著	2018年8月29日	桐蔭論叢第38号	小菅信章, 上地樹, 杉本和子, 杉本恒美	105-109頁
「非接触音響探査法を用いた軟性容器の内部腐敗ガス検出に関する研究」	共著	2018年12月1日	日本包装学会誌 Vol.27 No.6	川井重弥, 中川裕, 杉本恒美	409-423頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「音源搭載型UAVを用いた非接触音響探査法による外壁検査に関する検討」	2018年5月29日	物理探査学会第138回(平成30年度春季) 早稲田大学国際会議場	杉本恒美 , 杉本和子, 上地樹, 歌川紀之, 黒田千歳		
Detection of internal defects of concrete for noncontact acoustic inspection method using healthy part extraction	2018年6月12日	12th European Federation for Non-Destructive Testing (ECNDT) Swedish Exhibition & Congress Centre (Gothenburg, Sweden)	Kazuko Sugimoto and Tsuneyoshi Sugimoto		
Study on applicability of noncontact acoustic inspection method to shotcrete with rough surface	2018年6月12日	12th European Federation for Non-Destructive Testing (ECNDT) Swedish Exhibition & Congress Centre (Gothenburg, Sweden)	Tsuneyoshi Sugimoto and Kazuko Sugimoto		
「非接触音響探査法による吹付けコンクリートにおける欠陥検出」	2018年7月4日	第40回コンクリート工学会 神戸ファッションマート	杉本恒美 , 杉本和子, 黒田千歳, 森岡宏之		
Inner Defect Detection for Concrete Structure by Noncontact Acoustic Inspection Method including Statistical Evaluation of Healthy part of Concrete	2018年7月11日	6th Japan-US NDT Symposium Hawaii convention Center	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda, Akihiko Kawakami		
Defect Detection of Shotcrete with Rough Surface by Noncontact Acoustic Inspection Method	2018年7月11日	6th Japan-US NDT Symposium Hawaii convention Center	杉本恒美 , 杉本和子, 黒田千歳, 森岡宏之		
「非接触音響探査法を用いた軟性容器の内部ガス検知方法の研究」	2018年7月13日	日本包装学会 第27回年次大会発表会 東大弥生講堂	川井重弥, 中川裕, 杉本恒美		
「CCDカメラを用いた葉の固有振動解析による植物の水ストレス状態の推定2」	2018年8月30日	超音波研究会 東京工業大学田町キャンパス CIC多目的室2	佐野元昭, 内川千春, 大平武征, 中川裕 白川貴志, 杉本恒美		
「非接触音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発—空間スペクトルエントロピーによるレーザドップラ振動計の共振周波数帯の検出—」	2018年8月31日	土木学会第73回年次学術講演会 北海道大学	杉本和子, 杉本恒美 , 森岡宏之, 中川貴之, 黒田千歳		
「非接触音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発—長距離計測に関する検討(Ⅲ)—」	2018年8月31日	土木学会第73回年次学術講演会 北海道大学	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 小菅信章, 川上明彦, 歌川紀之		

「非接触音響探査法を用いた欠陥探査技術の開発－音源搭載型UAVによる外壁検査に関する検討－」	2018年8月31日	土木学会第73回年次学術講演会 北海道大学	杉本恒美, 上地樹, 杉本和子, 歌川紀之, 黒田千歳
「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究－音源搭載型UAVを用いた外壁検査の効率化に関する検討－」	2018年9月14日	日本音響学会・2018年秋季研究発表会 大分大学	杉本恒美, 杉本和子, 上地樹, 歌川紀之, 黒田千歳
「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究－空間スペクトルエントロピーによる共振周波数の検出－」	2018年9月14日	日本音響学会・2019年秋季研究発表会 大分大学	杉本和子, 杉本恒美, 歌川紀之, 黒田千歳
「音波振動を用いた植物の育成状態評価に関する検討」	2018年9月20日	日本生物環境工学回2018年 東京大会 東京農工大・府中キャンパス	杉本恒美, 佐野元昭, 内川千春, 大平武征, 中川裕, 白川貴志
「CCDカメラを用いた葉の固有振動計測による植物の水分ストレスの検出2」	2018年9月21日	日本生物環境工学回2018年 東京大会 東京農工大・府中キャンパス	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
「Study of amount of gas in soft container using the noncontact acoustic inspection method」	2018年10月23日	IEEE International Ultrasonic Symposium (IUS) 2018 Waraku, Portpia hotel, Kobe	Shigeya Kawai, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
「Detection effect of resonance frequency of laser Doppler vibrometer and internal defect of concrete structure by spatial spectral entropy」	2018年10月25日	IEEE International Ultrasonic Symposium (IUS) 2018 Waraku, Portpia hotel, Kobe	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Outer wall inspection using acoustic irradiation induced vibration from UAV for noncontact acoustic inspection method」	2018年10月25日	IEEE International Ultrasonic Symposium (IUS) 2018 Ikuta, Portpia hotel, Kobe	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Itsuki Uechi, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Study on internal gas detection method of soft container using non-contact acoustic inspection method」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Paulownia Hall, Toin Gakuen Academium B2F	Shigeya Kawai, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
「Study on inspection of Plastic bottle cap using sound wave」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Yutaka Nakagawa, Shigeya Kawai, Tsuneyoshi Sugimoto
「Study on the relation between propagation velocity of sound and volume water content in the culture soil where Komatsuna was planted(II)」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Chiharu Uchikawa
「Propagation velocity in soil using Handheld Sound Source and Sensors(IV)」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Chiharu Uchikawa, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
「Natural frequency measurement of plant leaf using image analysis」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Chiharu Uchikawa, Motoaki Sano, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto

「Study on non-contact acoustic inspection method for concrete non-destructive inspection,-Study about long distance measurement(III)-」	2018年10月27日	13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Itsuki Uechi , Tsuneyoshi Sugimoto
「High speed noncontact acoustic inspection method using sound source mounted type UAV for the outer wall inspection」	2018年10月30日	The 39th Symposium. on UltraSonic Electronics (USE2018) Kanbaikan, Doshisya Univ	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Itsuki Uechi, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「An analysis of natural frequency of leaf by the fluctuation of CCD camera image and the estimation of water stress of plant」	2018年10月30日	The 39th Symposium on UltraSonic Electronics (USE2018)	Motoaki Sano, Chiharu Uchikawa, Yutaka Nakagawa, Takeyuki Ohdaira, Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto
「Detection of resonance frequency by spatial spectral entropy for noncontact acoustic inspection method」	2018年10月31日	The 39th Symposium on UltraSonic Electronics (USE2018) Kanbaikan, Doshisya Univ.	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討 ―音源搭載型ドローンを用いた外壁点検(1)―」	2018年11月15日	日本非破壊検査協会 平成30年度秋季講演大会 神戸商工会議所	杉本恒美 , 上地樹, 杉本和子, 歌川紀之, 黒田千歳
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討 ―高架橋における30mを超える長距離計測(2)―」	2018年11月15日	日本非破壊検査協会 平成30年度秋季講演大会 神戸商工会議所	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 川井重弥, 歌川紀之, 黒田千歳, 川上明彦
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討 ―空間スペクトルエントロピーによる欠陥検出アルゴリズム―」	2018年11月15日	日本非破壊検査協会 平成30年度秋季講演大会 神戸商工会議所	杉本和子, 杉本恒美 , 上地樹, 川井重弥, 歌川紀之, 黒田千歳
「非接触音響探査法を用いた軟性容器内容物粘度の容器外部からの測定に関する研究」	2019年2月22日	超音波研究会 桐蔭横浜大学	川井重弥, 中川裕, 杉本恒美
「コンクリート構造物に対する非接触音響探査法に関する検討 -大規模橋梁に対する長距離計測-」	2019年2月22日	超音波研究会 桐蔭横浜大学	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 川井重弥, 歌川紀之, 黒田千歳, 川上明彦
「CCDカメラ画像の矩形領域化による葉の固有振動数解析と植物の水ストレス推定」	2019年3月5日	音響春季研究発表会 電気通信大学	佐野元昭, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 中川裕, 杉本恒美
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 ―長距離計測に関する検討(II)―」	2019年3月5日	音響春季研究発表会 電気通信大学	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 川井重弥, 歌川紀之, 川上明彦
「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究 ―空間スペクトルエントロピーによる実構造物の内部欠陥の検出―」	2019年3月5日	音響春季研究発表会 電気通信大学	杉本和子, 杉本恒美 , 歌川紀之, 黒田千歳
「非接触音響探査法を用いた軟性容器内容物粘度の非破壊検査に関する研究」	2019年3月5日	音響春季研究発表会 電気通信大学	川井重弥, 中川裕, 杉本恒美
「非接触音響探査法のための空間スペクトルエントロピーを用いた複合材料の内部欠陥の検出と映像化」	2019年3月7日	安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム 金沢勤労者プラザ	杉本和子, 杉本恒美
「UAVからの音波照射加振による外壁の非接触音響検査」	2019年3月8日	安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム 金沢勤労者プラザ	杉本恒美 , 杉本和子, 上地樹, 歌川紀之, 黒田千歳

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討(招待講演)」	2018年5月17日	第2回建築ドローンシンポジウム「建築×ドローン2018」	建築会館ホール
「世界中のコンクリート欠陥検査の常識が変わる!?! 最新 非接触音響探査法のすべて」	2018年9月23日	2018桐蔭学園フロンティアセミナー	桐蔭学園高等学校
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
非接触音響解析システム及び非接触音響解析方法	2018年5月9日	特願2018-090807	出願人:学校法人桐蔭学園、佐藤工業(株)、(株)日本サーキット (杉本恒美, 上地樹、杉本和子、歌川紀之、黒田千歳)
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
合同研究「軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討」	2016年9月～2019年8月	(株)プロテック 合同研究費1425万円(直接1296万、間接129.6万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導」	2017年8月～2018年7月	佐藤工業(株) 寄付金額162万円(直接146万、間接16万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導(本四架橋)」	2017年10月～2018年9月	佐藤工業(株) 寄付金額108万円(直接97.2万、間接10.8万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導」	2018年6月～2019年5月	佐藤工業(株) 寄付金額108万円(直接97.2万、間接10.8万)	
合同研究「耐火煉瓦に対する非接触音響探査法の適用性に関する検討(合同研究)」	2018年11月～2020年3月	JFEスチール(株) 合同研究費108万円(直接97.2万、間接10.8万)	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
基盤研究(C)「植物映像のゆらぎ解析による作物給水ニーズの推定」	2016年度～2018年度	文部科学省科研費、研究代表者:佐野元昭、分担研究者: 杉本恒美 約380万円(間接経費114万)	
基盤研究(C)「非接触音響探査を用いたコンクリートの強度評価に関する研究」	2017年度～2019年度	文部科学省科研費、研究代表者:大平武征、分担研究者: 杉本恒美 、杉本和子 約370万円(間接経費111万)	
若手研究(B)「マルチロータ型ヘリコプターを用いた非接触音響探査法に関する研究」	2017年度～2019年度	文部科学省科研費、研究代表者:上地樹、協力研究者: 杉本恒美 、杉本和子 約310万円(間接経費93万)	
国土交通省 建設技術研究開発助成制度「非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討」	2017年度～2018年度	国土交通省 建設技術研究開発助成制度、研究代表者: 杉本恒美 、分担研究者:歌川紀之 770万円(間接経費230万)×2年	
基盤研究(C)「AI解析を用いたコトコフ音波形による健康管理指標値の研究」	2018年度～2020年度	文部科学省科研費、研究代表者:片山富美代、分担研究者: 杉本恒美 約310万円(間接経費93万)	
防衛装備庁 安全保障技術研究、「UAVを用いた音波照射加振による浅層地中探査技術の基礎研究」	2018年度～2020年度	防衛装備庁 安全保障技術研究、研究代表者: 杉本恒美 、分担研究者:歌川紀之 約1000万円(間接経費300万)×3年	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
12th European Federation for Non-Destructive Testing (ECNDT) 出席&座長&口頭発表	2018年6月9日～6月17日	Swedish Exhibition & Congress Centre (Gothenburg, Sweden)	

6th Japan-US NDT Symposium 出席&座長 &口頭発表	2018年7月7日～7月14日	Hawaii convention Center (Honolulu, Hawaii, USA)
(その他特記事項)		
物理探査学会第138回(平成30年度春季)学術講演会・座長 2018年5月28日 10:00-12:00 第1会場 セッション(土木3・防災2)		
Session chair 12th European Federation for Non-Destructive Testing (ECNDT) Swedish Exhibition & Congress Centre (Gothenburg, Sweden) Civil Infrastrucure & Concrete(J1), 13:30-14:50, 2018/06/13 Peter Ulriksen (Lund Univ.) and Tsuneyoshi Sugimoto		
Session Chair of 6th Japan-US NDT Symposium 2018/7/10		
「平成30年度建設技術研究開発助成制度採択」 2018年8月27日		
「日本音響学会・2018年秋季研究発表会・座長」 2018年9月13日		
「平成30年度安全保障技術研究推進制度採択」 2018年8月31日		
「Presider(Frontier Engineering, 13th Toin BME Symposium)」 2018/10/27		
「日本非破壊検査協会・平成30年度秋季講演大会・座長」 2018年11月15日		
「安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム・座長」 2019年3月8日		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会、日本コンクリート工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員
2014年3月1日～現在	日本音響学会 アコースティックイメージング研究委員会 委員
2017年4月～2023年3月	電子情報通信学会 超音波研究会専門委員(任期6年)
2019年3月～現在	日本非破壊検査協会 新素材部門幹事

桜井 智野風 (さくらい ともお) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科保健体育学専攻修了
 学位：博士(運動生理学), 教育学修士
 学位論文：「運動による骨格筋損傷とその治癒過程における一酸化窒素の関与」(博士論文)
 専門分野：運動生理学, スポーツ科学, トレーニング科学
 前職：東京農業大学 生物産業学部 准教授
 学内役職等：大学院スポーツ科学研究科研究科長
 留学：アメリカ・ウィスコンシン州立大学マディソン校キネシオロジー学部 客員研究員(1999～2000)
 資格：小学校教諭一種免許, 中学校教諭一種免許(保健体育), 高校学校教諭専修免許(保健体育), 日本体育協会公認コーチ(陸上競技), 国際陸上競技連盟 レベル I 講師
 非常勤講師：青山学院大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学の基礎と発展 (フリースペース)	2002年4月～	運動生理学の教科書として使用.
パソコンで学ぶ元気で生きる健康科学 (三共出版)	2011年4月～	体育実技の教科書として使用.

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
損傷を引き起こした骨格筋における女性ホルモンであるエストロゲンの関与について研究を進めている。2018年度はHSP70の関連を観察することにより、損傷筋の修復過程における性差について動物実験も踏まえて検討した。エストロゲン投与した雄ラットは、損傷筋の修復過程で早期からHSP70発現を促進することがわかり、国際学会にて発表した。このことから、損傷筋の修復過程には男女差が存在することが示唆できる。今後はこの成果をもとに、女性の筋損傷をいかにマネジメントしていかなくてはならないかについて研究を継続する。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
実践で学ぶ学生の社会貢献	共著	2018年9月	成文堂	加藤知生、 桜井智野風 、田中暢子、松本格之助、吉田勝光	pp.93-98、pp.139-142、pp.199-275
(学術論文)					
常圧低酸素環境下での高強度インターバルトレーニング血糖値に及ぼす影響	共著	2018年4月	桐蔭スポーツ科学 Vol.1,	桜井智野風 , 滝野彩, 出口雅樹, 高木純	pp.19-24

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
Influence of various forms of pressure stimulation on skeletal muscle condition	2018年6月	79st American College of Sports Medicine Annual Meeting	M.Deguchi and T. Sakurai
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
講演「代謝を上げる筋トレ、効率的な有酸素運動」	2019年2月21日	網走市	網走市保健センター
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「平成29年度 エクセレントティーチャー」	2018年4月	桐蔭横浜大学	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科研費	2018年4月～2021年3月	基盤研究C 「女性の性周期を考慮した筋痛マネジメントプログラムの開発」	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
第65回アメリカスポーツ医学会(American College of Sports Medicine)での発表	2018年5月28日～6月3日	ミネアポリス(アメリカ)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
掲載:運動神経のいい、悪いは、大人でも解決できる!?	2018年5月17日	Tarzan No. 741 (マガジンハウス)	
女子フィギア新時代	2019年1月12日	朝日新聞『be on Saturday』	
(その他特記事項)			
陸上競技の強化・普及を目的としたテレビ出演:日本テレビ・関東学生陸上競技対抗選手権大会解説者(2016、2017、2018、2019年度)			
サンデーLive(テレビ朝日:12月16日放映) 女子フィギアの4回転ジャンプ新時代			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会, 日本体力医学会, 日本トレーニング科学会(理事), 日本生理学会, 日本臨床生理学会, 日本発育発達学会, 日本生気象学会, 日本健康医学会, 日本宇宙航空環境医学会, 日本陸上競技学会(理事), 日本スプリント学会, 日本スポーツ健康科学学会(理事), American College of Sports Medicine(アメリカスポーツ医学会)	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	日本トレーニング科学会理事

2012年4月～現在	日本陸上競技学会理事	
2014年4月～現在	日本生理学会評議員	
2014年4月～現在	日本体力医学会評議員	
2015年4月～現在	日本生気象学会事務局長	
2018年4月～現在	(一社)日本健康増進学術機構 構成員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国の小学生・中学生対象の陸上競技教室における講師	2014年4月～現在	日本陸上競技連盟普及育成委員会

澁倉 崇行 (しぶくら たかゆき) 教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)心理発達科学専攻修了
 学位：博士(心理学)
 学位論文：「高校運動部員の心理的ストレスに関する研究:部活動ストレスモデルの構築と介入プログラムの作成」(博士論文)
 専門分野：スポーツ心理学
 前職：新潟県立大学人間生活学部准教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育),メンタルトレーニング指導士,アンガーマネジメントファシリテーター
 非常勤講師：国士舘大学,尚美学園大学
 受賞・表彰：日本体育学会学会賞(平成26年度)(共著者)

II 研究活動

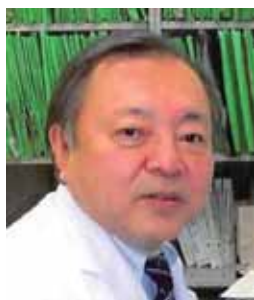
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
実践で学ぶ！学生の社会貢献:スポーツとボランティアでつながる	共著	2018年9月	成文堂	田中暢子, 澁倉崇行 , 他多数	193-198頁
(学術論文)					
子供のスポーツ活動を支援する保護者の負担感に関する研究:支援の因子構造および性差の検討(査読付)	単著	2018年9月	桜門体育学研究, 第53巻第1号	澁倉崇行	pp.59-67
学生の栄養摂取状況に関連する要因の解明:性別と居住形態に焦点を当てて(査読付)	共著	2018年9月	日本衛生学雑誌, 第73巻第3号	笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 澁倉崇行	pp.395-412
高校運動部員のストレスマネジメントに関わる実践的研究:「部活動ストレス-適応モデル」に依拠した介入プログラムの実施とその評価(査読付)	単著	2018年10月	スポーツ産業学研究, 第28巻第4号	澁倉崇行	pp.307-320
高校運動部活動における心理社会的スキルの日常生活への般化:3時点での交差遅れ効果モデルによる検討(筆頭論文)(査読付)	共著	2018年12月	体育学研究, 第63巻第2号	澁倉崇行 , 西田保, 佐々木万丈, 北村勝朗, 磯貝浩久	pp.563-581

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
青少年スポーツ活動における保護者の問題行為の発生機序と対処過程(研究代表者)	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金:基盤研究(B), 日本学術振興会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本教育心理学会, 日本健康心理学会, 日本ストレスマネジメント学会, 日本スポーツ産業学会, 日本コーチング学会

瀬戸口 靖 弘 (せとぐち やすひろ) 教授



- 出 生 年 : 1955(昭和30年)
 在 籍 : 2018年4月1日
 最 終 学 歴 : 島根医科大学医学部医学科
 学 位 : 医学博士
 学 位 論 文 : Intraperitoneal in vivo gene therapy to deliver a1-antitrypsin to the systemic circulation
 専 門 分 野 : 内科学、分子生物学、ゲノム医学、健康医学
 前 職 : 東京医科大学医学部呼吸器内科学分野教授
 学 内 役 職 等 : 大学院スポーツ研究科教授 大学院スポーツ研究科専攻長
 留 学 : 米国National Institutes of Health (NIH), National Heart Lung and Blood Institute, Pulmonary branch (1991年2月-1993年8月)
 資 格 : 医師、日本内科学会認定医/指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医/指導医、日本医師会認定産業医、日本がん治療認定医機構認定医/指導医、呼吸機能障害認定指定医、東京都難病指定医、厚生労働省医政局長認定臨床研修医指導医、厚生労働省医政局長認定緩和ケア医、医療系大学間試験実施機構認定共用試験医学系OSCE評価者、NIH Completion Certificate of a program of collaborative research experience as a fellow
 非 常 勤 講 師 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 特任教授、東京医科大学医学部呼吸器内科学分野兼任教授、順天堂大学医学部呼吸器内科非常勤講師
 受 賞 ・ 表 彰 : 日本呼吸器学会学術部会最優秀賞(2018.4), Best Doctors in Japan (2018-2019)(2017-2018)(2016-2017)(2015-2016)(2014-2015)(2013-2014)(2012-2013)(2011-2012), 東京医科大学稲垣教育賞(2014,2011,2010)、岡本敏肺線維症研究奨励賞(2006)、順天堂大学医学部Best Tutor賞(2002), Respiratory Molecular Cell Biology研究奨励賞(1997,1995), 免疫Forum賞(1996), 第106回米国医学会年次総会Young Investigator Award(1993), 米国Fogarty International財団Visiting Scientist Fellowship award (1991)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
画像、動画を活用した授業	2018年4月-2019年3月	日常目に触れることない細胞内器官、筋肉の動きなどを動画を使い授業内で解説
2.作成した教科書、教材、参考書		
健康医学入門	2018年4月-7月	健康の概念、健康行政、幼少期、青年期、中高年期の健康維持とスポーツの関係、障害者スポーツの意義等の教科書を作成
生理学	2018年9月-1月	細胞レベル生理機構から各臓器の機能についての書き込み式の教科書を作成
生活習慣病	2018年9月-1月	生理学の知識を基に生活習慣病の発症の理解を促すと共に生活習慣病予防のために栄養管理と身体活動の重要性を書き込みをしながら学修できるような教科書を作成

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
<p>1.10年来 予後不良な難病である肺線維症の病因解明のために発症原因となる遺伝子異常の探索をおこない小児、成人を含め8種類の遺伝子とその変異20箇所の変異を同定してきた。2018年度は、治療に向けた発症機序に向けた解析のために京都大学医学部と疾患iPS細胞作成を行い、疾患肺細胞への分化またゲノム編集による変異部分の修復研究を行ってきた(複数海外論文準備中)。</p> <p>2). 生活環境で発症する慢性過敏性肺炎の発症促進因子の探索でマクロファージや肺上皮細胞に発現し、炎症に制御に重要な役割を担っているUbiquitousな蛋白の遺伝子多型の一つが肺活量低下と関わっていることを明らかにしてきた(海外論文準備中)。</p> <p>3). 加齢と運動能力の観点から促進因子と抑制因子についてのgenetic 或いはepigeneticな要素の研究の準備を行ってきた。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
画像から学ぶびまん性肺疾患	単著	2018年	克誠堂出版	瀬戸口靖弘	104-118
最新多因子遺伝性疾患研究と遺伝カウンセリング	単著	2018年	メディカルドゥ	瀬戸口靖弘	158-164
間質性肺炎・肺線維症と類縁疾患	共著	2018年	中山書店	瀬戸口靖弘、片柳慎司	26-35
第112回医師国家試験問題解説	単著	2018年4月	メディクメディア	瀬戸口靖弘	1-598
Question Bank2019 呼吸器	単著	2018年4月	メディクメディア	瀬戸口靖弘	1-425
呼吸器Select	単著	2018年4月	テコム出版(医学評論社)	瀬戸口靖弘	1-311
(学術論文)					
間質性肺炎の疾患遺伝子と過敏性肺炎		2018年	アレルギー・免疫 25巻	片柳慎司、瀬戸口靖弘	94-103頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Pulmonary Physiological and Genetic Characteristics in Adult-Onset Familial Interstitial Pneumonia (FIP)	2018年5月	American Thoracic Society International Conference 2018 (米国 San Diego)	Setoguchi Y, Ishiwari M, Kitagawa S		
Comorbid interstitial lung diseases and collagen vascular diseases in pulmonary alveolar proteinosis: a nationwide surveillance in Japan	2018年5月	American Thoracic Society International Conference 2018 (米国 San Diego)	Inoue Y, Setoguchi Y, et al.		
Fatal cases of pulmonary alveolar proteinosis: a nationwide surveillance in Japan	2018年9月	European Respiratory Society International Conference (フランス Paris)	Inoue Y, Setoguchi Y, et al.		
成人発症特発性間質性肺炎に於ける発症責任遺伝子同定と臨床的、画像的、呼吸生理学的特徴	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会シンポジウム(大阪国際会議場/大阪市)	瀬戸口靖弘(シンポジスト)		
特発性間質性肺炎の成因に関する責任遺伝子同定から遺伝性間質性肺炎へ	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会(大阪国際会議場/大阪市)	瀬戸口靖弘(教育講演)		
気道上皮由来因子から検討した喫煙が喘息に与える影響	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会(大阪国際会議場/大阪市)	河越淳一郎、瀬戸口靖弘		
睡眠呼吸障害を伴った特発性間質性肺炎の臨床的特徴	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会(大阪国際会議場/大阪市)	笠木聡、瀬戸口靖弘		

感染症の自己免疫性肺胞蛋白症の全国調査報告	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会 (大阪国際会議場/大阪市)	荒井徹、井上義一、瀬戸口靖弘
肺胞蛋白症難治化要因:間質性肺炎、膠原病関連疾患合併症に関する全国調査	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会 (大阪国際会議場/大阪市)	井上義一、瀬戸口靖弘
PD-L1発現割合とその他の因子の関連性	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会 (大阪国際会議場/大阪市)	鳥山和俊、瀬戸口靖弘
Complex sleep apneaの長期的治療動向についての検討	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会 (大阪国際会議場/大阪市)	中山秀章、瀬戸口靖弘
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
特発性間質性肺炎から遺伝性間質性肺炎へ	2018年4月	第58回日本呼吸器学会総会 教育講演	大阪
実臨床に於けるCOPD治療のLAMA/LABA 配合剤の使い方	2018年6月	川崎COPD研究会	川崎市
たばこ健康被害と禁煙治療	2018年6月	DNP健康講座	DNP社内会議室(新宿区)
家族性間質性肺炎の責任遺伝子同定から間質性肺炎の発症機序と治療への展望	2018年9月	京都大学医学部	京都大学病院
インフルエンザ予防と治療の最新情報	2018年11月	中野区医師会	中野区医師会館
肺線維症の早期発見の糸口	2018年12月	東京IPF研究会	中野区医師会館
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
日本呼吸器学会学術部会最優秀研究賞	2018年4月	日本呼吸器学会第58回総会	瀬戸口靖弘
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費助成事業(学術振興会)	2016年4月-2019年3月	科学研究補助金基盤研究C(代表研究者)網羅的エクソーム解析を用いた希少肺疾患の責任遺伝子同定	
科学研究費助成事業(学術振興会)	2017年4月-2020年3月	科学研究補助金基盤研究C(分担研究者)アスパラギン残基の脱アミド化反応による慢性閉塞性肺疾患発症のメカニズムの解明	
科学研究費助成事業(学術振興会)	2015年4月-2019年3月	科学研究補助金基盤研究C(分担研究者)呼吸器誘発肺障害におけるaquaporinの役割	
日本医療研究開発機構(AMED)難治性疾患 実用化事業	2016年4月-2019年3月	研究開発費「肺胞蛋白症診療に直結するエビデンス創出研究」分担研究	
日本医療研究開発機構(AMED)再生医療	2016年4月-2019年3月	研究開発費「ヒト疾患特異的iPS細胞を用いた遺伝子研究」研究協力	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
American Thoracic Society International Conference Symposium 発表	2018年5月	米国San Diego	

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
タバコの害はわかっているのになぜ禁煙できないのか？	2019年1月	健康ライフ
(その他特記事項)		
テレビ朝日 ワイドスクランブル出演 インフルエンザ予防 2018年		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本肺癌学会、日本臨床がん治療学会、日本サーファクタント界面医学会、日本遺伝子細胞治療学会、禁煙学会、American thoracici society, European Respiratory Society, Asian Pacific Respiratory Society		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015-現在	Respiratory Investigation Board Member	
2008-現在	日本サーファクタント界面医学界学術誌 編集委委員	
2004-現在	日本呼吸器学会代議員	
2003-現在	日本サーファクタント界面医学界 理事	
2008-現在	日本アレルギー学会 代議員	
2008-現在	日本呼吸器内視鏡学会 国際化委員	
2000-現在	日本内科学会 関東監事	
2008-現在	新宿区公害認定審査委員	
2008-現在	新宿区公害医療報酬審査委員	
2010-現在	環境省公害認定疑義解釈検討委員	
2000-現在	Young Chest Conference 代表幹事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
青葉区スポーツ振興協議会 健康増進講演と肺年齢測定	2018年6月	青葉区健康推進課 青葉区スポーツ振興協議会

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学 位 : 医学博士(順天堂大学)、体育学修士(日本体育大学)
 学 位 論 文 : Effects of swimming and weight loading on bone density and mechanical properties of femoral bone in mice
 専 門 分 野 : 環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前 職 : 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
健康科学関連教材冊子の作成	2008年4月～	衛生学・公衆衛生学、健康教育学の教科書として使用
体育・スポーツ科学における調査・研究の方法とその解析	2010年4月～	学部専門演習、修論指導の教材として使用
4.その他教育活動上特記すべき事項		
東京農業大学学位論文学外審査委員	2015年、2018年	京農業大学大学院環境共生学専攻博士過程学位論文の学外審査委員を務めた。

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。2020年東京オリンピックの対策については検討課題として取り組んでいる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
実践で学ぶ！学生の社会貢献—スポーツとボランティアでつながる—	共著	2018年10月	成文堂(東京)	田中暢子他編:星秋夫(熱中症対策分担)	pp261-264
(学術論文)					
2020年東京パラリンピックにおける屋外競技場のWBGT予測	共著	2018年6月	日本スポーツ健康科学誌5(1)	森田恭光、櫻村修生、菌部正人、南和広、柏木朋也、星秋夫	pp35-42
熱中症対策について	単著	2018年8月	CHSNews 興研、No.713	星 秋夫	pp4-6

熱中症対策について	単著	2018年9月	日本繊維状物質研究 学術集会抄録集 日 本繊維状物質研究会	星 秋夫	pp16-22
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
(特別講演)熱中症について	2018年8月23日	日本繊維状物質研究学術集 会			
一過性の運動時における酸化ストレスと呼吸 中水素ガスの関連性について	2018年8月27日	日本スポーツ健康科学学会 第6回大会	沼野達博、 星秋夫 、廣瀬立朗、 樫村修生		
日傘を夏期屋外イベントに利用するための熱 中症予防対策の基礎的研究	2018年8月27日	日本スポーツ健康科学学会 第6回大会	菌部正人、樫村修生、島崎あか ね、 星秋夫		
2020東京オリンピック屋外競技場における WBGTの予測	2018年10月28日	第57回日本生気象学会大会	菌部正人、樫村修生、島崎あか ね、 星秋夫		
○講演会・研修会・セミナー講師					
農林水産省・平成30年度農作業安全組織計 画・運営研修会	2018年6月8日	農林水産省	農林水産省		
○その他					
(産学協同研究)					
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称			
ボールルームダンス選手の特性と技術力向上 に関する研究	2018年4月～現在	日本ボールルームダンス連盟			
(補助金・助成金等)					
ボールルームダンス選手の特性と技術力向上 に関する研究	2018年4月～現在	日本ボールルームダンス連盟			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～現在	日本生気象学会会長
2013年2月～2019年3月	日本スポーツ健康科学学会会長
2018年4月～現在	日本ボールルームダンス連盟科学委員会委員長
2009年3月～現在	日本生気象学会熱中症予防委員会委員
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法(使用者側)
 前 職 : 桐蔭横浜大学客員教授
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2014～)
 留 学 :
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書					
レジュメの配布		2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した(科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。		
4.法律実務教育に関する特記事項					
講演:「今、コンプライアンスに何が求められているか」		2018年7月	株式会社ティーガイア 主催		
講演:「次世代リーダーのためのコンプライアンス経営」		2018年9月	次世代リーダーズキャンプ 2018 主催		
講演:「ベネッセの対応を教訓とした情報漏洩対策と事後対応の在り方について」		2019年1月	Rakuten Direct株式会社 主催		
講演:「企業におけるコンプライアンス経営とは何か～間違いだらけのコンプライアンス経営より」		2019年3月	生活行政情報研究会 主催		
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
間違いだらけのコンプライアンス経営	単著	2018年9月	イーストプレス	蒲俊郎	
(学術論文)					
「近時多発する不祥事を受けてコンプライアンス経営実践のポイント」	単著	2018年6月	みずほ総合研究所「BUSINESS TOPICS」	-	1-20頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
コンプライアンス経営に対する誤解について		2019年2月	桐蔭コンプライアンス・リサーチ教育センター第5回シンポジウム	蒲俊郎	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員	
2006年3月～現在	ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社 監査役
2007年8月～現在	株式会社ケイブ 監査役
2013年6月～現在	株式会社ティーガイア 監査役
2014年6月～現在	学校法人桐蔭学園 理事
2015年3月～現在	株式会社ピアラ 監査役
2015年6月～現在	一般財団法人東京都営交通協力会 理事
2017年4月～現在	株式会社J.SCORE 監査役

久保利 英明 (くぼり ひであき) 教授



出生年：1944(昭和19)年
 在籍：2015(平成27)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：コーポレートガバナンス及びコンプライアンス、M&A、株主総会運営、金融商品取引法、独禁法等企業法務、知的財産権(特にエンターテインメント・ビジネスや通信・放送ビジネス等)
 前職：大宮法科大学院大学教授、桐蔭法科大学院客員教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士
 (日比谷パーク法律事務所代表/第二東京弁護士会)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
レジュメの配布	2014年4月～	全ての講義でオリジナルのレジュメを配布し、講義内容に合わせた文献等の資料を用意した。
ゲストスピーカーの招聘	2014年4月～	独自の人脈により、第一線で活躍する方々をゲストとして呼びし、法曹の魅力を伝えた。また、受講者以外にも広く聴講を認め、多くの学生に参加の機会を与えた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
共著： 『現役弁護士が司法試験を解いてみた～AI時代にこれでいいのか』	2018年4月	現役弁護士数名で実際に司法試験問題を解き、その経験を元に行ったシンポジウムを書籍にまとめ、講義でもとりあげた。
4.法律実務教育に関する特記事項		
新潟株式懇話会	2018年4月6日	「最新の株主総会運営と企業不祥事の予防と対策」
株式会社商事法務/総会議長セミナー	2018年6月7日	「役員のための総会運営法」
一般社団法人長野県経営者協会	2018年7月6日	「事例に学ぶ最新の不祥事対応」
公益社団法人日本監査役協会/ 監査役スタッフ全国会議	2018年9月13日	「もはや前例踏襲の時代ではない —内部統制も監査役スタッフも—」
株式会社商事法務/トップ・マネジメントセミナー	2018年10月3日	「役員に求められる企業経営の常識 ～実務からのアプローチ～」
日本記者クラブ/記者ゼミ	2018年10月18日	「企業のコンプライアンス、ガバナンスの現状、第三者委員会」
日本公認会計士協会東京会/ 女性会計士活動促進プロジェクトチーム	2018年11月18日	「『破天荒弁護士』が語る女性社外役員のミッション」

SMBCビジネスセミナー	2019年2月12日 2019年3月19日	「企業風土の構築と革新に向けて ——地盤と風土がガバナンスとコンプライアンスの礎」
商事法務 2019年株主総会準備対策講座	2019年2月14日(東京) 2019年2月27日(福岡)	「企業不祥事の防止と発生した不祥事への対応」
日本取引所自主規制法人 上場会社セミナー	2019年3月5日	「不祥事をどう防ぐか」

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
現役弁護士が司法試験を解いてみた～AI時代にこれでいいのか	共著	2018年4月	現代人文社		
上村達男先生古稀記念 公開会社法と資本市場の法理	共著	2019年1月	商事法務	尾崎 安央・川島 いづみ・若林 泰伸 編	287-322頁
経営の技法	共著	2019年1月	中央経済社		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
札幌弁護士会/法曹養成シンポジウム パネリスト	2018年10月3日	札幌弁護士会	札幌弁護士会館5階大会議室		
ワールド・ビジネス・ロー講義 「世界と日本のコンプライアンスと弁護士」	2018年11月16日	一橋大学法科大学院 岡田和樹先生講義 ゲストスピーカー	一橋大学法科大学院		
第5回桐蔭CRECシンポジウム 「コンプライアンスと経営」基調講演、パネリスト	2019年2月5日	桐蔭法科大学院	桐蔭法科大学院		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
文部科学省/倫理研修	2018年8月28日	「原理と道徳と倫理の間で」 ——国家公務員の在り方——	文部科学省		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
社外取締役を含む取締役会の機能不全 —トップの知らない不祥事の頻発と内部統制システムの欠陥—	2018年4月号掲載	信託フォーラム			
夕刊フジ「特別インタビュー」	2018年5月6日号掲載	夕刊フジ			
『企業法務革命』 書評	2018年10月号掲載	中央経済社「ビジネス法務」			
私の流儀——ファッション・余暇・ライフスタイル	2018年11月号掲載	日本弁護士連合会「自由と正義」			

ポスト平成時代のコーポレート・ガバナンス	2019年1月1日号掲載	旬刊経理情報
厚労省「統計不正」問題に関するコメント	2019年1～2月	NHKニュース コメント放映、朝日新聞、日経新聞、毎日新聞、共同通信ニュースなど
平成の記憶・平成の企業不祥事	2019年1月24日紙面掲載	毎日新聞
平成30年間の総括とポスト平成の展望	No.693(2019年3月25日号)掲載	月刊監査役 巻頭言「羅針盤」

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
法と経済学会, 租税訴訟学会, 日本法社会学会, 日本内部統制学会, 法とコンピュータ学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2006年9月～現任	金融庁総合政策局(旧名称:総務企画局)参事(法令等遵守調査室顧問)	
2008年6月～現任	農林中央金庫 経営管理委員	
2011年6月～現任	東京証券取引所グループ(現 日本取引所グループ)取締役(社外)	
2014年6月～現任	ソースネクスト株式会社 取締役(社外)	
2017年5月～現任	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク理事	
2018年4月～現任	コインチェック株式会社 取締役(社外)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
ロースクールと法曹の未来を創る会 代表	2014年5月～	ロースクールと法曹の未来を創る会
第三者委員会報告書格付け委員会 委員長	2014年4月～	第三者委員会報告書格付け委員会

熊田 彰英 (くまだ あきひで) 教授



出生年：1969(昭和44)年12月25日
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部
 学位：法学士
 学位論文：
 専門分野：刑事法, 刑事実務, 国際司法, 危機管理・コンプライアンス
 前職：法務省大臣官房秘書課(検事)
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士(熊田総合法律事務所)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実際の事件・実務を意識した教育	2014年4月～	毎回、判例・時事問題のほか、自らが実務で担当した事件等について適宜言及し、現在習得しようとしている理論・知識が将来実務においてどのような形で役立つか、また、いかなる場面で必要か、学生が具体的なイメージを持てるよう適宜工夫している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
2017年度桐蔭横浜大学エクセレントティーチャー受賞	2018年4月	

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
ニュースコメンテーター (2014年7月～)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
平成28年4月～	国際委員会

IV 法律実務に関する活動

会の名称	年月日	場所	内容等
弁護士	2014年4月～現在	熊田総合法律事務所	司法実務

中島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出生年 : 1955(昭和30)年
 在籍 : 2007(平成19)年4月～
 最終学歴 : 東京大学法学部
 学位 :
 学位論文
 専門分野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前職 : 東京高等裁判所判事
 学内役職等 : 法科大学院専攻科長
 留学 :
 資格 : 弁護士(中島肇法律事務所)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
少人数での双方向の授業		
2.作成した教科書、教材、参考書		
裁判実務体系「破産法」		
4.法律実務教育に関する特記事項		
前職時代は、裁判所書記官研修所教官として、「訴訟法理論と調書理論の交錯」		

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略
法科大学院のCRECコンプライアンスシンポジウムで講演

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験審査委員(商法)	
	全農福岡パールライス株式会社不適正取引調査委員会・委員長	
	原子力損害と公共政策センター・センター長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等	
	弘済事業株式会社民事再生手続申立代理人(東京地方裁判所)	
	国際書房民事再生事件申立代理人(東京地方裁判所)	
	破産事件管財人多数(東京地方裁判所)	

福井康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2012(平成24)年4月～
最終学歴：学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
学位：博士(法学)
学位論文：「国民投票の研究」(博士論文)
専門分野：直接民主制・憲法訴訟・選挙運動規制
前職：大宮法科大学院教授
学内役職等：法務研究科法務専攻長(2012～2014)
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略

憲法改正国民投票の比較研究を行う。欧米の収容実施国の憲法改正国民投票の運用実態を調査し、日本の憲法改正国民投票の運用の在り方を考察する。とくに、憲法改正案の作成方法を重点的に研究する。本研究は、憲法改正国民投票という題で、出版を計画している。現在、出版に向けての最終作業に入っている。

○講演会・研修会・セミナー講師

題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
憲法改正国民投票における広告の役割	2018年9月20日	マスコミ倫理研究会全国大会	京王プラザホテル(札幌市)
憲法改正国民投票におけるTVCMの役割	2019年3月16日	東海テレビ	東海テレビ局スタジオ(名古屋市)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

憲法理論研究会、比較憲法学会

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学法学部法律学科
 学位：
 学位論文：
 専門分野：刑事法、労働法、会社商事関係全般等
 前職：
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4. 法律実務教育に関する特記事項		
司法修習委員会		指導全般(模擬裁判立会い等)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年5月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2007年6月～現在	(株)フェイス 社外監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会(現(一財)楠田育英会) 常務理事

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年6月～現在	コロムビアミュージックエンタテインメント(株)(現 日本コロムビア(株)) 監査役
2014年4月～現在	家事調停委員(東京家庭裁判所 所属)
2014年9月～現在	トーセイ・リート投資法人 監督役員
2015年4月～現在	(学)清泉女子大学 評議員
2015年8月～現在	(株)クオレ・シー・キューブ ハラスメント対策委員会 実行委員長
2016年6月～現在	日通商事(株) 社外監査役
2016年12月～現在	(一財)軽井沢風越学園設立準備財団 評議員
2017年4月～現在	(学)東邦大学 非常勤講師
2017年6月～現在	(一社)日本ゲーミング協会 理事
2018年3月～現在	(一社)サーキュラーエコノミー推進機構 監事
2018年6月～現在	(株)はるやまホールディングス 社外取締役
2018年10月～現在	財務省 コンプライアンス推進会議 アドバイザー
2019年3月～現在	ライオン(株) 社外取締役

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963(昭和38)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 東京大学法学部
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 会社法・商法
 前職 : 三菱商事株式会社勤務(1987～1999)
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的に行われるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上のための議論に参加した。		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年 : 1974(昭和49)年1月9日
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 明治大学法学部
 学位 : 法学士
 学位論文 :
 専門分野 : 知的財産法, 企業法務, 広告規制法
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメの作成		教科書を使用する科目でもすべてオリジナルレジュメを作成しているが、特に「債権回収と担保」では、教科書を指定せず、講義に耐える自作レジュメを作成し、そのみでの講義を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2014年4月～現在	工業所有権審議会臨時委員(特定侵害訴訟代理業務試験委員)

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月～
最終学歴 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
学位 : 法務博士
学位論文 :
専門分野 :
前職 :
学内役職等 : 法科大学院教育助手
留学 :
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井理予 (おくい みちよ) 専任講師



出生年 : 1972(昭和47)年
 在籍 : 2005(平成17)年4月～
 最終学歴 : 広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学位 : 博士(薬学)
 学位論文 : ダウン症関連領域からクローニングされたMNB遺伝子の発現解析
 専門分野 : 分子生物学、細胞生物学
 前職 : 慶応義塾大学医学部助手
 学内役職等 :
 留学 : St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資格 : 薬剤師免許
 公認スポーツファーマシスト
 非常勤講師 : 国立大学法人電気通信大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公認スポーツファーマシスト	2016年4月1日～現在	

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略			
<p>これまでに行った研究において、DNA修復に関与する遺伝子(<i>Brca2</i>, <i>Xrcc2</i>, <i>Lig4</i>)の脳特異的欠損マウスを作製し、これらのマウスが高頻度に髄芽腫を発症することを報告した。また、これらマウスから髄芽腫細胞株を樹立し、PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAとして3種類のmicroRNA(miR-X, miR-Y, miR-Z)を同定した。2018年度からは、miR-X, miR-Y, miR-Zの機能解析を進め、ヒト乳がん細胞株にmiR-X, miR-Y, miR-Zをトランスフェクションした結果、アポトーシスが誘導されることを明らかにした。現在、miR-X, miR-Y, miR-Zがアポトーシスを誘導するメカニズムを調べている。</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(ポスター発表) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAの同定	2019年3月22日	日本薬学会第139年会(幕張メッセ、ホテルニューオータニ 幕張/千葉県千葉市)	奥井理予、Helen R. Russell、Peter J. McKinnon
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金 基盤研究(C) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAを用いたTNBC治療法の開発	2018年4月～2021年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会(American Association for Cancer Research)

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2018(第13回)

The 13th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2018

日時:2018年10月27日(土)9:30~18:00

場所:桐蔭学園アカデミウム

Program

Plenary session —invited speakers—

Session 1 : Engineering Innovation For Future Healthcare

Dr. James Goh, Ph.D.

Professor and Head

Department of Biomedical Engineering, Faculty of Engineering

National University of Singapore, SINGAPORE

Session 2 : Potential of MicroRNAs and Epigenetic Agents for Cancer Cells Reconditioning

Dr. Luc Gailhouste, Ph.D.

Division of Cellular and Molecular Medicine

National Cancer Center Research Institute, JAPAN

Session 3 : Modern Technology Based Health Care Solutions for The Rural Areas of Developing Countries

Dr. Syed Ghufra Hashmi

Post Doctoral Researcher

School of Science and Technology

Aalto University, FINLAND

Session 4 : From Gold Mining to Data Mining – Big Data Analytics and Lifelong Healthcare

Dr. Wenxi Chen

Professor

Biomedical Information Technology Laboratory

The University of Aizu, JAPAN

Oral presentation

Presentation 1 : Mr. Januarana Hanung PRADITA

Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 2 : Ms. Tomoko OKU

Doctoral Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 3 : Mr. Shigeya KAWAI

Doctoral Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 4 : Dr. Sjeff VERBEEK

Guest Professor / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 5 : Ms. Kotomi AKATSUKA

Doctoral Student / Graduate School of Science, Tokyo University of Science

Presentation 6 : Mr. Yoshikazu SAWAGUCHI

Assistant Professor / Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 7 : Mr. Takanori MAENO

Researcher / Graduate School of Materials Science, Nara Institute of Science and Technology

Presentation 8 : Dr. Yoshinori HAYAKAWA
Ex-Professor / Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Poster presentation

BIOMEDICAL ENGINEERING — 24 posters

CLINICAL ENGINEERING — 24 posters

FRONTIER ENGINEERING — 9 posters

(イベント／学内)

第20回おもしろ理科教室

日時:2018年8月17日(金) 午前10時00分～午後3時00分

場所:桐蔭横浜大学 中央棟 他

対象:小学生以上および保護者の方々、その他どなたでも

実施テーマ

「運動で心臓がどれだけドキドキするのか？」

「ダンスを楽しもう」

「ブーメランを飛ばそう」

「さわれない黒いかべ！ 偏光って何だ？」

「太陽電池でオルゴールを鳴らそう♪」

「光る絵を作ってみよう！」

「光の力で絵を描こう！」

「コンピューター数字とコンピューターそろばん」

「風も吹いていないのに葉っぱがゆれる？」

「身近なもので楽器を作ろう」

「絵はがきに夏休みの思い出を描いてみよう！」

「縁の下の力持ち『三角形』建物を地震から守る」

「礼儀作法」

「Have Fun with English(英語村)」

「箸(はし)で橋(ハシ)を作ってみよう」

「安心安全カッターで作るサイエンスグラスアート」

「ペットボトルで遊ぼう」

「わくわく病院ごっこ」

「ミクロの世界を探険しよう！」

「ミクロのいきものクラフトワークショップ」

「折り紙飛行機を作って飛ばそう」

特別授業「太陽電池」

桐蔭学園中学校(男・女) & 中等教育学校 案内コーナー

(イベント／学外)

青葉バラウオーク

日時： 2018年5月12日(土) 9時30分～13時

場所： 美しが丘公園～荇子田太陽公園

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： ミニ講座(櫻井先生によるウォーキングのコツ)、コース解説、桐蔭の学生と一緒に荇子田太陽公園(バラ公園)目指しウォーキング、交流タイム。

第3回 花と緑で健康づくり講演会

日時： 2018年6月2日(土) 13時30分～16時

場所： たまプラーザテラス ゲートプラザ2Fプラーザホール

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： 講師：吉谷桂子氏(英国園芸研究家、ガーデニング&プロダクトデザイナー)
国吉純氏(園芸家、シュリエッタ・ガーデン代表)、他

大学で学ぼう生涯学習フェア(第一弾)

日時： 2018年7月8日(土)、9日(日) 11時～16時

場所： 神奈川県立図書館

主催： かながわ大学生涯学習推進協議会(県内68大学と県教育委員会、県立図書館生涯学習サポート課)

内容： 資料提供

かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア

日時： 2018年7月14日(土) 10時～17時30分

場所： そごう横浜店 新都市ホール

主催： かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア実行委員会(県、県教育委員会、参加大学、神奈川科学技術アカデミー、県内25大学・県内3社)

内容： 「体を測る」をテーマに、①医療現場で使われている超音波診断装置を使い、身体の中の臓器を見て頂く。②ヘモグロビン濃度の測定(アスリートコンディショニングチェック)③唾液でわかるストレスチェック、臨床検査技師がおこなう仕事について説明。

中高生のサイエンスキャリアプログラム

日時： 2018年8月2日(木) 10時30分～15時30分

場所： 桐蔭横浜大学 先端医用工学センター

主催： 県立青少年センター

内容： 医用工学部 米坂先生「医療系技術者について」講演。体験学習で「血液型・輸血検査の体験」蓮沼先生、「医療機器の操作体験」山内先生が行った。

子ども科学探検隊

日時： 2018年8月17(金) 10時～15時30分

場所： 桐蔭横浜大学

主催： 県立青少年センター

内容： 小学4年生から6年生が参加し、アカデミウム陪審法廷見学・英語村見学・おもしろ理科教室参加。

大学で学ぼう生涯学習フェア(第二弾)

日時： 2018年9月8日(土) 10時～15時30分

場所： かながわ県民センター

主催： かながわ大学生涯学習推進協議会(県内68大学と県教育委員会、県立図書館生涯学習サポート課)

内容： 記念講演 桐蔭横浜大学 宮坂力特任教授 『日本で生まれたプロペスカイト太陽電池の技術と世界の動向』を講演。
参加大学39校！資料配付・個別相談

ヨコハマ大学まつり

日時： 2018年9月30日(日) 10時～18時30分

場所： みなとみらい21地区 クイーンズスクエア

主催： ヨコハマ大学まつり実行委員会(県内28大学)

共催： 大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市

協力： 一般社団法人横浜みなとみらい21

内容： 市内参加大学が各団体ステージパフォーマンスを行ったり、教室で講座や実験・体験を行う。
本学はステージパフォーマンスでダンスサークル参加。魅力発信コーナーでは、吉田勝光ゼミ学生2名に本学の地域貢献活動の発表。

寺家ふるさとウォーク

日時： 2018年11月23日(祝) 9時～

場所： 桐蔭横浜大学～鶴見川沿い～寺家ふるさと村四季の家～水車小屋～鴨志田公園

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： ウォーキングをしながらモミジやイチョウ、ケヤキなどの紅葉を楽しみ、さらに学生とのコミュニケーションを計れる企画。

ウォーキングマップ作成

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： ①青葉さくらウォーク
②青葉バラウォーク
③寺家ふるさとウォーク
3マップ作成

青葉6大学連携講座

日時： 2018年11月18日(日) 13時～14時20分

場所： 青葉区役所4階401会議室

主催： 青葉区区政推進課企画調整係・青葉6大学

内容： 本学はスポーツ科学研究科 尾山裕介先生「子どもからシニアまで楽しめる運動」講演

2018年度前期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月12日～ 7月5日	10:40～ 12:10	12	18,000
02	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	4月10日～ 7月10日	13:00～ 14:30	12	18,000
03	日本書紀を読む(5)	寺田 恵子 (学習院女子大学非常勤講師)	5月14日～ 7月2日	10:40～ 14:30	12	18,000
04	イスラームとキリスト教の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	4月11日～ 6月13日	10:00～ 11:30	10	15,000
05	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	4月18日～ 7月11日	10:40～ 12:10	12	18,000
06	中級スペイン語	山城 リタ (スペイン語講師)	4月18日～ 7月11日	10:40～ 12:10	12	18,000
07	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	4月18日～ 7月11日	13:00～ 14:30	12	18,000
08	初級中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	4月9日～ 7月2日	14:40～ 16:10	12	18,000
09	中級中国語		4月9日～ 7月2日	13:00～ 14:30	12	18,000
10	初級(I)韓国語	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月20日～ 7月13日	14:40～ 16:10	12	24,000
11	中級(I)韓国語		4月20日～ 7月13日	13:00～ 14:30	12	24,000
12	中級(II)韓国語		4月20日～ 7月13日	10:40～ 12:10	12	18,000
13	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月17日～ 7月3日	13:00～ 14:30	12	18,000
14	英語で歌を歌おう	上山 美恵子 (ソプラノ歌手)	4月9日～ 7月2日	10:40～ 12:10	12	18,000
15	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月13日～ 7月6日	13:00～ 14:30	12	18,000
16	学びなおす英語 -上級程度-		4月13日～ 7月6日	14:40～ 16:10	12	18,000
17	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月19日～ 7月12日	13:00～ 14:30	12	18,000
18	Beginners English Conversation -初級英会話B-	メアリー高岡 (元カリタス女子短期大学講師)	4月10日～ 7月3日	13:00～ 14:30	12	18,000
19	Have fun in English. -中級英会話A-	ニコラス・チンサング (桐蔭学園講師)	4月16日～ 7月9日	10:40～ 12:10	12	18,000
20	Broaden Your Horizons! (自分の視野を広げる)-中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	4月19日～ 6月28日	10:40～ 12:10	9	13,500
21	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月19日～ 7月12日	10:40～ 12:10	12	18,000
22	特許翻訳講座(12) -特許翻訳と一般技術翻訳の違いを考える-	水野 麻子 (特許翻訳者)	4月21日・ 5月12日	10:40～ 14:30	4	6,000
23	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	4月12日～ 7月5日	10:40～ 12:10	12	18,000
24	朗読を楽しむ II		4月12日～ 7月5日	13:00～ 14:30	12	18,000
25	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄一生 (写真家)	4月10日～ 7月3日	10:40～ 12:10	12	24,000 (保険料等 別途500円)
26	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午後クラス)		4月10日～ 7月3日	13:00～ 14:30	12	24,000 (保険料等 別途500円)
27	たのしいフルーツアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月20日～ 7月13日	10:40～ 12:10	11	22,000

2018年度前期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座 番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月20日～ 7月13日	13:00～ 14:30	11	22,000
29	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	4月13日～ 7月13日	14:40～ 16:10	12	18,000
30	ちょこっとSALSA!		4月13日～ 7月13日	16:30～ 18:00	12	18,000
31	健康体操 -リズム&ストレッチ-		4月13日～ 7月13日	13:00～ 14:15	12	15,000
32	ゆっくりまなぶ体質改善の薬膳学 -基礎編-	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	4月25日～ 6月13日	13:00～ 14:30	4	6,000

2018年度後期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	10月2日～ 1月15日	13:00～ 14:30	12	18,000
02	日本書紀を読む(6)	寺田 恵子 (学習院女子大学非常勤講師)	11月5日～ 2月21日	10:40～ 14:30	12	18,000
03	イスラム教徒とキリスト教徒の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	10月3日～ 12月5日	10:00～ 11:30	10	15,000
04	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	10月3日～ 1月9日	10:40～ 12:10	12	18,000
05	中級スペイン語	山城 リタ (スペイン語講師)	10月3日～ 1月9日	10:40～ 12:10	12	18,000
06	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	10月3日～ 1月9日	13:00～ 14:30	12	18,000
07	初級中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	11月12日～ 3月18日	14:40～ 16:10	11	16,500
08	中級中国語		11月12日～ 3月18日	13:00～ 14:30	11	16,500
09	初級(I)韓国語	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月5日～ 1月11日	14:40～ 16:10	12	24,000
10	中級(I)韓国語		10月5日～ 1月11日	13:00～ 14:30	12	24,000
11	中級(II)韓国語		10月5日～ 1月11日	10:40～ 12:10	12	18,000
12	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月9日～ 1月8日	13:00～ 14:30	12	18,000
13	英語で歌を歌おう	上山 美恵子 (ソプラノ歌手)	10月1日～ 12月17日	10:40～ 12:10	12	18,000
14	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	10月5日～ 2月15日	13:00～ 14:30	12	18,000
15	学びなおす英語 -上級程度-	(桐蔭横浜大学教授)	10月5日～ 2月15日	14:40～ 16:10	12	18,000
16	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月11日～ 1月10日	13:00～ 14:30	12	18,000
17	Beginners English Conversation -初級英会話B-	メアリー高岡 (元カリタス女子短期大学講師)	10月2日～ 1月15日	13:00～ 14:30	12	18,000
18	Have fun in English. -中級英会話A-	ニコラス・チンサング (桐蔭学園講師)	10月1日～ 2月4日	10:40～ 12:10	12	18,000
19	Broaden Your Horizons! -中級英会話B-	ブラッド グレッジソン (桐蔭学園講師)	10月4日～ 2月14日	10:40～ 12:10	12	18,000
20	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月11日～ 1月10日	10:40～ 12:10	12	18,000
21	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	10月4日～ 1月17日	10:40～ 12:10	12	18,000
22	朗読を楽しむ II		10月4日～ 1月17日	13:00～ 14:30	12	18,000
23	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄一生 (写真家)	10月9日～ 2月12日	10:40～ 12:10	12	24,000 (保険料等 別途500円)
24	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午後クラス)		10月9日～ 2月12日	13:00～ 14:30	12	24,000 (保険料等 別途500円)
25	たのしいフルーツアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	10月12日～ 12月14日	10:40～ 12:10	9	18,000
26	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)		10月12日～ 12月14日	13:00～ 14:30	9	18,000
27	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	10月5日～ 2月15日	14:40～ 16:10	12	18,000

2018年度後期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座 番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	ちょこっとSALSA!	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	10月5日～ 2月15日	16:30～ 18:00	12	18,000
29	健康体操 -リズム&ストレッチ-		10月5日～ 2月15日	13:00～ 14:15	12	18,000
30	ゆっくりまなぶ体質改善の薬膳学 -漢方からみた体質改善の基本& 運動で健康長寿	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	10月3日～ 11月28日	13:00～ 14:30	4	6,000
31	運動で健康長寿	尾山 裕介 (桐蔭横浜大学助教)	10月3日～ 12月19日	10:40～ 12:10	12	18,000

桐蔭横浜大学学術交流レポート2018

2020年2月発行

発行人：佐藤宣践

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 学長室

〒225-8503

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://toin.ac.jp/univ/>
